

令和 2 年（2020 年）3 月

平成 30 年度 学生生活調査結果

まえがき

日本学生支援機構では、学生の生活状況を把握し、学生生活支援事業の充実を図るための基礎資料を得ることを目的として、平成16年度から隔年で「学生生活調査」を実施しています。本調査は、平成14年度までは文部科学省において実施していましたが、平成16年4月の日本学生支援機構（JASSO）の設立に伴い、文部科学省から業務が移管されました。

このたび、平成30年度の調査結果を取りまとめましたので、主に大学昼間部、短期大学昼間部及び大学院を中心に前回調査（平成28年度）との比較を行いながら、その調査の概要を説明します。

今回の調査は、前回調査と同様に大学学部、短期大学本科及び大学院の学生（通信課程、休学者及び外国人留学生を除く。）を調査対象とし、各種の条件下における学生の標準的な学生生活費とこれを支える家庭の経済状況、学生のアルバイト従事状況など学生生活状況を把握することを主眼として、全国2,968,471人から94,998人を抽出し、平成30年11月現在で実施したものです。

調査の方法は、大学・短期大学の別、昼間部・夜間部の別、大学院修士課程・博士課程・専門職学位課程の別、設置者（国公私）の別に従ってそれぞれ抽出率を定め、サンプル数を算出し、各大学、短期大学にサンプル数を割り当てて（一部区分については全数調査により）調査を依頼しました。回収率は45.7%、有効回答数は43,394人で、本文に紹介する資料に掲げる数値は、この標本調査の結果を基礎として、全国の調査対象学生総数についての数値を推定した結果となっています。

学生生活に伴う問題は広範かつ複雑で、この調査で取り上げたことに尽きるものではありませんが、この調査結果が学生生活に関心を寄せられる方々の参考になれば幸いです。

末筆ながら、本調査に回答いただいた学生の皆様、本調査の実施に際して多大なご協力をいただいた全国の各大学及び各短期大学の関係者の皆様をはじめ、ご助言ご協力をいただきました関係者の方々に深く感謝申し上げます。

令和2年3月

独立行政法人 日本学生支援機構

目 次

まえがき

I. 調査実施方法等について	1
II. 調査結果の概要	2
1. 学生生活費（学費と生活費の合計）	4
2. 設置者別の学生生活費	5
3. 居住形態別の学生生活費	7
4. 学生の収入状況	8
5. 家庭の年間平均収入額	10
6. アルバイト従事状況	11
7. 奨学金の受給状況	12
8. 片道通学時間	13
9. 週間平均生活時間	15
10. 大学の学生支援体制への満足度	18
11. 学生の不安や悩み	19
III. 識者所見（*）	
○ 学生に対する経済的支援制度の変化と課題 濱中 義隆（国立教育政策研究所 副部長・総括研究官）	23
○ アルバイト状況 岩田 弘三（武蔵野大学 教授）	31
○ 「大学生の不安や悩み」と諸支援の利用状況について 望月 由起（日本大学 教授）	39
IV. 集計表	
1-1表 居住形態別・収入平均額及び学生生活費の内訳（大学昼間部）	49
1-2表 〃（大学夜間部）	50
1-3表 〃（短期大学昼間部）	51
1-4表 〃（短期大学夜間部）	52
1-5表 〃（大学院修士課程）	53
1-6表 〃（大学院博士課程）	54
1-7表 〃（大学院専門職学位課程）	55
2表 居住形態別・地域別学生生活費の内訳（大学・短期大学）（大学院）	56
3-1表 家庭の年間収入別学生数の割合（大学昼間部）	57
3-2表 〃（短期大学昼間部）	58
3-3表 〃（大学院修士課程）	59
3-4表 〃（大学院博士課程）	60
3-5表 〃（大学院専門職学位課程）	61
4-1表 家庭からの給付程度別・アルバイト従事者の全学生に対する割合（大学昼間部）	62
4-2表 〃（短期大学昼間部）	62

* 所見には、所見執筆者による独自集計が含まれます。著作権は各所見執筆者に帰属します。

4-3表	〃	(大学院修士課程)	63
4-4表	〃	(大学院博士課程)	63
4-5表	〃	(大学院専門職学位課程)	64
5-1表	アルバイト従事者の従事時期別・職種別学生数の割合	(大学昼間部)	65
5-2表	〃	(短期大学昼間部)	66
5-3表	〃	(大学院修士課程)	67
5-4表	〃	(大学院博士課程)	68
5-5表	〃	(大学院専門職学位課程)	69
6-1表	設置者別・家庭の年間収入別奨学金の希望及び受給の状況	(大学昼間部)	70
6-2表	〃	(短期大学昼間部)	71
6-3表	〃	(大学院修士課程)	72
6-4表	〃	(大学院博士課程)	73
6-5表	〃	(大学院専門職学位課程)	74
7表	設置者別・奨学金の種類別学生数の割合	(大学・短期大学)(大学院)	75
8-1表	居住形態別・地域別片道通学時間	(大学昼間部)	76
8-2表	〃	(短期大学昼間部)	77
8-3表	〃	(大学院修士課程)	78
8-4表	〃	(大学院博士課程)	79
8-5表	〃	(大学院専門職学位課程)	80
9-1表	設置者別・週間平均生活時間	(大学昼間部)	81
9-2表	〃	(短期大学昼間部)	82
9-3表	〃	(大学院修士課程)	83
9-4表	〃	(大学院博士課程)	84
9-5表	〃	(大学院専門職学位課程)	85
10-1表	設置者別・大学の学生支援体制への満足度	(大学昼間部)	86
10-2表	〃	(短期大学昼間部)	86
10-3表	〃	(大学院修士課程)	87
10-4表	〃	(大学院博士課程)	87
10-5表	〃	(大学院専門職学位課程)	88
11-1表	設置者別・学生の不安や悩み	(大学昼間部)	89
11-2表	〃	(短期大学昼間部)	89
11-3表	〃	(大学院修士課程)	90
11-4表	〃	(大学院博士課程)	90
11-5表	〃	(大学院専門職学位課程)	91

V. 参考資料

平成30年度学生生活調査	実施要領	95
平成30年度学生生活調査	調査票(大学)	100
平成30年度学生生活調査	調査票(短期大学)	106
平成30年度学生生活調査	調査票(大学院)	112
平成30年度学生生活調査	調査票記入要領	116

I. 調査実施方法等について

1. 調査の目的 この調査は、全国の学生を対象として、学生生活状況を把握することにより、学生生活の実状を明らかにし、学生生活支援事業の充実のための基礎資料を得ることを目的とする。
2. 調査の対象 大学学部、短期大学本科及び大学院の学生
(社会人学生を含む。通信課程、休学者及び外国人留学生は除く。)
3. 調査の時期 平成 30 年 11 月 (隔年調査)
4. 調査数 大学、短期大学及び大学院の別、さらに大学及び短期大学については、昼間部、夜間部別、大学院については修士課程、博士課程、専門職学位課程別に、下記の抽出率によって在籍学生 (平成30年5月1日現在の学校基本調査による。) から抽出した数で、全国の学生2,968,471人の中から94,998人を調査対象とした。

区 分		設置者別		
		国 立	公 立	私 立
大 学	昼 間 部	$\frac{1}{39}$	$\frac{7}{95}$	$\frac{1}{100}$
	夜 間 部	$\frac{2}{5}$	(全数調査)	$\frac{11}{60}$
短 期 大 学	昼 間 部		$\frac{15}{31}$	$\frac{3}{79}$
	夜 間 部		(全数調査)	$\frac{63}{82}$
大 学 院	修 士 課 程	$\frac{1}{19}$	$\frac{13}{38}$	$\frac{1}{11}$
	博 士 課 程	$\frac{1}{7}$	$\frac{7}{11}$	$\frac{5}{16}$
	専 門 職 学 位 課 程	$\frac{29}{59}$	(全数調査)	$\frac{20}{43}$

※上記の数値は、在籍学生数に対する依頼調査数の割合を示したものである。(依頼調査数/在籍学生数)

※大学(昼間部)については、層化多段抽出を行っているため、在籍学生数と調査数が完全には比例しない。

また、在籍学生数の少ない一部の大学は、一定の確率で調査依頼から外れている。

※公立の大学(夜間部)・短期大学(夜間部)・大学院専門職学位課程については、母集団である全国の学生数が減少しているため、全数調査となった。

5. 調査方法 各学校は、あらかじめこの調査の対象となる全在籍学生の中から、日本学生支援機構が依頼した調査数だけの学生を無作為に抽出(※)し、所定の調査票により調査を行った。(※ 全数調査の場合は、抽出無し。)

Ⅱ. 調査結果の概要

平成 30 年度学生生活調査結果として、学生生活費、学生の収入状況、家庭の年間平均収入額、アルバイト従事状況、奨学金の受給状況、通学時間、週間平均生活時間、大学の学生支援体制への満足度、学生の不安や悩みの項目について取りまとめた。

<平成 30 年度調査回収率>

回収率 : 45.7% (有効回答数 43,394 人 / 調査数 94,998 人)

<平成 30 年度調査結果の一例(大学(昼間部))>

- 学生生活費（学費と生活費の合計（支出額））は、平成 28 年度調査（以下「前回調査」という。）よりやや増加している。(近年の傾向では、大幅な増減はない。)

	平成 28 年度		平成 30 年度
学生生活費	1,884,200 円	→	1,913,500 円 (+1.6%) (29,300 円増)

- 収入額についても、前回調査よりやや増加している。(近年の傾向では、大幅な増減はない。)

	平成 28 年度		平成 30 年度
収入額	1,965,900 円	→	2,001,300 円 (+1.8%) (35,400 円増)

- 収入額に占める内訳の割合では、前回調査よりアルバイトが 2.0 ポイント増加している。

	平成 28 年度		平成 30 年度
家庭からの給付	60.1%	→	59.8% (▲0.3%)
奨学金	19.6%	→	18.0% (▲1.6%)
アルバイト	18.1%	→	20.1% (+2.0%)

〔調査結果における留意事項〕

1. 本調査における学生生活費は学費と生活費を合わせたものである。
学 費：授業料、その他の学校納付金、修学費、課外活動費、通学費の合計
生 活費：食費、住居・光熱費、保健衛生費、娯楽・嗜好費、その他の日常費(通信費を含む)の合計
2. 本調査結果の集計各表は端数処理(四捨五入)後の数値を使用しており、内訳の合計値と合計欄の値が一致しないことがある。
3. 本調査結果の「大学」は、大学学部のことを言う。
また「修士課程」「博士課程」「専門職学位課程」は、大学院の下記の各課程のことを言う。

修士課程	修士課程、博士前期課程、一貫制博士課程の前期2年(医・歯・薬・獣医を除く)
博士課程	博士後期課程、一貫制博士課程の後期3年、一貫制博士課程(医・歯・薬・獣医)
専門職学位課程	法科、教職、会計、技術経営大学院などの専門職学位の取れる大学院課程

4. 専門職学位課程については、平成18年度より調査対象とした。なお、大学院については、配偶者を有すると回答した者は、学生生活費が大きく異なるケースが想定されるため、従前の例にならない学生生活費等の集計に含まない。
5. 大学及び短期大学については、平成26年度から文部科学省国立教育政策研究所との共同により大学生等の学習状況に関する調査項目を追加した。調査結果等については、文部科学省国立教育政策研究所ホームページに掲載されている。
6. 質問の一部に回答がない調査票は、一部の集計の際に集計対象から外したものがあある。
7. 集計各表の数値は、この標本調査の有効回答を基礎として調査対象学生総数から推計値を算出した結果である。
8. 各集計表の脚注に、有効回答数(n)を参考値として表示している。なお、設問によって有効回答数が異なることから、各集計表におけるnは必ずしも一致しない。
9. 表中の記号は次のように使う。
「－」：計数が無い場合
「0.0」：計数が単位未満の場合
「・・・」：計数の出現が有り得ない場合または調査対象とならなかった場合

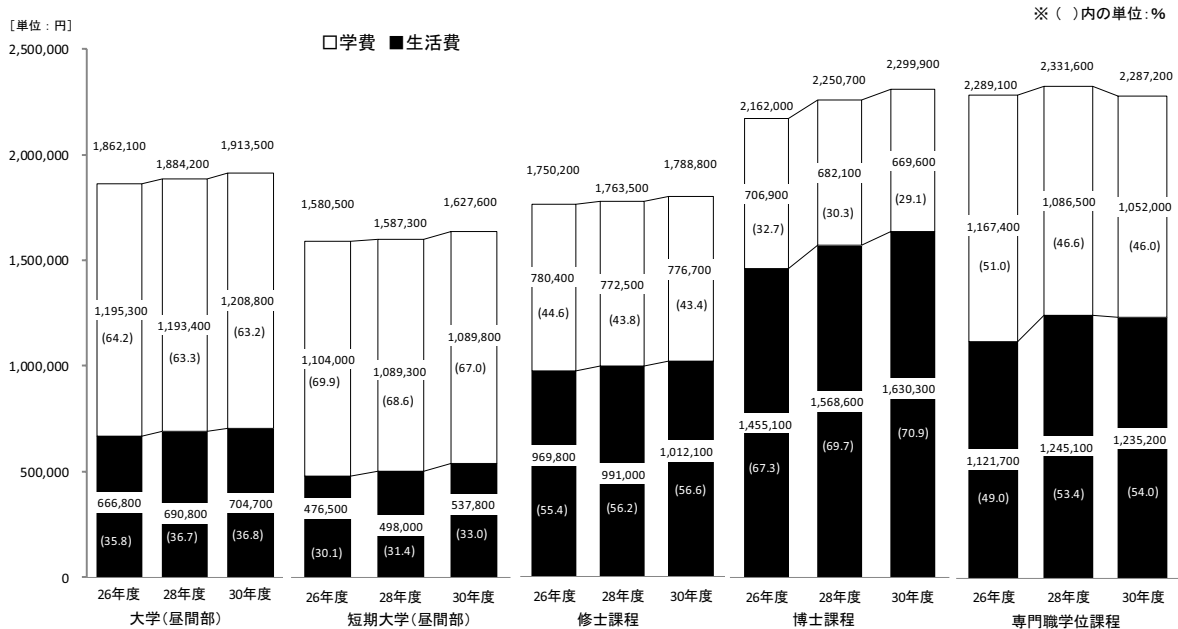
1. 学生生活費(学費と生活費の合計)

学生生活費は、専門職学位課程を除くすべての「学校区分(*1)」において前回調査より増加している。

内訳を見ると、大学(昼間部)、修士課程では生活費に加えて学費も増加しているが、学生生活費に占める割合としては、すべての学校区分において学費の割合が微減、生活費の割合が微増となっている。(大学(昼間部)では、各0.1ポイントのみの増減となっている。)

*1 大学(昼間部)・短期大学(昼間部)・修士課程・博士課程・専門職学位課程を指す。以下、本文中において同じ。

- 【大学(昼間部)】 前回調査より、2.9万円増の191万円となっている。
- 【短期大学(昼間部)】 前回調査より、4.0万円増の163万円となっている。
- 【修士課程】 前回調査より、2.5万円増の179万円となっている。
- 【博士課程】 前回調査より、4.9万円増の230万円となっている。
- 【専門職学位課程】 前回調査より、4.4万円減の229万円となっている。



学生生活費の増減額の推移

区分		平成24年度→平成26年度		平成26年→平成28年度		平成28年度→平成30年度	
		円	%	円	%	円	%
大学(昼間部)	学費	19,800	(1.7)	▲ 1,900	(▲ 0.2)	15,400	(1.3)
	生活費	▲ 37,800	(▲ 5.4)	24,000	(3.6)	13,900	(2.0)
	学生生活費	▲ 18,000	(▲ 1.0)	22,100	(1.2)	29,300	(1.6)
短期大学(昼間部)	学費	12,100	(1.1)	▲ 14,700	(▲ 1.3)	500	(0.0)
	生活費	▲ 83,400	(▲ 14.9)	21,500	(4.5)	39,800	(8.0)
	学生生活費	▲ 71,300	(▲ 4.3)	6,800	(0.4)	40,300	(2.5)
修士課程	学費	▲ 7,700	(▲ 1.0)	▲ 7,900	(▲ 1.0)	4,200	(0.5)
	生活費	22,200	(2.3)	21,200	(2.2)	21,100	(2.1)
	学生生活費	14,500	(0.8)	13,300	(0.8)	25,300	(1.4)
博士課程	学費	▲ 13,700	(▲ 1.9)	▲ 24,800	(▲ 3.5)	▲ 12,500	(▲ 1.8)
	生活費	55,400	(4.0)	113,500	(7.8)	61,700	(3.9)
	学生生活費	41,700	(2.0)	88,700	(4.1)	49,200	(2.2)
専門職学位課程	学費	▲ 1,200	(▲ 0.1)	▲ 80,900	(▲ 6.9)	▲ 34,500	(▲ 3.2)
	生活費	96,000	(9.4)	123,400	(11.0)	▲ 9,900	(▲ 0.8)
	学生生活費	94,800	(4.3)	42,500	(1.9)	▲ 44,400	(▲ 1.9)

※()内の数値は、直前の調査の金額(学費・生活費・学生生活費)を基準とした増減率である。

2. 設置者別の学生生活費

学生生活費を設置者別に比較した場合、博士課程を除き、いずれも私立が国立・公立より高くなっている。内訳を見ると、学費は私立が最も高く、一方、生活費は専門職学位課程を除いて私立が最も低くなっている。

生活費について、大学（昼間部）の場合、住居・光熱費等の差等により国立が私立より23万円高くなっているが、これは自宅以外の学生の割合が高いためと考えられる。

- 【大学（昼間部）】 学生生活費の合計では、私立が公立より60万円高くなっている。
- 【短期大学（昼間部）】 学生生活費の合計では、私立が公立より55万円高くなっている。
- 【修士課程】 学生生活費の合計では、私立が公立より43万円高くなっている。
- 【博士課程】 学生生活費の合計では、公立が国立より34万円高くなっている。
- 【専門職学位課程】 学生生活費の合計では、私立が国立より84万円高くなっている。

[単位：円]

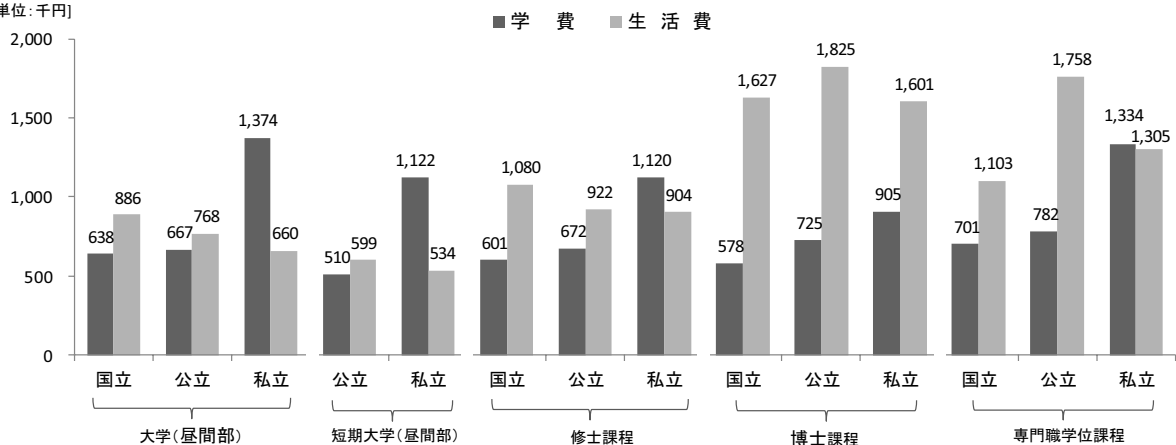
区分	学 費			生 活 費			合 計	
	授業料、 その他の 学校納付金	修学費、 課外活動費、 通学費	小 計	食費、 住居・光熱費	保健衛生費、 娯楽・嗜好費、 その他の日常費	小 計		
大学 （昼間部）	国立	497,900	139,800	637,700	553,600	331,900	885,500	1,523,200
	公立	538,000	128,700	666,700	428,000	340,000	768,000	1,434,700
	私立	1,223,800	150,100	1,373,900	321,100	338,600	659,700	2,033,600
	平均	1,061,600	147,200	1,208,800	367,200	337,500	704,700	1,913,500
短期大学 （昼間部）	国立
	公立	418,400	92,000	510,400	319,800	279,600	599,400	1,109,800
	私立	985,100	136,800	1,121,900	212,900	321,500	534,400	1,656,300
	平均	955,400	134,400	1,089,800	218,500	319,300	537,800	1,627,600
修士課程	国立	488,800	112,300	601,100	691,700	387,800	1,079,500	1,680,600
	公立	528,400	143,700	672,100	516,800	405,400	922,200	1,594,300
	私立	968,700	151,600	1,120,300	484,400	420,000	904,400	2,024,700
	平均	649,500	127,200	776,700	612,600	399,500	1,012,100	1,788,800
博士課程	国立	391,600	186,500	578,100	906,800	720,300	1,627,100	2,205,200
	公立	476,600	248,300	724,900	795,700	1,029,100	1,824,800	2,549,700
	私立	663,700	241,500	905,200	798,000	802,600	1,600,600	2,505,800
	平均	465,900	203,700	669,600	873,300	757,000	1,630,300	2,299,900
専門職 学位課程	国立	541,400	159,100	700,500	621,800	480,700	1,102,500	1,803,000
	公立	557,300	224,400	781,700	645,600	1,112,200	1,757,800	2,539,500
	私立	1,150,000	183,500	1,333,500	599,700	705,400	1,305,100	2,638,600
	平均	877,300	174,700	1,052,000	610,400	624,800	1,235,200	2,287,200

(参考) 居住形態別学生数の割合（大学（昼間部））

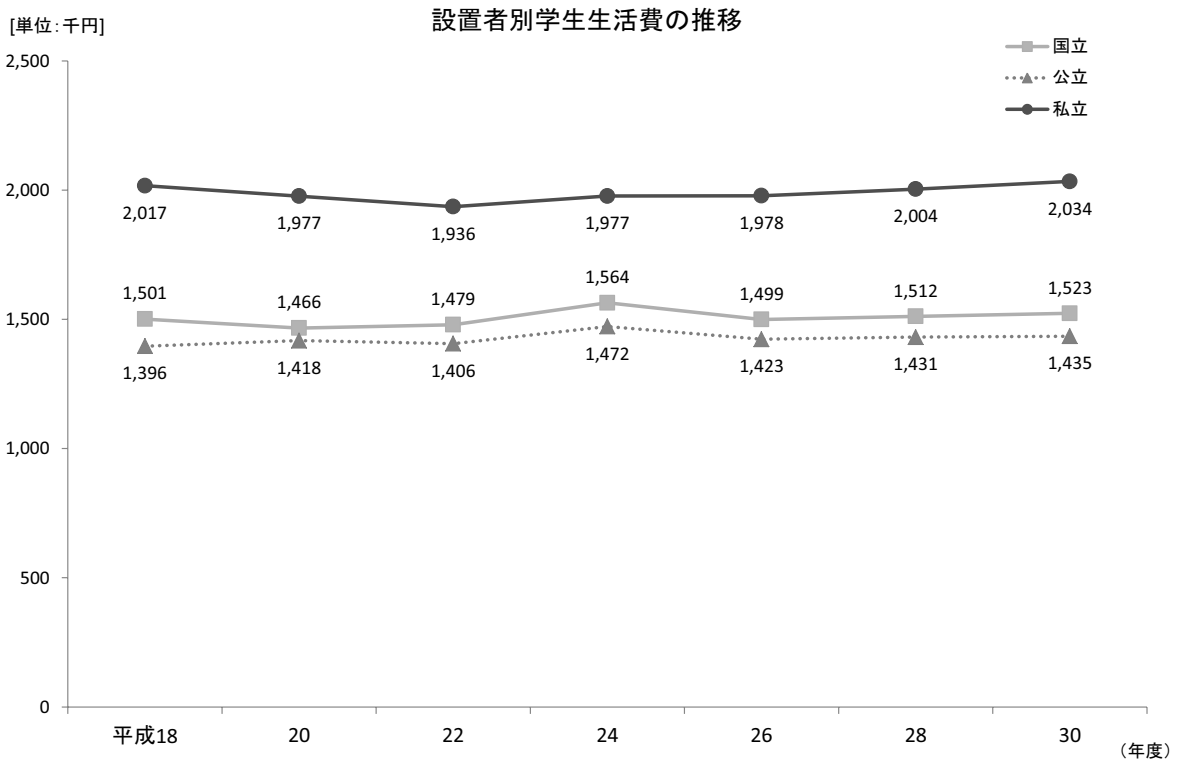
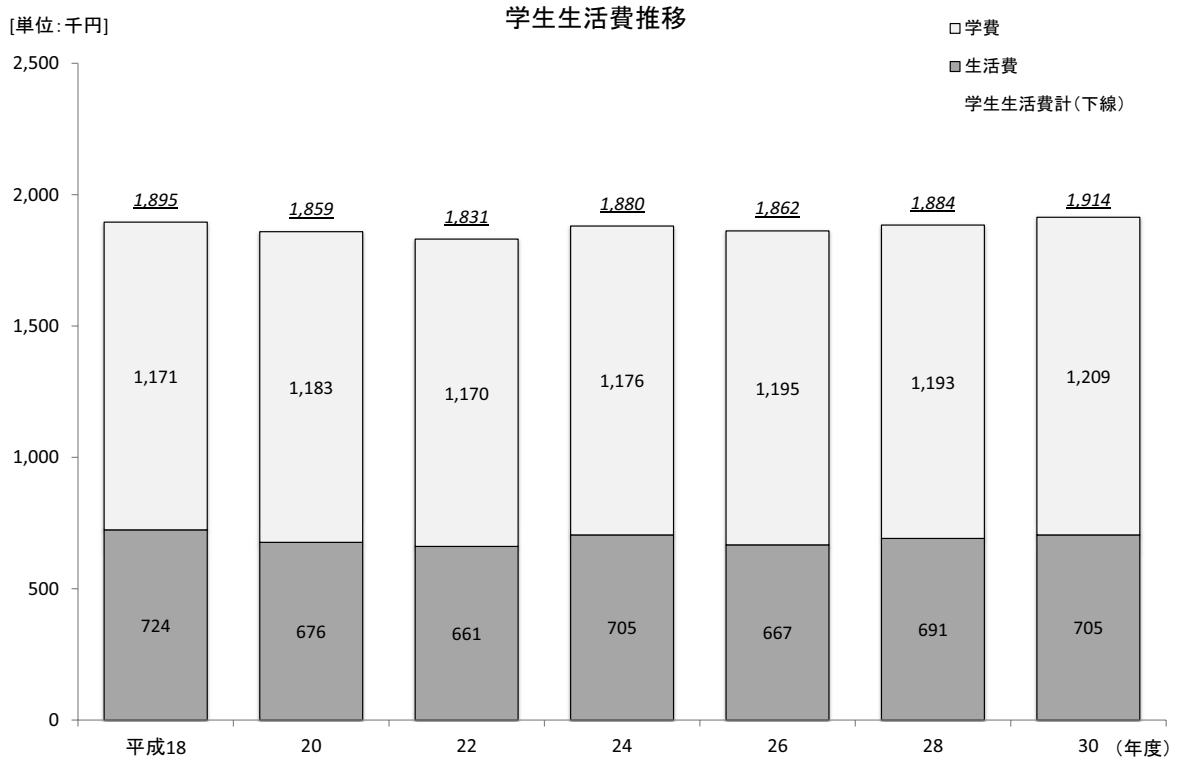
[単位：%]

区分	自 宅	学 寮	下宿、アパート、その他
国 立	33.8	6.5	59.7
公 立	43.8	2.9	53.3
私 立	64.5	6.1	29.4

[単位：千円]



参考 学生生活費及び設置者別学生生活費の推移(大学(昼間部))

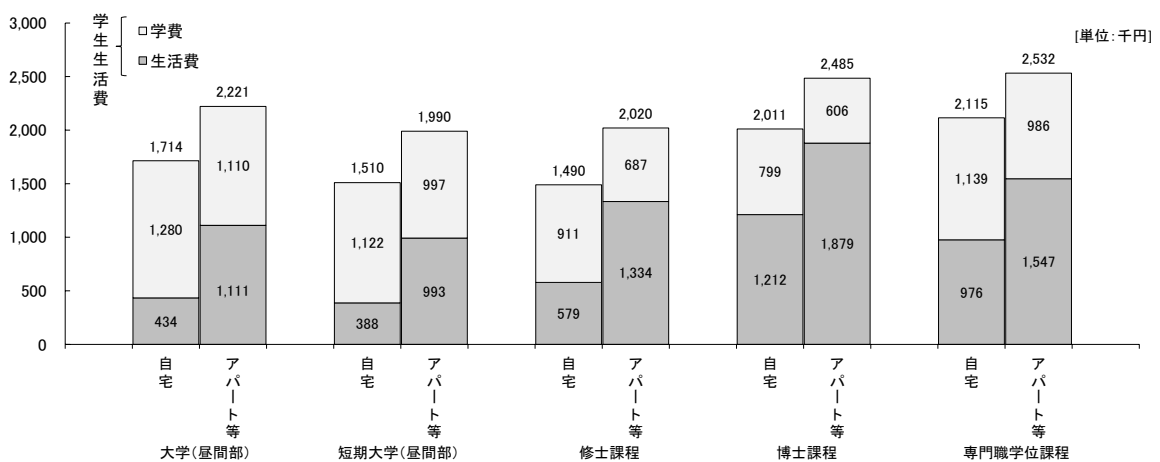


3. 居住形態別の学生生活費

学生生活費を居住形態別に比較した場合、すべての学校区分において、自宅に居住して通学する者（以下「自宅」という。）より、下宿、アパート、その他に居住する者（以下「アパート等」という。）の学生生活費が高くなっているが、これは生活費の差によるところが大きい。

また、設置者別の学生生活費では、博士課程を除き、私立のアパート等が最も高くなっている。

- 【大学（昼間部）】 アパート等の学生生活費は、自宅に比べ51万円高くなっている。
- 【短期大学（昼間部）】 アパート等の学生生活費は、自宅に比べ48万円高くなっている。
- 【修士課程】 アパート等の学生生活費は、自宅に比べ53万円高くなっている。
- 【博士課程】 アパート等の学生生活費は、自宅に比べ47万円高くなっている。
- 【専門職学位課程】 アパート等の学生生活費は、自宅に比べ42万円高くなっている。



[単位：円]

区 分		自 宅		アパ ー ト 等	
大学 (昼間部)	国立	1,122,300	(1.00)	1,765,800	(1.57)
	公立	1,130,300	(1.01)	1,681,900	(1.50)
	私立	1,810,800	(1.61)	2,495,300	(2.22)
	平均	1,714,000		2,221,000	
短期大学 (昼間部)	国立
	公立	895,200	(1.00)	1,340,900	(1.50)
	私立	1,531,400	(1.71)	2,079,100	(2.32)
	平均	1,509,900		1,989,700	
修士課程	国立	1,238,700	(1.00)	1,899,200	(1.53)
	公立	1,290,700	(1.04)	1,907,600	(1.54)
	私立	1,759,200	(1.42)	2,424,800	(1.96)
	平均	1,489,900		2,020,400	
博士課程	国立	1,884,000	(1.00)	2,369,200	(1.26)
	公立	2,262,400	(1.20)	2,841,900	(1.51)
	私立	2,163,600	(1.15)	2,833,100	(1.50)
	平均	2,010,500		2,485,000	
専門職 学位課程	国立	1,469,300	(1.00)	2,100,200	(1.43)
	公立	2,389,600	(1.63)	2,854,800	(1.94)
	私立	2,455,900	(1.67)	2,944,900	(2.00)
	平均	2,115,300		2,532,400	

※ ()は、国立(短期大学では公立)の自宅を基準(1.00)とした場合の比率である。

4. 学生の収入状況

学生の収入状況について、収入総額は、専門職学位課程を除くすべての学校区分において前回調査より増加している。

内訳を見たところ、すべての学校区分において、アルバイトの金額及び収入総額に占める割合がともに増加している一方、短期大学（昼間部）を除くすべての学校区分において、奨学金の金額及び収入総額に占める割合がともに減少している。

〔収入総額〕

- 【大学（昼間部）】 前回調査より、3.5万円増の200万円となっている。
- 【短期大学（昼間部）】 前回調査より、5.0万円増の172万円となっている。
- 【修士課程】 前回調査より、4.9万円増の194万円となっている。
- 【博士課程】 前回調査より、19.3万円増の313万円となっている。
- 【専門職学位課程】 前回調査より、4.0万円減の274万円となっている。

[単位：円]

区 分		家庭からの給付	奨学金	アルバイト	定職・その他	合計
大学 (昼間部)	平成28年度	(60.1) 1,180,700	(19.6) 385,300	(18.1) 356,100	(2.2) 43,800	(100.0) 1,965,900
	平成30年度	(59.8) 1,196,600	(18.0) 359,600	(20.1) 401,500	(2.2) 43,600	(100.0) 2,001,300
短期大学 (昼間部)	平成28年度	(54.8) 913,900	(23.2) 387,500	(17.8) 297,200	(4.1) 69,200	(100.0) 1,667,800
	平成30年度	(52.0) 893,100	(25.2) 433,200	(19.7) 338,800	(3.1) 52,700	(100.0) 1,717,800
修士課程	平成28年度	(49.1) 930,100	(24.2) 458,700	(15.1) 286,900	(11.6) 219,900	(100.0) 1,895,600
	平成30年度	(48.7) 946,200	(21.3) 414,800	(17.5) 340,200	(12.5) 243,000	(100.0) 1,944,200
博士課程	平成28年度	(12.7) 373,100	(30.7) 901,100	(24.2) 711,500	(32.4) 953,500	(100.0) 2,939,200
	平成30年度	(12.6) 395,400	(25.9) 810,200	(24.9) 780,600	(36.6) 1,146,100	(100.0) 3,132,300
専門職 学位課程	平成28年度	(31.1) 862,300	(19.0) 527,300	(5.1) 141,600	(44.8) 1,244,300	(100.0) 2,775,500
	平成30年度	(32.9) 899,100	(16.4) 450,000	(6.0) 163,300	(44.7) 1,223,600	(100.0) 2,736,000

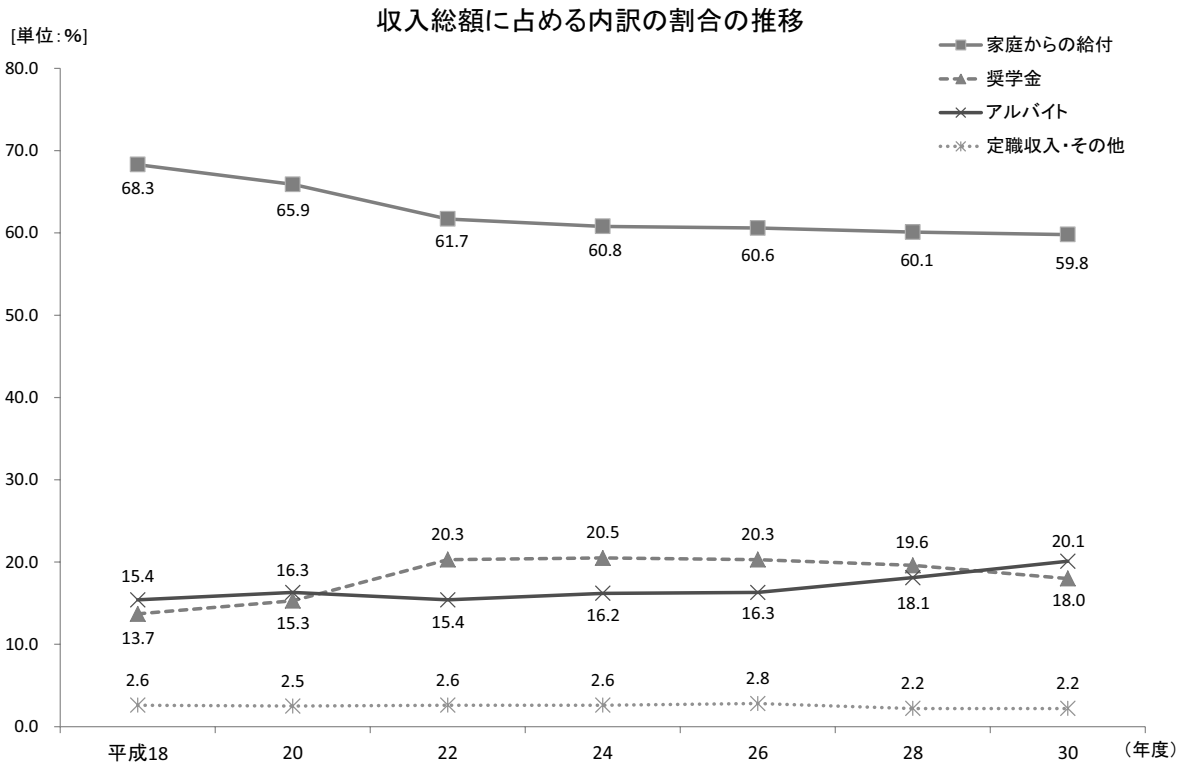
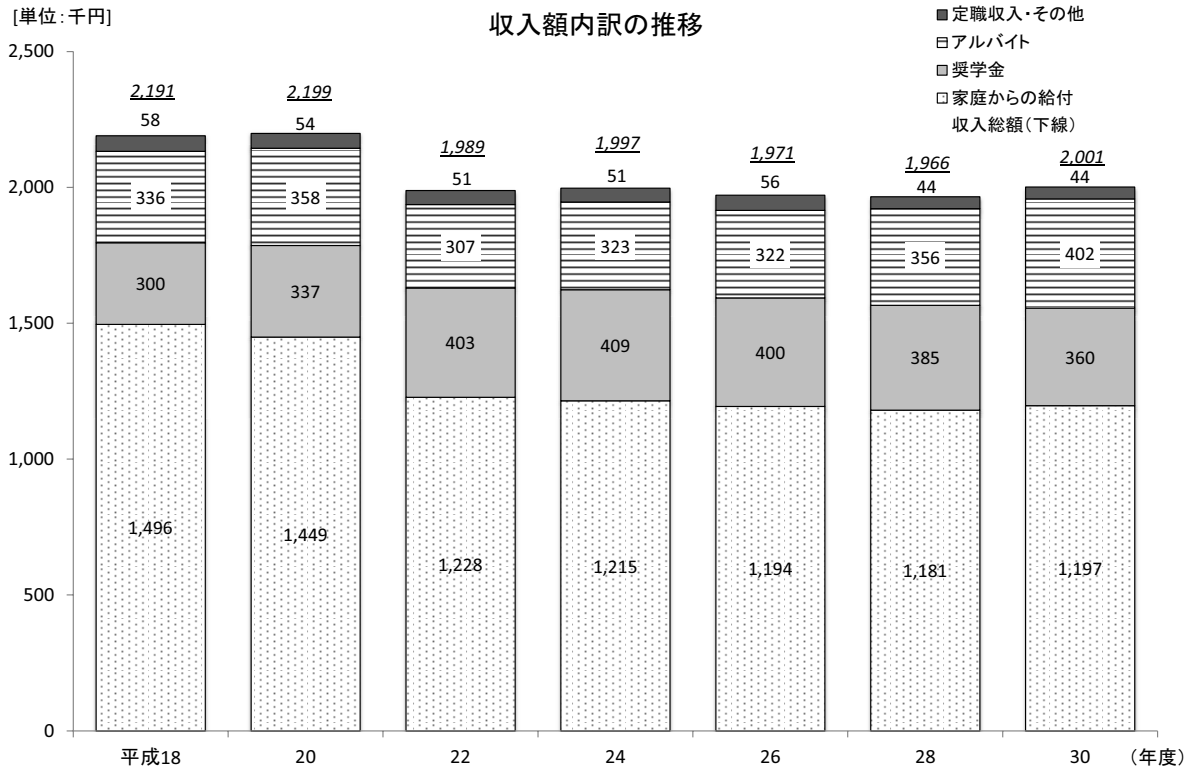
※ () は、合計に占める割合（単位：％）である。

※ 大学院の「アルバイト」にはTA（ティーチング・アシスタント）、RA（リサーチ・アシスタント）を含む。

収入に関する直前調査からの増減率

区 分	平成24年度 →平成26年度	平成26年度 →平成28年度	平成28年度 →平成30年度
大学（昼間部）	▲1.3%	▲0.3%	1.8%
短期大学（昼間部）	▲4.7%	▲0.7%	3.0%
修士課程	0.5%	▲1.0%	2.6%
博士課程	4.0%	4.0%	6.6%
専門職学位課程	8.5%	4.8%	▲1.4%

参考 収入額内訳及び収入総額に占める内訳の割合の推移(大学(昼間部))



5. 家庭の年間平均収入額

学生の家庭の年間平均収入額は、すべての学校区分において前回調査より増加している。各学校区分での金額比較では、前回調査と同様に、短期大学（昼間部）での家庭の年間平均収入額が最も低く、640万円となっている。

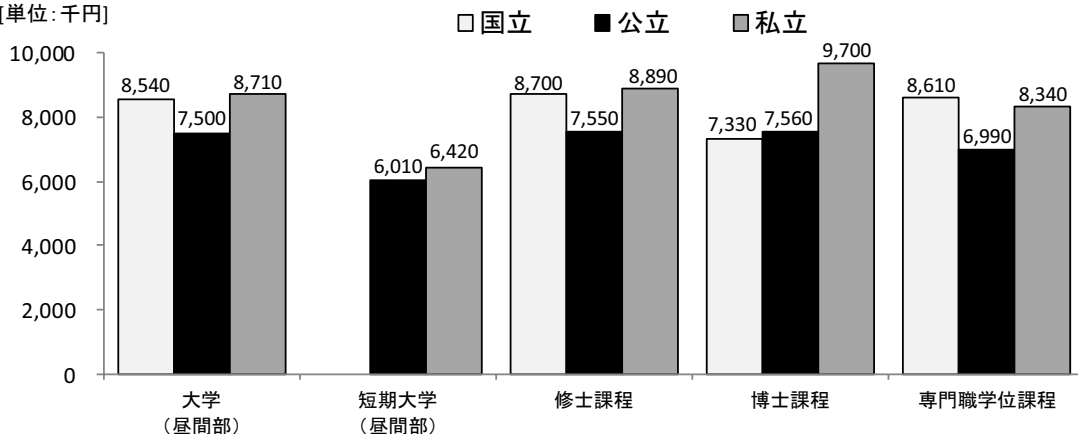
- 【大学（昼間部）】 前回調査より、3.9%増の862万円となっている。
設置者別では、私立が871万円と最も高くなっている。
- 【短期大学（昼間部）】 前回調査より、3.4%増の640万円となっている。
設置者別では、私立が642万円と最も高くなっている。
- 【修士課程】 前回調査より、4.1%増の869万円となっている。
設置者別では、私立が889万円と最も高くなっている。
- 【博士課程】 前回調査より、7.7%増の794万円となっている。
設置者別では、私立が970万円と最も高くなっている。
- 【専門職学位課程】 前回調査より、6.0%増の842万円となっている。
設置者別では、国立が861万円と最も高くなっている。

[単位：千円]

区 分		大学 (昼間部)	短期大学 (昼間部)	修士課程	博士課程	専門職 学位課程
平成30年度	国 立	(1.5) 8,540	… …	(3.9) 8,700	(9.2) 7,330	(14.8) 8,610
	公 立	(2.7) 7,500	(1.2) 6,010	(14.0) 7,550	(10.0) 7,560	(20.7) 6,990
	私 立	(4.4) 8,710	(3.5) 6,420	(2.9) 8,890	(3.5) 9,700	(▲ 0.7) 8,340
	平 均	(3.9) 8,620	(3.4) 6,400	(4.1) 8,690	(7.7) 7,940	(6.0) 8,420
平成28年度平均		(0.7) 8,300	(▲ 5.9) 6,190	(5.6) 8,350	(0.4) 7,370	(▲ 0.6) 7,940
平成26年度平均		(1.5) 8,240	(3.9) 6,580	(1.5) 7,910	(6.4) 7,340	(▲ 22.1) 7,990

※（ ）は、直前の調査との比較である（単位：％）。

[単位：千円]



6. アルバイト従事状況

アルバイト従事者（調査時前1年間においてアルバイトに従事した経験を有する者）の割合は、すべての学校区分において前回調査より増加している。内訳を見ると、「家庭からの給付のみでは修学不自由・困難及び給付無し」の割合は、大学（昼間部）、修士課程、博士課程において減少しているが、それ以上に「家庭からの給付のみで修学可能」の割合が増加しており、全体として増加となっている。

[アルバイト従事者の割合]

- 【大学（昼間部）】 前回調査より、2.5ポイント増の86.1%となっている。
- 【短期大学（昼間部）】 前回調査より、1.8ポイント増の84.7%となっている。
- 【修士課程】 前回調査より、2.5ポイント増の84.8%となっている。
- 【博士課程】 前回調査より、0.6ポイント増の71.6%となっている。
- 【専門職学位課程】 前回調査より、3.9ポイント増の47.8%となっている。

区 分		[単位: %]			
		平成 26年度	平成 28年度	平成 30年度	
大学 (昼間部)	アルバイト従事者	73.2	83.6 (10.4)	86.1 (2.5)	
	家庭からの給付のみで修学可能	38.3	47.5 (9.2)	52.0 (4.5)	
	家庭からの給付のみでは修学不自由・困難及び給付無し	35.0	36.0 (1.0)	34.1 (▲1.9)	
	アルバイト非従事者	26.8	16.4 (▲10.4)	13.9 (▲2.5)	
短期大学 (昼間部)	アルバイト従事者	70.5	82.9 (12.4)	84.7 (1.8)	
	家庭からの給付のみで修学可能	36.8	45.8 (9.0)	47.0 (1.2)	
	家庭からの給付のみでは修学不自由・困難及び給付無し	33.7	37.0 (3.3)	37.7 (0.7)	
	アルバイト非従事者	29.5	17.1 (▲12.4)	15.3 (▲1.8)	
修士課程	アルバイト従事者	77.6	82.3 (4.7)	84.8 (2.5)	
	家庭からの給付のみで修学可能	34.0	39.8 (5.8)	43.8 (4.0)	
	家庭からの給付のみでは修学不自由・困難及び給付無し	43.6	42.5 (▲1.1)	41.0 (▲1.5)	
	アルバイト非従事者	22.4	17.7 (▲4.7)	15.2 (▲2.5)	
博士課程	アルバイト従事者	68.6	71.0 (2.4)	71.6 (0.6)	
	家庭からの給付のみで修学可能	14.7	17.8 (3.1)	19.9 (2.1)	
	家庭からの給付のみでは修学不自由・困難及び給付無し	53.9	53.1 (▲0.8)	51.7 (▲1.4)	
	アルバイト非従事者	31.4	29.0 (▲2.4)	28.4 (▲0.6)	
専門職 学位課程	アルバイト従事者	31.9	43.9 (12.0)	47.8 (3.9)	
	家庭からの給付のみで修学可能	12.7	19.5 (6.8)	23.0 (3.5)	
	家庭からの給付のみでは修学不自由・困難及び給付無し	19.3	24.4 (5.1)	24.7 (0.3)	
	アルバイト非従事者	68.1	56.1 (▲12.0)	52.2 (▲3.9)	

※ ()は、直前の調査との増減である。(単位: %)

※ 大学院の「アルバイト従事者」には、TA(ティーチング・アシスタント)、RA(リサーチ・アシスタント)を含む。

7. 奨学金の受給状況

日本学生支援機構の奨学金など何らかの奨学金を受給している者の割合は、今回調査の短期大学（昼間部）を除いて、平成26年度調査からすべての学校区分において減少している。

〔奨学金受給状況〕

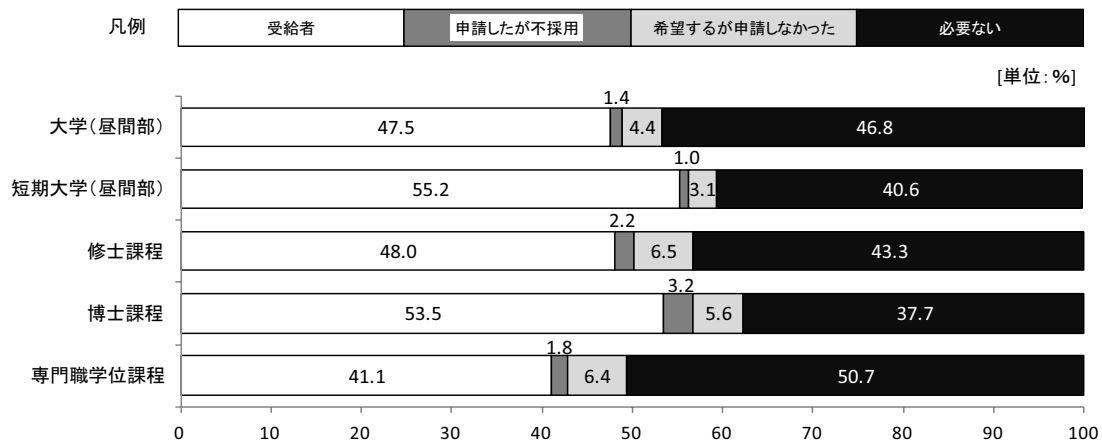
- 【大学（昼間部）】 前回調査より、1.4ポイント減の47.5%となっている。
- 【短期大学（昼間部）】 前回調査より、3.0ポイント増の55.2%となっている。
- 【修士課程】 前回調査より、3.8ポイント減の48.0%となっている。
- 【博士課程】 前回調査より、3.4ポイント減の53.5%となっている。
- 【専門職学位課程】 前回調査より、3.3ポイント減の41.1%となっている。

[単位：%]

区 分	平成26年度	平成28年度	平成30年度
大学(昼間部)	51.3	48.9	47.5
短期大学(昼間部)	52.9	52.2	55.2
修士課程	55.4	51.8	48.0
博士課程	62.7	56.9	53.5
専門職学位課程	51.8	44.4	41.1

※ 調査時点(平成30年11月)における最近1年間に「日本学生支援機構の奨学金」と「日本学生支援機構以外の奨学金(給付・貸与等)」のいずれか、または両方を受給した学生の割合。

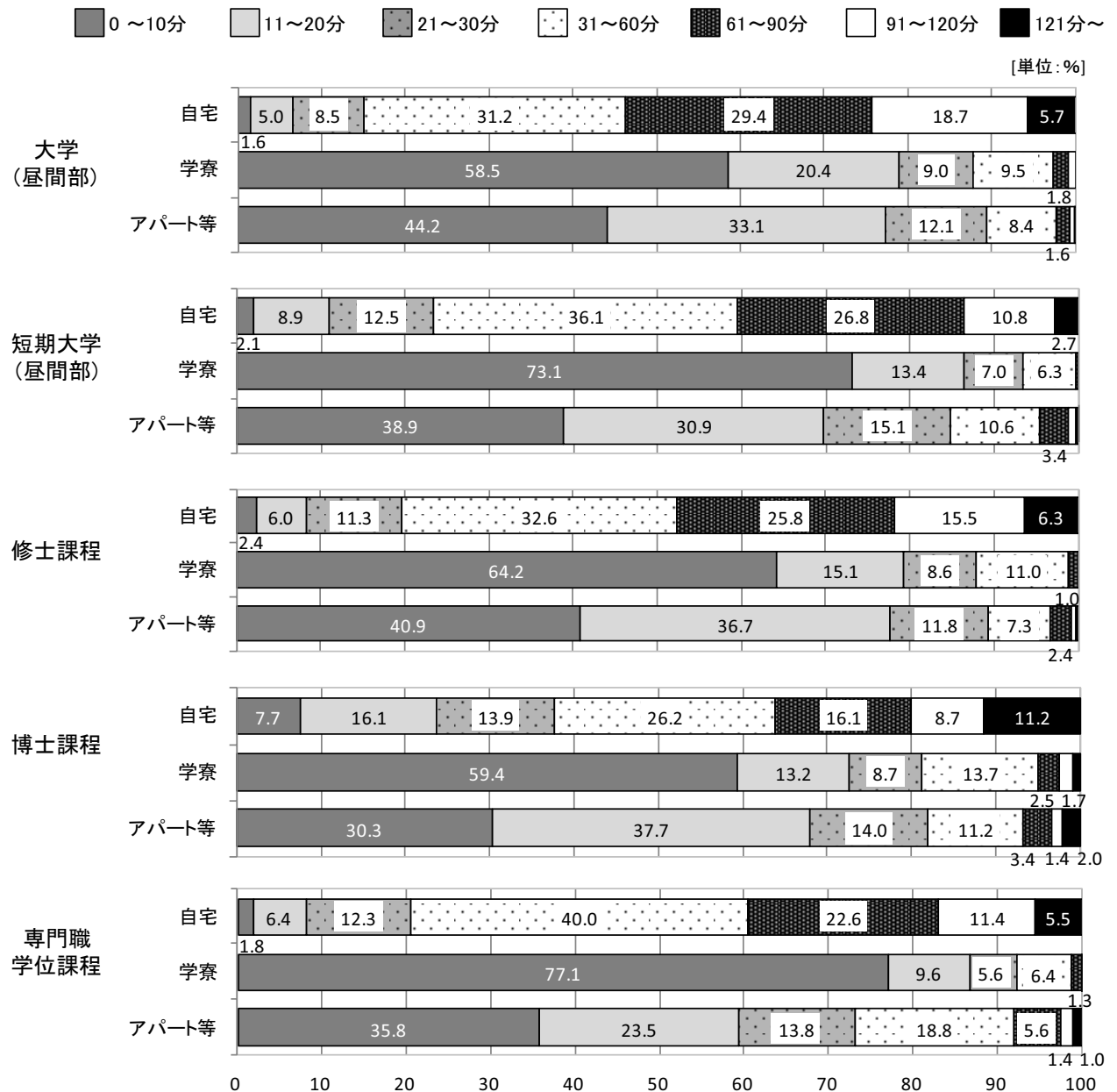
(参考) 学校区分別の奨学金受給希望・受給状況



8. 片道通学時間

片道通学時間について居住形態別に見ると、すべての学校区分において、自宅からの通学者では「31～60分」と回答した割合が最も高くなっているが、学寮からの通学者では「0～10分」と回答した割合が最も高くなっており、いずれも半数を超えている。アパート等からの通学者についても、「0～10分」と「11～20分」を合わせればいずれも半数を超えている。

前回調査との比較について、大学（昼間部）で見たところ（下表「(参考)平成28年度調査」参照）、概ねどの区分も大きな変化は見られなかった。



[単位: %]

区分		0～10分	11～20分	21～30分	31～60分	61～90分	91～120分	121分以上
大学 (昼間部)	自宅	1.6	5.0	8.5	31.2	29.4	18.7	5.7
	学寮	58.5	20.4	9.0	9.5	1.8	0.8	—
	アパート等	44.2	33.1	12.1	8.4	1.6	0.6	0.1
短期大学 (昼間部)	自宅	2.1	8.9	12.5	36.1	26.8	10.8	2.7
	学寮	73.1	13.4	7.0	6.3	0.2	0.0	—
	アパート等	38.9	30.9	15.1	10.6	3.4	0.9	0.2
修士課程	自宅	2.4	6.0	11.3	32.6	25.8	15.5	6.3
	学寮	64.2	15.1	8.6	11.0	1.0	—	—
	アパート等	40.9	36.7	11.8	7.3	2.4	0.6	0.3
博士課程	自宅	7.7	16.1	13.9	26.2	16.1	8.7	11.2
	学寮	59.4	13.2	8.7	13.7	2.5	1.7	0.8
	アパート等	30.3	37.7	14.0	11.2	3.4	1.4	2.0
専門職 学位課程	自宅	1.8	6.4	12.3	40.0	22.6	11.4	5.5
	学寮	77.1	9.6	5.6	6.4	1.3	—	—
	アパート等	35.8	23.5	13.8	18.8	5.6	1.4	1.0

(参考)平成28年度調査

[単位: %]

区分		0～10分	11～20分	21～30分	31～60分	61～90分	91～120分	121分以上
大学 (昼間部)	自宅	1.4	5.2	8.4	30.4	29.5	19.6	5.6
	学寮	61.6	18.9	8.8	8.5	1.1	0.7	0.5
	アパート等	46.3	32.9	11.2	7.8	1.5	0.3	0.1

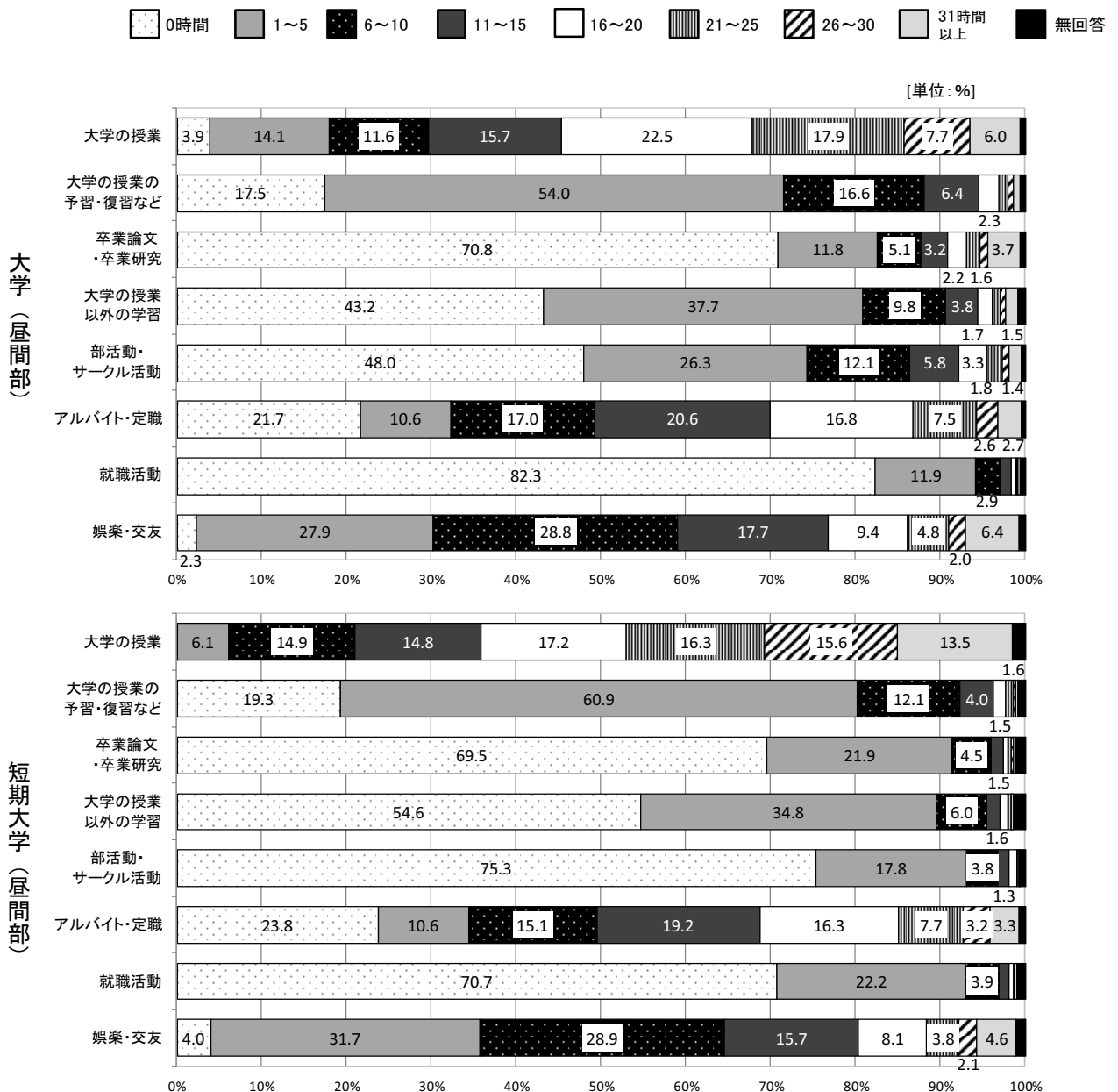
9. 週間平均生活時間

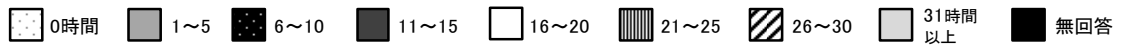
週間平均生活時間は、「授業期間中の典型的な1週間（7日間）の生活時間」について設問したものである。大学（昼間部）、短期大学（昼間部）で見たところ、「0時間」と回答した割合は、学年による違いなどにより影響が出るため「卒業論文・卒業研究」「就職活動」で半数を超え、「大学の授業以外の学習」「部活動・サークル活動」でも半数近くまたは半数を超える状況となっている。

前回調査との比較について、大学（昼間部）で見たところ（「(参考)平成28年度調査」参照）、「0時間」と回答した割合では、「アルバイト・定職」で6.5ポイント減少、「就職活動」では5.7ポイント減少しており、他の区分についても、「0時間」と回答した割合が減少している。

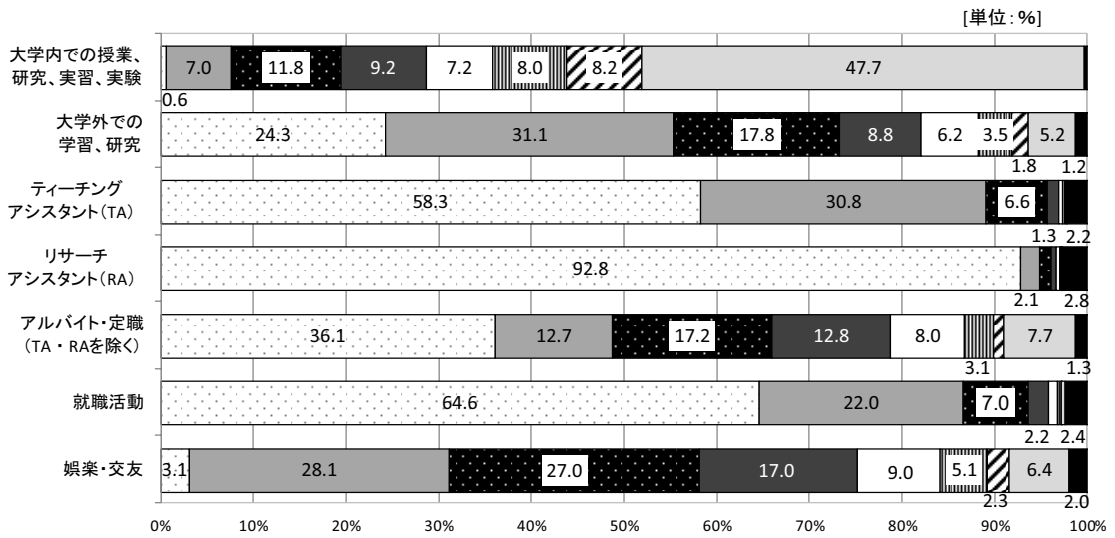
ただし、前回調査から設問の一部が変更されている点（*）に留意しておく必要がある。

* 「あなたの最近1週間（7日間）の生活時間について」（前回調査）が、「授業期間中の典型的な1週間（7日間）の生活時間について」（今回調査）に変更となった。

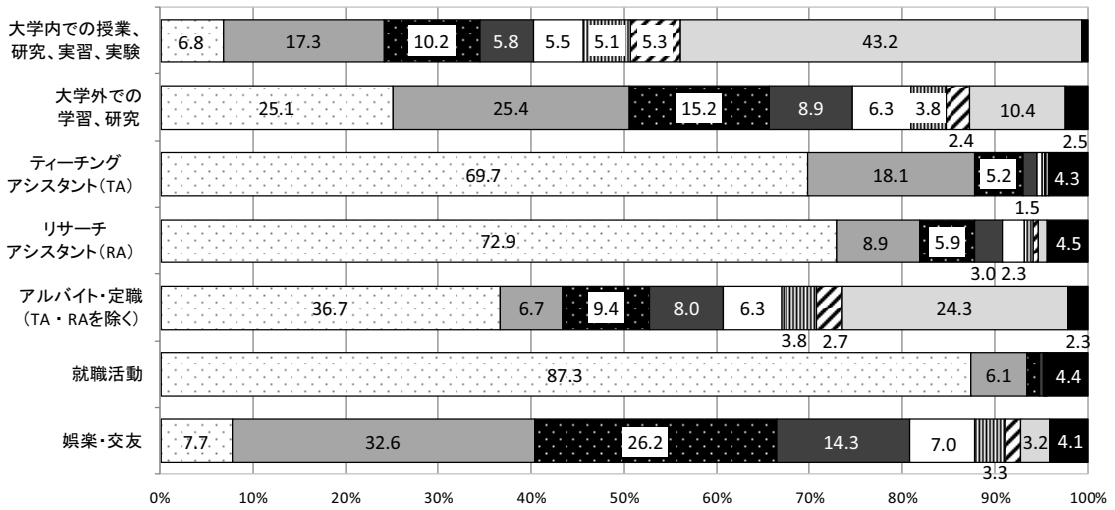




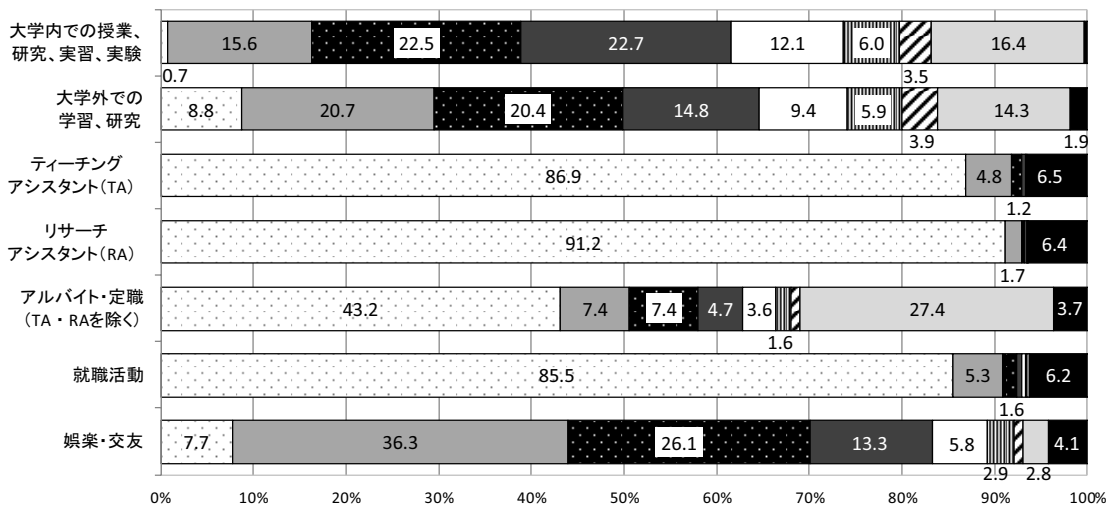
修士課程



博士課程



専門職学位課程



[単位:%]

区分		0時間	1～5	6～10	11～15	16～20	21～25	26～30	31時間以上	無回答	計
大学 (昼間部)	大学の授業	3.9	14.1	11.6	15.7	22.5	17.9	7.7	6.0	0.6	100.0
	大学の授業の予習・復習など	17.5	54.0	16.6	6.4	2.3	1.1	0.6	0.9	0.6	100.0
	卒業論文・卒業研究	70.8	11.8	5.1	3.2	2.2	1.6	1.0	3.7	0.6	100.0
	大学の授業以外の学習	43.2	37.7	9.8	3.8	1.7	0.9	0.6	1.5	0.8	100.0
	部活動・サークル活動	48.0	26.3	12.1	5.8	3.3	1.8	0.9	1.4	0.5	100.0
	アルバイト・定職	21.7	10.6	17.0	20.6	16.8	7.5	2.6	2.7	0.4	100.0
	就職活動	82.3	11.9	2.9	1.2	0.5	0.2	0.2	0.2	0.6	100.0
	娯楽・交友	2.3	27.9	28.8	17.7	9.4	4.8	2.0	6.4	0.7	100.0
短期大学 (昼間部)	大学の授業	0.0	6.1	14.9	14.8	17.2	16.3	15.6	13.5	1.6	100.0
	大学の授業の予習・復習など	19.3	60.9	12.1	4.0	1.5	0.9	0.2	0.3	0.9	100.0
	卒業論文・卒業研究	69.5	21.9	4.5	1.5	0.5	0.4	0.2	0.2	1.2	100.0
	大学の授業以外の学習	54.6	34.8	6.0	1.6	0.8	0.3	0.1	0.3	1.3	100.0
	部活動・サークル活動	75.3	17.8	3.8	1.3	0.9	0.3	0.1	0.1	0.5	100.0
	アルバイト・定職	23.8	10.6	15.1	19.2	16.3	7.7	3.2	3.3	0.8	100.0
	就職活動	70.7	22.2	3.9	1.2	0.5	0.2	0.1	0.2	1.0	100.0
	娯楽・交友	4.0	31.7	28.9	15.7	8.1	3.8	2.1	4.6	1.1	100.0
修士課程	大学内での授業、研究、実習、実験	0.6	7.0	11.8	9.2	7.2	8.0	8.2	47.7	0.3	100.0
	大学外での学習、研究	24.3	31.1	17.8	8.8	6.2	3.5	1.8	5.2	1.2	100.0
	ティーチングアシスタント(TA)	58.3	30.8	6.6	1.3	0.4	0.2	0.1	0.2	2.2	100.0
	リサーチアシスタント(RA)	92.8	2.1	1.2	0.6	0.4	0.1	0.1	0.1	2.8	100.0
	アルバイト・定職(TA・RAを除く)	36.1	12.7	17.2	12.8	8.0	3.1	1.1	7.7	1.3	100.0
	就職活動	64.6	22.0	7.0	2.2	1.0	0.4	0.1	0.3	2.4	100.0
	娯楽・交友	3.1	28.1	27.0	17.0	9.0	5.1	2.3	6.4	2.0	100.0
博士課程	大学内での授業、研究、実習、実験	6.8	17.3	10.2	5.8	5.5	5.1	5.3	43.2	0.8	100.0
	大学外での学習、研究	25.1	25.4	15.2	8.9	6.3	3.8	2.4	10.4	2.5	100.0
	ティーチングアシスタント(TA)	69.7	18.1	5.2	1.5	0.6	0.2	0.2	0.2	4.3	100.0
	リサーチアシスタント(RA)	72.9	8.9	5.9	3.0	2.3	0.9	0.5	1.0	4.5	100.0
	アルバイト・定職(TA・RAを除く)	36.7	6.7	9.4	8.0	6.3	3.8	2.7	24.3	2.3	100.0
	就職活動	87.3	6.1	1.3	0.4	0.1	0.1	0.1	0.2	4.4	100.0
	娯楽・交友	7.7	32.6	26.2	14.3	7.0	3.3	1.7	3.2	4.1	100.0
専門職学位課程	大学内での授業、研究、実習、実験	0.7	15.6	22.5	22.7	12.1	6.0	3.5	16.4	0.3	100.0
	大学外での学習、研究	8.8	20.7	20.4	14.8	9.4	5.9	3.9	14.3	1.9	100.0
	ティーチングアシスタント(TA)	86.9	4.8	1.2	0.3	0.2	-	-	-	6.5	100.0
	リサーチアシスタント(RA)	91.2	1.7	0.3	0.2	0.1	0.0	-	-	6.4	100.0
	アルバイト・定職(TA・RAを除く)	43.2	7.4	7.4	4.7	3.6	1.6	0.9	27.4	3.7	100.0
	就職活動	85.5	5.3	1.6	0.6	0.3	0.1	-	0.3	6.2	100.0
	娯楽・交友	7.7	36.3	26.1	13.3	5.8	2.9	1.1	2.8	4.1	100.0

(参考)平成28年度調査

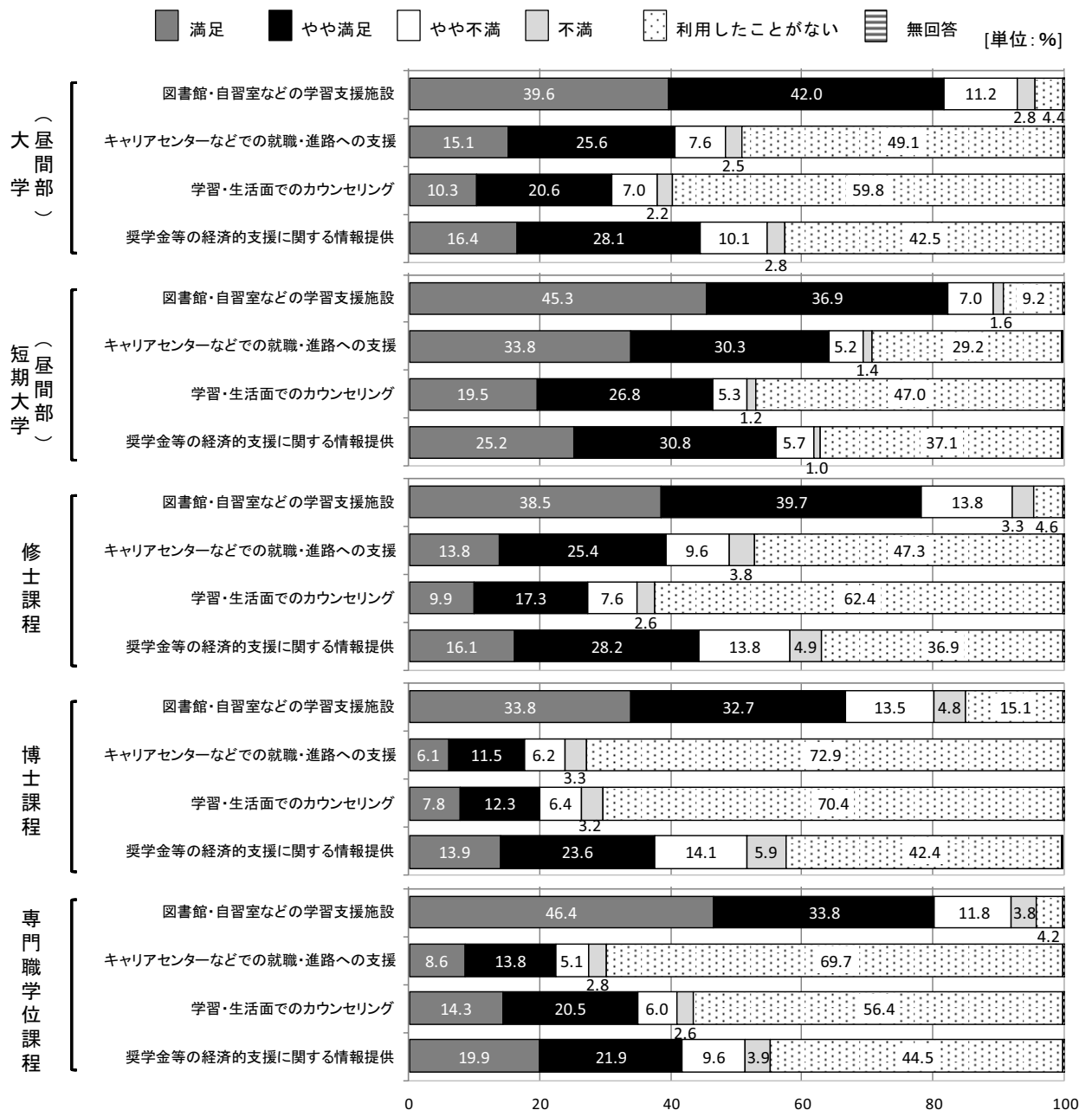
[単位:%]

区分		0時間	1～5	6～10	11～15	16～20	21～25	26～30	31時間以上	無回答	計
大学 (昼間部)	大学の授業	6.1	14.5	10.7	16.2	22.2	16.8	6.6	6.2	0.7	100.0
	大学の授業の予習・復習など	20.8	51.9	15.9	5.7	2.1	1.2	0.6	1.1	0.6	100.0
	卒業論文・卒業研究	72.7	10.6	4.8	2.4	1.9	1.6	1.2	4.3	0.6	100.0
	大学の授業以外の学習	45.4	35.6	9.1	3.4	1.8	1.1	0.6	2.1	0.9	100.0
	部活動・サークル活動	48.4	25.6	11.8	5.7	3.5	1.7	1.0	1.6	0.6	100.0
	アルバイト・定職	28.2	10.2	16.4	18.5	14.9	6.4	2.5	2.5	0.6	100.0
	就職活動	88.0	8.3	1.8	0.8	0.3	0.1	0.0	0.1	0.6	100.0
	娯楽・交友	3.5	29.4	29.0	16.5	9.1	4.1	1.8	5.5	1.0	100.0

10. 大学の学生支援体制への満足度

大学の学生支援体制への満足度について、まず「利用したことがない」と回答した割合を見たところ、「図書館・自習室などの学習支援施設」は、すべての学校区分で 4.2～15.1%と低い、「図書館・自習室などの学習支援施設」以外の区分では、短期大学（昼間部）の「キャリアセンターなどでの就職・進路への支援」を除いては、いずれも「利用したことがない」と回答した割合が最も高くなっている。

前回調査との比較について、大学（昼間部）で見たところ（下表「(参考)平成28年度調査」参照）、全体としては大きな変化は見られないものの、どの区分も「満足」と回答した割合は増加している。



(参考)平成28年度調査

[単位:%]

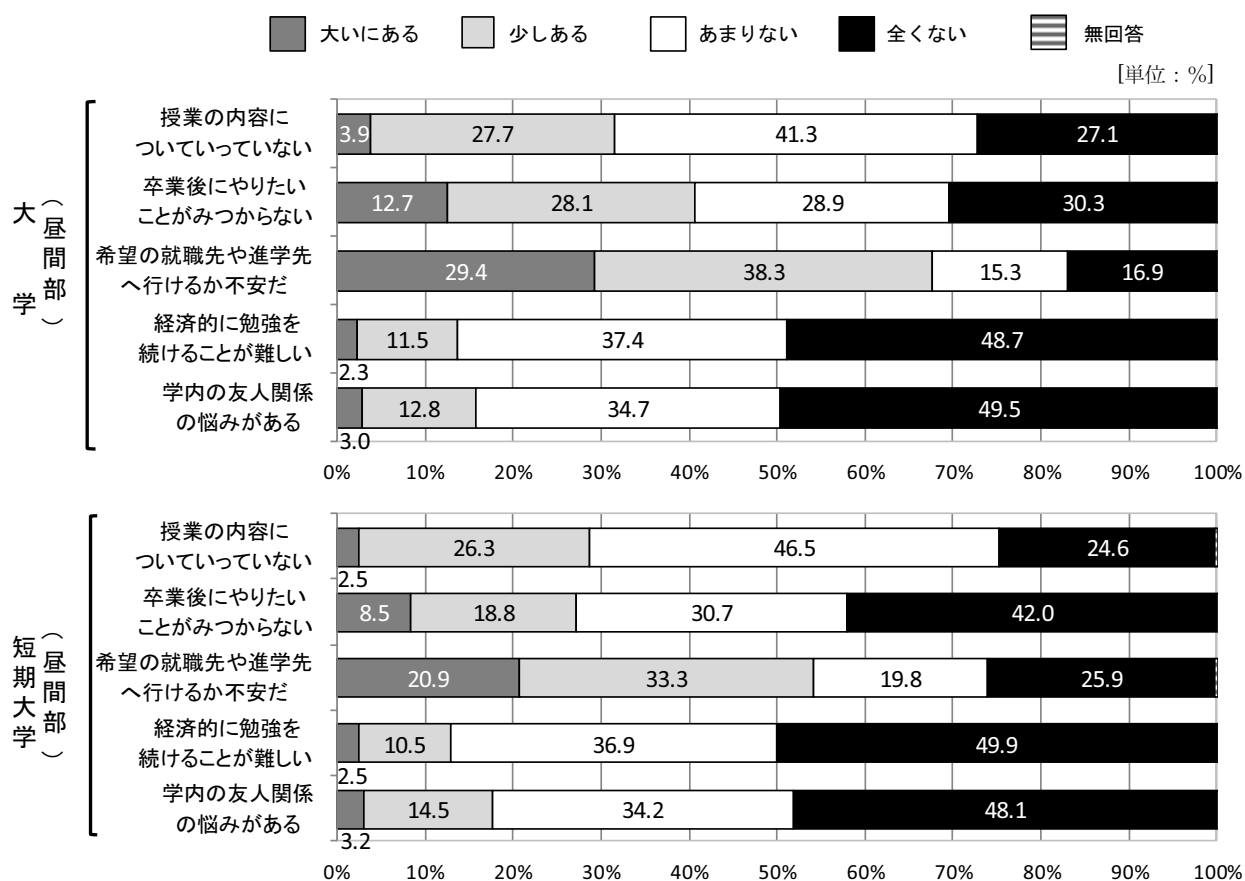
区 分		満足	やや満足	やや不満	不満	利用したことがない	無回答	計
大学 (昼間部)	図書館・自習室などの学習支援施設	37.7	42.4	12.8	3.3	3.8	0.0	100.0
	キャリアセンターなどでの就職・進路への支援	14.9	26.8	8.5	2.6	47.0	0.1	100.0
	学習・生活面でのカウンセリング	9.3	21.1	8.0	2.4	59.1	0.1	100.0
	奨学金等の経済的支援に関する情報提供	14.3	28.6	11.9	3.3	41.9	0.1	100.0

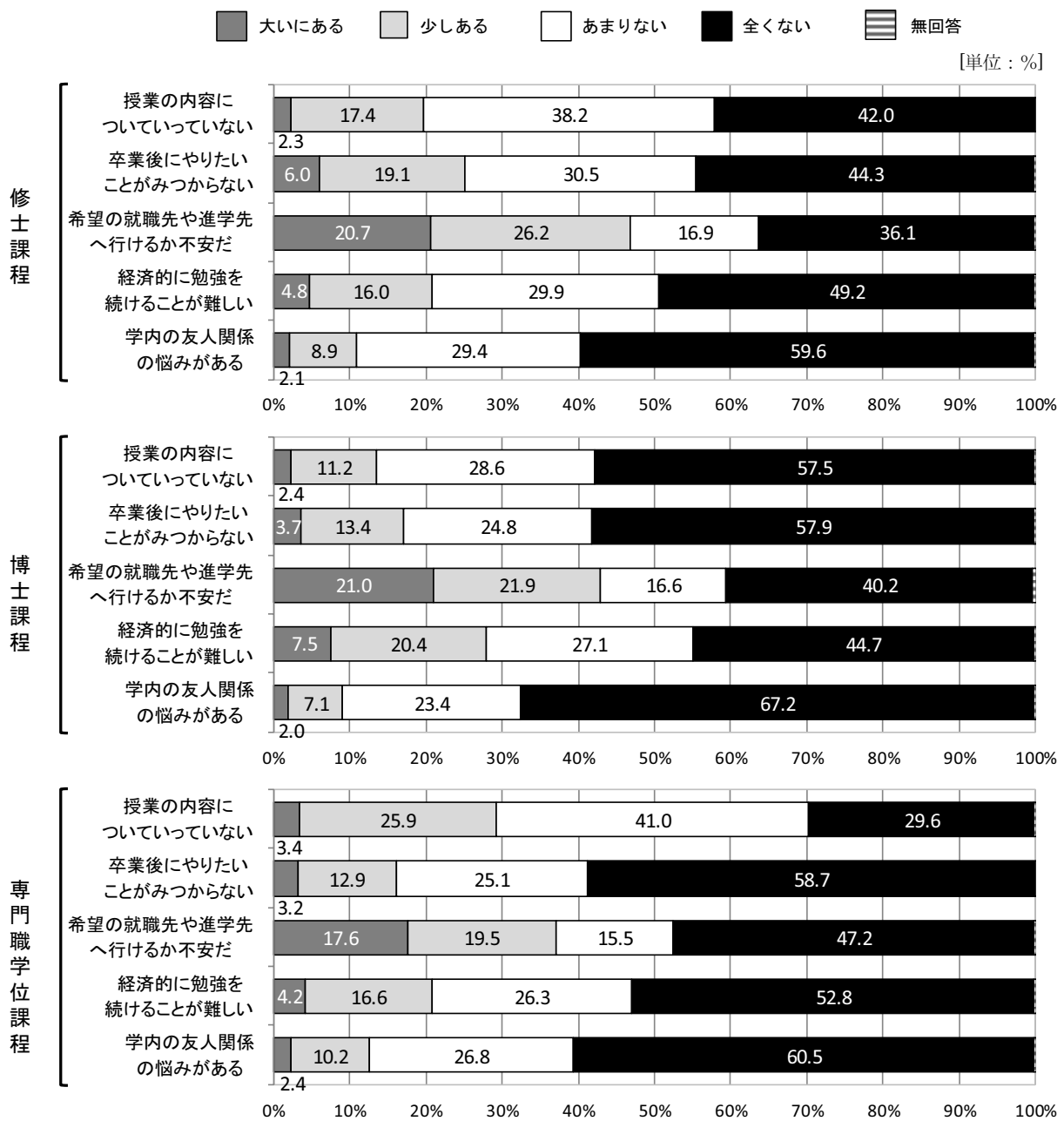
11. 学生の不安や悩み

学生の不安や悩みについて、「大いにある」「少しある」と回答した割合を足したところ、前回調査と同じくすべての学校区分において「希望の就職先や進学先へ行けるか不安だ」が最も高くなっている。

一方、「あまりない」「全くない」と回答した割合を足したところでは、大学（昼間部）、短期大学（昼間部）では「経済的に勉強を続けることが難しい」が86%程度、大学院では「学内の友人関係の悩みがある」が90%程度と最も高くなっている。

前回調査との比較について、大学（昼間部）で見たところ（下表「(参考)平成28年度調査」参照）、「希望の就職先や進学先へ行けるか不安だ」を「大いにある」と回答した割合は2.7ポイント減少しており、一方、「経済的に勉強を続けることが難しい」を「全くない」と回答した割合は3.7ポイント増加している。





(参考)平成28年度調査

[単位：％]

区 分		大いにある	少しある	あまりない	全くない	無回答	計
(昼間部) 大学	授業の内容についていけない	4.3	28.6	41.0	26.0	0.1	100.0
	卒業後にやりたいことがみつからない	13.1	28.5	28.4	30.0	0.1	100.0
	希望の就職先や進学先へ行けるか不安だ	32.1	37.2	14.5	16.1	0.1	100.0
	経済的に勉強を続けることが難しい	2.5	13.5	38.9	45.0	0.1	100.0
	学内の友人関係の悩みがある	3.4	13.2	36.2	47.1	0.0	100.0

Ⅲ. 識者所見

- ※ 所見には、所見執筆者による独自集計が含まれます。
著作権は各所見執筆者に帰属します。

学生に対する経済的支援制度の変化と課題

濱中 義隆（国立教育政策研究所）

はじめに

本稿では、2012年度から18年度までの4時点の学生生活調査の個票データ（大学（昼間部））を用いて、学生に対する経済的支援の状況の変化を概観する。この間、日本の学生に対する経済的支援、とりわけその中心である日本学生支援機構の奨学金は制度改革を重ねてきた。学生に対する公的な経済的支援策が貸与奨学金中心であったこと、その貸与奨学金の返還困難が社会問題化したことを背景に、低所得世帯出身の奨学生を対象とする返還猶予期間の制限撤廃（2012年）、経済困難等を理由とする返還猶予期間の年限延長（2014年）、減額返還制度の適用期間の延長と割賦金額のさらなる低減（2017年）、無利子貸与奨学金における所得連動型返還制度の導入（2017年）など様々な仕組みが導入された。いずれも卒業後の返還負担に対する不安を軽減し、貸与奨学金を利用しやすい制度へ改善することを意図したものであったが、2017年度には、経済的に特に困難な世帯の進学を後押しするために給付型奨学金制度も開始された。こうした奨学金制度改革は、奨学金の利用にどのような影響を与えてきたのだろうか。2020年度からは「高等教育の修学支援新制度」として、授業料減免と給付型奨学金の支給の拡充が決定し、日本の学生支援制度は従来型から大きく転換しようとしている。これらを踏まえ、本稿では学生に対する経済的支援制度の「現在地」をデータで確認することを目的とする。

1. 学生に対する経済的支援制度の現状

(1) 日本学生支援機構の奨学金受給状況

各年度の『学生生活調査結果』6-1表および7表によれば、日本学生支援機構の奨学金受給者率は、2010年度46.4%→2012年度47.5%→2014年度46.8%→2016年度43.8%→2018年度43.4%となり、2012年をピークとしてその後の6年間で約4ポイント減少している¹。学生生活調査における奨学金受給者率は、日本学生支援機構の事業実績から算出した受給者率²より10ポイント程度高い値になっている（すなわち、調査への回答者が奨学金受給者に偏っている）ことは前回調査時にも指摘したところであるが³、傾向として受給者率が減少していることは明らかである。

図1では、大学の設置者別に、奨学金の種類別（第一種：無利子貸与、第二種：有利子貸与、併用：第一種と第二種の併用）の受給者率の変化を示した。なお、『学生生活調査結果』6-1表に掲載されている奨学金受給者率は、家計の年間収入が無回答であった者を除いて算出されているため、図1における受給者率（第一種、第二種、併用の合計）、先に示した受給者率の間には若干のズレがある。

まず、2012年度から18年度にかけて、「奨学金が必要なかった」と回答した学生の比率は、国公立を問わず10ポイント前後の増加、また「希望したが申請しなかった」とした学生の比率も減少傾向にあり、奨学金の必要度が総じて低下していることを指摘できよう。その要因の一端は、全体的に見れば家計の経済状況が2012年当時に比べて上向いたことにあるだろう。『学生生活調査結果』の各年度の3-1表によれば、世帯の平均年間収入が2012年の812万円から2018年は

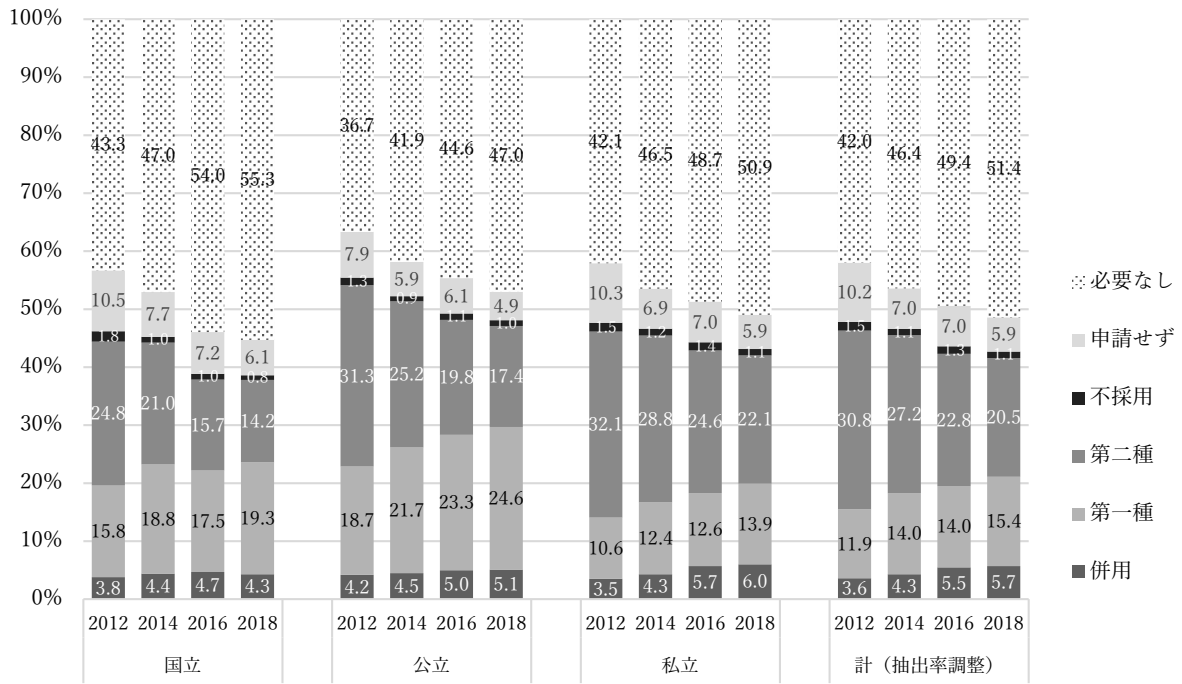


図 1 日本学生支援機構の貸与奨学金 申請・受給状況の変化 (2012~18 年度)

862 万円まで上昇し、年収 1000 万円以上の世帯の比率も 23.9%から 28.5%へ 5 ポイント程度増加していることが示されている。もっとも、世帯年収が 500 万円未満の比率は 2012 年 24.2%、2018 年 22.5%となっており、それほど減少しているわけではないことにも留意しなければならない。もともと高所得者層の方が奨学金を必要とする程度は低いので、たとえ高所得層が増加したとしても奨学金受給率に与える影響はそれほど大きくないとも考えられる。この点については、後ほど、収入階級別の奨学金受給率の変化を見ることで詳しく検討することとしたい。

奨学金の種類に着目して 2012 年から 18 年にかけての変化を見ると、第二種奨学金の受給者率が 10 ポイント程度低下し、反対に第一種奨学金の受給者率が 5 ポイント程度増加していることがわかる。財政投融资を活用した第二種奨学金は、2000 年頃から奨学金利用者枠の拡大、ひいては大学進学者数の増加に貢献してきたものの、同時に、有利子貸与であるがゆえに返還負担が大きい、奨学金の金融事業化である、といった批判を受けることとなり、この間、政策的にも「有利子から無利子への転換」が進められてきた。図 1 の結果はその成果を反映していると見てよいだろう。

「有利子から無利子への転換」は返還負担の観点からは望ましいとしても、もともと第一種と第二種では利用に際しての所得基準等が異なることから、第二種奨学金の縮小によって奨学金利用者層が変化している可能性もある。この点についても後ほど収入階級別の受給率の変化から検証することとしたい。

なお、2017 年度より日本学生支援機構による給付型奨学金制度が導入されたため、2018 年調査では同制度の利用の有無を尋ねた。その結果は、設置者計で 3.3%の受給率となった（調査時点で制度の対象となる 1・2 年次に限れば 6.4%）。『JASSO 年報 平成 30 年度』（2018 年）における給付型奨学金の受給者率は 0.6%とのことであったから、学生生活調査における受給者率は明らかに過大である。同制度は住民税非課税世帯等を対象とした限定的なものであるが、受給者の

約半数は世帯年収 450 万円以上と回答していることから、現時点では、あまり信頼できる結果（回答）とはいえそうもない。2020 年度より導入される修学支援新制度では受給対象者数も大幅に拡大することから、制度に対する周知も進んで、もう少し正確な数値が得られることを期待し、本稿ではこれ以上の言及はしない。

(2) 日本学生支援機構以外の奨学金

図 2 は地方公共団体、民間奨学団体、大学などが実施主体となっている奨学金の受給率の変化を示したグラフである。かつて日本学生支援機構の奨学金が貸与型のみであったのに対して、その他の奨学金制度は、その規模は小さいとはいえ、給付型が半数以上を占めるなど独自の役割を果たしてきた。図 2 を見れば、日本学生支援機構の貸与型奨学金の受給者率がピークであった 2012 年当時と比べて、2014、16 年にかけて給付型奨学金の受給者率がやや増加したものの、2018 年では減少に転じていることが読み取れる。なぜ、直近の 2018 年で給付型の受給者率が低下したのか、その理由を即座に明らかにすることはできないが、2017 年に日本学生支援機構（国）の給付型奨学金制度が創設されたことと関係している可能性は考えられる。今後、奨学事業に関する実態調査など他の奨学制度に関する調査結果と照合することなどを通じて、日本学生支援機構以外の制度にどのような影響があったかを精査していく必要があるだろう。

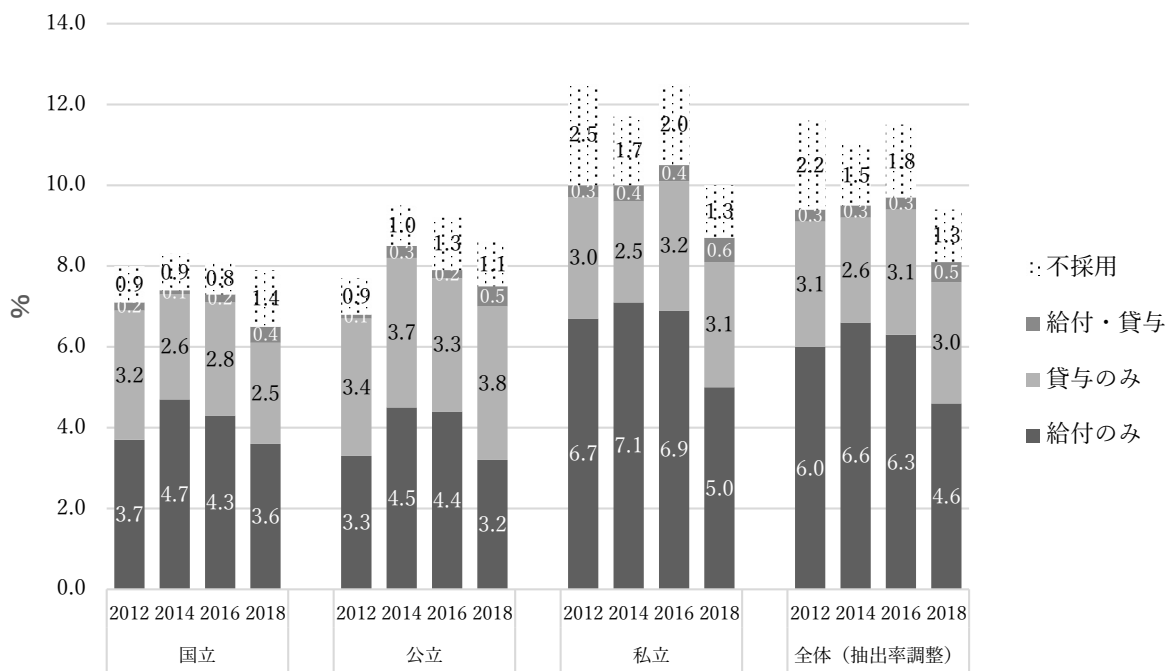


図 2 日本学生支援機構以外の奨学金の利用状況の変化（2012～18 年度）

なお、2018 年調査における給付型奨学金受給者の平均受給額は、国立 62 万円、公立 43 万円、私立 38 万円であった。受給者率は私立大学において高いものの、一人当たりの受給額自体は国立よりもかなり低いことになる。2016 年調査では国立 48 万円、公立 37 万円、私立 21 万円であったので、傾向として受給額が上昇していることはうかがえるが、変動自体がかなり大きいことに留意する必要があるだろう。もともと受給している学生の数が限定的であるため、一部の極端な値（中には不正確な回答が含まれているかも知れない）の影響を受けている可能性が否めない。

(3) 授業料減免の適用

授業料減免は学生に対して直接、奨学金が給付されるわけではないものの、授業料が無償あるいは非常に少額である場合を除き、学生に対する経済的支援策としては給付型奨学金と実質的には同じ機能を果たしている。図3に、授業料減免の許可状況の変化を設置者別に示した。日本学生支援機構以外の給付型奨学金（図2）は、私立大学の方が受給率は高かったが、授業料減免は国立大学でよく利用されている（認められている）といえる。国立大学では2012年から18年の間に、全額免除された学生の比率は2.9%から8.5%に上昇しており、2016、18年度では半額免除の比率を上回っている。公立、私立では2014年以降、減免を許可された学生の比率は少しずつ増えているものの⁴、全額免除が認められるケースは国立よりかなり少ない。国立では制度的に全額、または半額の免除が一般的であるのに対して、私立では半額未満の免除が免除者の3分の1程度を占めている。

2020年より開始される修学支援新制度の対象者におおよそ該当するとみなせる年収450万円未満の世帯出身者に対する授業料減免の現況（2018年）をみると、国立では全額免除36.4%、半額～全額未満9.5%と半数近い学生が授業料減免を受けているのに対して、公立では全額免除9.0%、半額～全額未満13.0%、私立では全額免除3.8%、半額～全額未満5.8%であった（図表は省略）。元々の授業料の絶対額が国公立と私立で異なるので全額免除の許可率を単純に比較して良いかという問題はあるものの、これまでのところ、国立大学のほうが経済的に困難な学生に対する支援策は手厚かったことは明らかである。

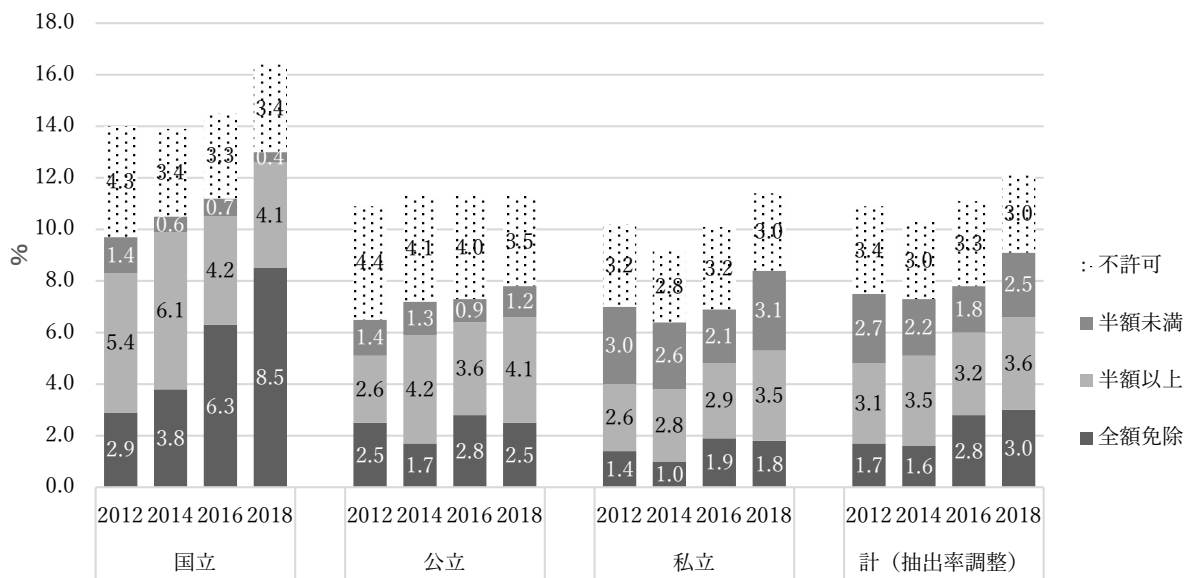


図3 授業料減免の許可状況の変化（2012～18年度）

新制度の下では、全ての対象者が世帯収入に応じて全額、2/3、1/3のいずれかの額の授業料減免を国の補助により受けられることが決定している（ただし、免除額に上限あり）。学生生活調査では、授業料減免の申請・可否について尋ねてきたものの、その結果をこれまで公式には公表してこなかった。今後は授業料減免制度の役割が大きくなるので、設問の選択肢の変更を含め、許可率の変化を検証可能にしていく必要があるだろう。

2. 家庭の経済状況と日本学生支援機構の奨学金受給の関係

2012年から18年の間に日本学生支援機構の貸与奨学金の利用者率は5ポイント程度減少し、とりわけ第二種奨学金（有利子貸与）利用者の減少が大きいことは先に述べたとおりである。マクロに見れば、世帯所得が向上（高所得層の割合が増加）したことにより、奨学金を必要とする者が減少したと考えられるが、このこと自体は、中～低所得層の奨学金受給者率には影響を及ぼさないはずである。また、もともと中所得層での利用が多い第二種奨学金の利用者率の減少が、第一種奨学金の増加を上回っていることから、中所得層において特に貸与奨学金の利用が減少しているとも想定される。以下、世帯の年間収入階級別に日本学生支援機構の貸与奨学金の利用状況がどのように変化したのかを検討しておこう。

表1に収入階級別の奨学金利用状況の変化ならびに各収入階級の調査年度ごとの構成比を示した。各収入階級の構成比はいずれの調査年度においてもほぼ20%前後（「850-1049万円」のみやや低い）、すなわち5分位階級におおよそ相当するように設定している。

表1 収入階級別 日本学生支援機構 貸与奨学金の申請・受給状況の変化（2012～18年度）

収入階級	調査年度	貸与奨学金受給者				非受給者			収入階級 構成比
		併用	一種のみ	二種のみ	受給者計	不採用	申請せず	必要ない	
450万円未満	2012	10.2	24.3	37.9	72.4	1.4	9.8	16.4	20.1
	2014	11.4	27.3	28.7	67.4	1.1	9.3	22.2	22.3
	2016	14.5	27.9	21.6	64.0	0.9	8.4	26.7	21.8
	2018	15.4	31.8	18.6	65.8	0.6	6.5	27.1	19.2
450-649万円	2012	3.5	14.5	38.0	56.0	1.4	10.5	32.2	21.8
	2014	5.1	17.2	34.2	56.5	0.9	6.6	36.0	21.4
	2016	7.6	19.2	28.3	55.1	1.0	7.0	36.9	20.3
	2018	8.2	22.6	23.9	54.7	0.8	5.9	38.6	19.6
650-849万円	2012	2.5	11.8	35.4	49.7	1.5	9.8	39.1	22.3
	2014	3.1	12.6	33.1	48.8	1.0	6.0	44.3	21.3
	2016	3.4	14.2	29.7	47.3	1.1	6.9	44.6	21.0
	2018	4.0	16.2	26.2	46.4	0.6	6.1	46.8	21.2
850-1049万円	2012	1.4	7.6	28.6	37.6	1.7	10.1	50.7	18.4
	2014	0.8	9.0	25.8	35.6	0.9	6.4	57.1	17.0
	2016	1.4	7.1	26.8	35.3	1.0	5.9	57.8	17.5
	2018	1.4	7.3	25.8	34.5	1.2	5.9	58.4	18.1
1050万円以上	2012	0.6	2.2	14.0	16.8	1.8	10.6	70.8	17.4
	2014	0.5	3.1	15.5	19.1	1.3	6.3	73.3	18.0
	2016	0.6	3.0	12.8	16.4	2.2	6.5	74.9	19.4
	2018	0.5	2.7	11.3	14.5	1.6	5.0	79.0	21.9

(1) 収入階級別 奨学金受給率の変化

まず「受給者計」（併用、第一種のみ、第二種をみの合計）の変化に着目すると、いずれの収入階級においても、日本学生支援機構奨学金の受給者率がこの期間に減少していることは読み取れるが、特に利用者率の減少幅が大きいのは「450万円未満」（72.4→65.8%、6.6ポイント減）という結果となった⁵。低所得層で減少が大きいというのは意外な結果にも思われるが、この間、低所得層に対する給付型奨学金や授業料減免措置の利用者が少しずつ増加していることにかんがみれば、ある程度想定できる結果といえるだろう。

(2) 有利子から無利子への転換

受給した奨学金の種類をしてみると、「650-849万円」以下の収入階級では、いずれも「第二種奨学金のみ」の比率が大きく減少し、第一種奨学金の利用者率が増加した。また、第一種が利用しやすくなったことを受けてか「450-649万円」以下では併用貸与を受けている比率も増加している。先にも述べたように、この間、「有利子から無利子への転換」が進められ、特に低所得層における学力基準の実質的撤廃、ならびに第一種奨学金の残存適格者⁶の解消により（いずれも2017年度より実施）、2018年調査では、「450万円未満」では「第一種のみ」が「第二種のみ」を大きく上回るようになり、「450-649万円」でも両者の比率が拮抗している。

一方、「650-849万円」（中所得層）では、「第二種のみ」の比率の減少に比して、第一種の利用者率はそれほど増加しておらず、「450万円未満」層の次に受給者率の減少が大きくなっている（3.3ポイント減）。「850-1049万円」についても受給者率自体は「650-849万円」より低くなっているものの、第二種奨学金の減少について同様の傾向が確認できる。返還負担の大きい有利子貸与の利用が避けられたことが奨学金利用者率の減少の主たる要因であることがうかがえる。

受給者率の変化が最も小さいのは「450-649万円」層であった（1.3ポイント減）。有利子から無利子への転換という点で制度変更の成果を受けているといえるものの、給付型奨学金や授業料減免の対象となることは「450万円未満」層より少なく、結果的に貸与奨学金への依存度が高い（利用せざるを得ない）層と考えられる。「450-649万円」は、2020年度からの修学支援新制度の対象外と想定されるので、今後も貸与奨学金が経済的支援策の中心となる公算が高い。新制度の対象となるか否かの境界での不公平感をいかに解消するかが大きな課題となることは不可避であろう。

(3) ローン回避の影響

貸与奨学金の利用者率が低下した要因としてしばしば言及されるのが、「ローン回避」の影響、すなわち卒業後の返還が大変なので貸与奨学金を利用しない、というものである。

表1の奨学金の利用を「希望したが申請しなかった」（表中の表記では「申請せず」）の比率は、2012年と比べるといずれの収入階級においても減少していること、また同一年度内では収入階級間によらずほぼ同じ比率となっていることが読み取れる。

この「希望したが申請しなかった」と回答した者に対しては、申請しなかった理由を「成績基準が合わなかった」、「収入基準が合わなかった」、「申請手続きが複雑なのでやめた」、「貸与のため返還が大変なのでやめた」、「他の奨学金を受けることができたのでやめた」、「その他」の6つの選択肢の中から一つ選ぶ形式で尋ねている。このうち「収入基準が合わなかった」を除いて⁷、収入階級別に申請しなかった理由の分布をみると、「貸与のため返還が大変」（＝ローン回避）とした者の比率は、2018年調査では「650-849万円」で47.4%となり、「450万円未満」の39.7%を上回っている⁸。「450万円未満」では「他の奨学金を受けたのでやめた」が20.5%いるのに対して、「650-849万円」におけるその比率は9.0%にとどまることがその要因であろう。また2012年調査における「650-849万円」のローン回避の比率は36.6%であったから、この間に8.8ポイントの増加となり、これは「450万円未満」の4ポイント増、「450-649万円」の6.9ポイント増よりも大きい。奨学金の返還困難の問題が社会的に喧伝されたことにより、全般的にローン回避の傾向が強まっているといえるが、その影響が特に現れているのが中所得層とみられるのである。

貸与奨学金である以上、返還困難のリスクは一定程度、常に存在するため、利用せずに済むのであればその方が望ましいという見方はあるだろう。中所得層以上であれば、大学に進学するか

否かの選択において経済的条件が強い制約となることはないかも知れない。しかし奨学金利用の実態をみると、2018年調査では、「450-690万円」で自宅通学者の場合の奨学金受給者率は43.9%に対して、アパート・下宿等から通学の場合は49.6%であり、自宅外通学のほうが、生活費が多くかかる分、奨学金の利用者がやはり多くなっている。より所得の高い「850-1050万円」においても、自宅生の受給者率29.6%に対して、アパート・下宿等の場合40.6%となっていて、両者の差はむしろ拡大する。貸与奨学金を利用せずに進学すること自体は可能であるとしても、ローン回避が進学先の選択肢を限定してしまう可能性を考慮しなければならないだろう。自宅から進学可能な大学の選択肢が少ない地方出身者において、その影響が大きいことは言うまでもない。

考えてみれば、日本学生支援機構（旧日本育英会）の奨学金制度は、進学先の大学（国公立/私立）、通学形態（自宅/自宅外）などに応じて受給額を変えているものの、奨学生への採用にあたり学費・生活費の必要額は考慮されず、家計収入（と学力）のみが基準とされてきた⁹。しかし居住地域によっては自宅外通学の費用は必要経費であって、所得水準が同じだとしても自宅外通学を余儀なくされる場合の方が、家計負担が大きいことは自明である。進学を希望する専攻分野によって授業料が異なるといった面もある。本来であれば、修学に必要な費用から、世帯の所得水準に応じた家計負担額を差し引いた額の大きい者から優先的に奨学生に採用される方式が望ましいだろう。無利子貸与のみの単純な制度で、かつ、利用者も限定的であった時代には受給額を変えるだけで十分であったとしても、給付型、無利子貸与、有利子貸与と複数の制度が並存し、利用者数も格段に拡大した今日にあっては、誰がより有利な制度を利用可能とするのか、制度の精緻化が求められるところである。

おわりに

本稿では、2012年度から18年度までの4時点の学生生活調査の個票データを再集計し、この期間における学生に対する経済的支援制度の変化を概観してきた。その知見を要約すれば以下のようなだろう。従来、学生に対する経済的支援制度の中核であった日本学生支援機構の奨学金制度は、「貸与」奨学金であるがゆえに、返還のリスクに対する社会的批判もあって2012年をピークにその受給者率は減少に転じた。この間、日本学生支援機構以外の奨学金や大学の授業料減免制度を通じて、特に低所得層に対する経済的支援は拡充しつつある。一方、中所得層（以上）においては依然として貸与奨学金による支援が中心であり、有利子から無利子への転換など返還負担を軽減する対応策が講じられてきたものの、一部でローン回避傾向が強まっていることが確認された。

学生による回答ということで、とりわけ世帯収入が正確に把握できているかについて、率直に申し上げてかなり懸念があるものの、全体的な傾向としては2010年代に実施された様々な制度改革の成果に合致しており、実態と大きくズレはないものとする。

再三、言及してきたように2020年度から授業料減免と給付型奨学金を核とする新制度が導入され、本稿で扱った各制度の利用率は低所得層を中心に大きく変化することが見込まれる。次回の学生生活調査ではその点が大きな論点となるだろう。一方で、新制度のインパクトの大きさゆえに、中所得層（以上）に対する支援に対する関心が弱まることも懸念される。しかし（少なくとも学生生活調査では）中所得層においても経済的支援策を必要とする学生の割合はかなり高い。そこであえて、中所得層以上に対する支援が抱える課題に多く言及してきた。本稿におけるデータの整理が、この課題を考える上での一助となることを期待したい。

¹ 2018年度の受給者率には給付型奨学金を受給していると回答した者を含む。なお数値は、6-1表におけるいずれかの奨学金受給者率に、7表における「日本学生支援機構」および「両方」(＝日本学生支援機構とその他の奨学金の双方を受給している)の比率を乗じることにより日本学生支援機構の奨学金受給者率として算出したものである。

² 『JASSO年報』各年度版において、奨学金の種類別(無利子貸与、有利子貸与、給付(2017年度以降))の受給者数と全学生数の比率が報告されている。ただし、複数の奨学金を併用受給している学生がいるため、これらの比率を合計しても厳密には受給者率とは一致しない。

³ 日本学生支援機構(2018)「平成28年度学生生活調査結果」p.24

⁴ 図3では、2012年から2014年にかけて、公立、私立の授業料全額免除の許可率が若干低下している。2012年調査の集計用データでは、学生生活費(年間の収入・支出額)を尋ねた設問において、授業料の支出額が無回答であった者を支出額ゼロとみなし、(元の回答がいずれであったかにかかわらず)授業料の全額減免を受けたものとしてアフターコードされているため、そのまま計算すると全額減免を受けた者の比率が(図3の数値より)さらに高くなってしまい、という問題がある。図3では、授業料支出額が無回答だったことにより全額減免を受けたとコードされたと思われる者の授業料減免に対する回答を「無回答」として比率を算出する際の分母から除いてある(2012年のみ)。よって実際に授業料減免を許可された者の比率をやや上回っている可能性が高い。この場合、2012年から18年の間に、公立、私立においても授業料減免を受けられた者は拡大していると考えられる。

⁵ ただし実際に大きく受給者率を減らしたのは、2012年から14年にかけてであった。16年から18年ではわずかに上昇しており、14年以降の変化は他の収入階級とあまり異なっていないともいえる。2014年以降は「450万円未満」と「450-649万円」の受給者率の差はおよそ10ポイント程度であるのに対して、2012年は16.4ポイント差と乖離が大きい。これらのことを考慮すると2012年の「450万円未満」の受給者率が高い値に偏っているのかも知れない。先に指摘した2012年調査の授業料減免についての設問と同様に、日本学生支援機構の奨学金の利用状況についても、集計用データには無回答が皆無であるなど、何らかのアフターコードがされている可能性は否めない。なお、2012年は東日本大震災の影響により奨学金受給者率が高くなっていることも考えられたが、東北各県の出身者において特段、受給者率が高いという傾向は確認できなかった。

⁶ 学力、所得ともに受給基準を満たしているものの採用者数の関係で奨学金を受給できなかった者のことをさす。

⁷ 「収入基準が合わなかった」を理由に挙げる者は、当然、収入が高い層ほど多くなる。収入が基準を超えていることは、申請しなかった理由というよりは、そもそも申請資格がないと解釈すべきである。なお「学力基準が合わなかった」についても同様のことが指摘できるが、第二種奨学金の申請においては、学力基準は実質的に大きな制約となるものではない。

⁸ ただし、奨学金を申請しなかった理由として、ローン回避を挙げた比率が最も高いのは「1050万円以上」の50.1%であった。

⁹ もちろん家族構成等に基づき収入を控除することで、個々の世帯の事情を考慮していないわけではない。

アルバイト状況

岩田 弘三（武蔵野大学）

ここでは以下、4年制大学（6年制学部を含む）昼間部の学生に限定して、そのアルバイト状況について2018年度の状況を中心にみていく。

まず図1で、アルバイト従事状況について確認しておこう。①「授業期間中に経常的にアルバイトをしている学生の比率」は、2016年度から急激に上昇しており、18年度にもその傾向が継続している。さらに、②「臨時的なものを含めて授業期間中にアルバイトをしている学生の比率」、および③「経常的・臨時的なアルバイトを含めて、1年間に何らの形でアルバイトに従事した学生の比率」も、16年度に大きく増加している。しかし、②・③の増加の程度は、①より小さい。よって、授業期間中の臨時的アルバイト、長期休暇期間中のみに行うアルバイトは、減少していることになる。18年度には、授業期間中の経常的なアルバイトは73.2%と、全学生の4分の3近くにまで広まっており、学生アルバイトといえば、授業期間中に経常的に行うものといった具合に、「アルバイトの日常化」の波が、いまやほとんどの学生を覆い尽くす状態にまで浸透しているといえる。

なお、前回の『平成28年度 学生生活調査結果』で指摘したように¹⁾、2014年度における①～③の比率は、かなり低ブレしている可能性が高い。この点を勘案すれば、①～③の上昇は、14年度に始まる動向といえる。

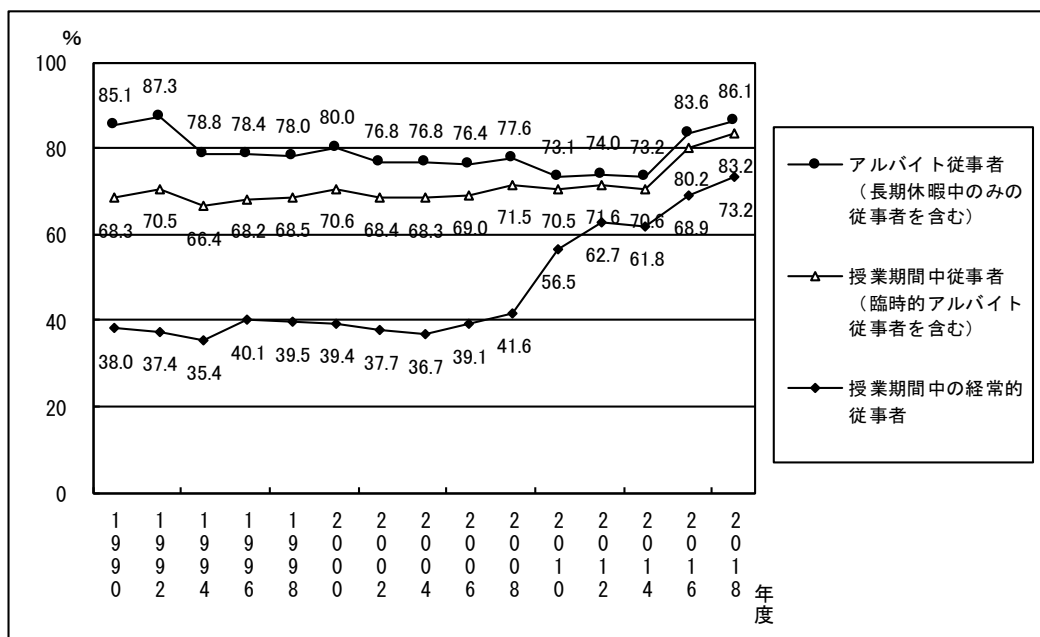


図1. アルバイト従事状況

図注) 2008年度までについては、「長期休暇中のみ従事」、「授業期間中に臨時的に従事」、「授業期間中に経常的に従事」、「長期休暇中にも授業期間中にも従事」、の4つの選択肢をもとにした質問がなされていた。そこで、これらの年度における「授業期間中の経常的従事者」については、「長期休暇中にも授業期間中にも従事した」学生の授業期間中のアルバイト勤務形態が、「授業期間中に臨時的に従事」した学生と、「授業期間中に経常的に従事」した学生の比率を反映しているものとして推計している。

つぎに、図2で、アルバイト収入額の推移についてみてみよう。アルバイトに従事していない学生を含めたアルバイト収入額(実額平均)は、2016年度から増加をみせ、その傾向は18年度にも継続している。アルバイト収入の実額平均値は、アルバイト収入の有額平均値(アルバイトをしている学生だけを取り出した場合のアルバイト収入)×アルバイト従事率(アルバイトをした学生の比率)で算出される。つまり、その実額平均は、アルバイト従事率が高くなった場合にも、あるいはアルバイト収入の有額平均値が上昇した場合にも、増加する。それでは、16年度以降の、アルバイト収入(実額平均)の増加は、主としてどちらの要因によってもたらされたのだろうか。

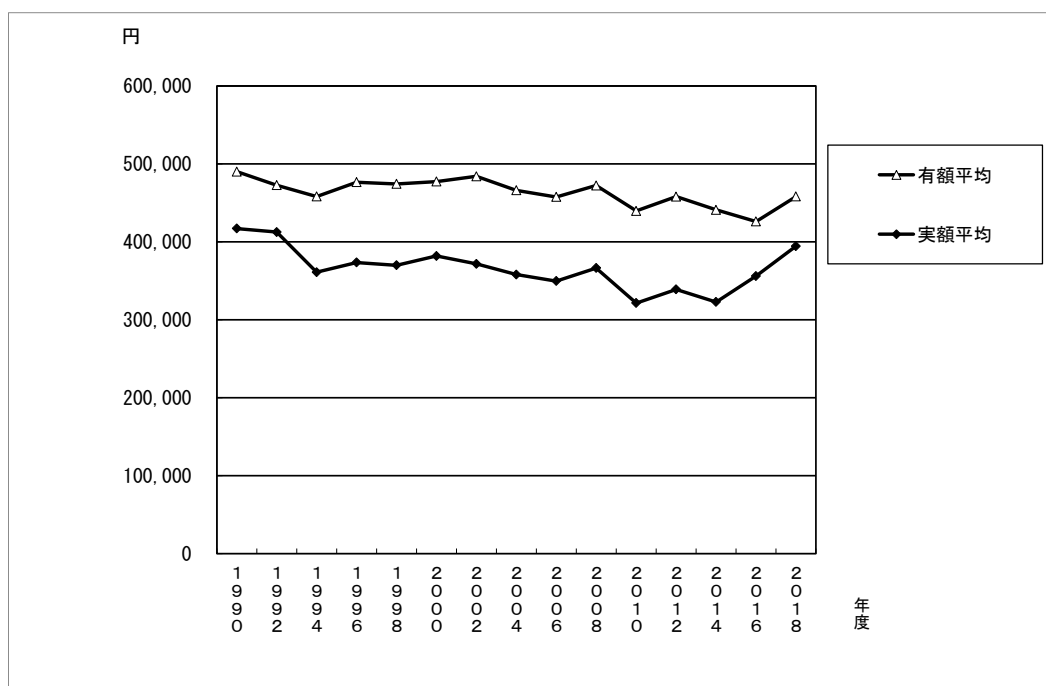


図2. アルバイト収入(年収)

図注) ①有額平均については、全学生の平均アルバイト収入額を、アルバイト従事率で除して計算。
 ②各年度の数値は、2015年の消費者物価指数をもとに最近の円価格に換算してある。

なお、先に指摘したように、2014年度におけるアルバイト従事率は、かなり低ブレしている可能性が高い。その点を勘案して、16年度のアルバイト従事率を援用して、14年度のアルバイト収入の有額平均を推計すれば、その収入額は、16年度より低くなる。よって、アルバイト収入の有額平均の上昇は、16年度以降の傾向になると推測される。

こうしてみると、2016年度以降のアルバイト収入(実額平均)の増加は、アルバイトをする学生が増えたのみならず、アルバイトをしている学生だけを取り出した場合のアルバイト収入(アルバイト収入の有額平均)が上昇する、といった2つの現象が同時進行した結果、もたらされたものであるといえる。

ここで、アルバイト収入の有額平均が、2016年度以降に増大した理由としては、時給の増加が大きな要因となっている。アルバイト年収と、週当たりのアルバイト時間をもとに、アルバイト時給を算出してみれば²、表1に示したように、その平均時給は、学生全体で見れば、14年度には626.6円であったものが、その後の最低賃金の大幅な上昇、および人手不足による賃金増加などの影響を受け、16年度には670.3円、18年度には701.9円へと、この4年間に75.3円も急上昇している。このような傾向は、職種別にみても基本的には確認できる。

そして、2014～18年度間で、アルバイト学生だけを取り出した場合のアルバイト時間には、ほとんど変化がみられない。よって、アルバイト時間の増加によって、アルバイト収入が増加したわけではない。また、図3から分かるように、14～18年度間で、アルバイト職種構成はほとんど変化していない。それゆえ、時給の低いアルバイト職種から、時給の高いアルバイト職種へのシフトがみられるわけではない。

つまり、2016年度以降のアルバイト収入の有額平均の増大は、どの職種でも時給が上昇した結果、生じた現象だったことになる。

2014年度のアルバイト従事率は、低ブレしている可能性が高い。その影響で、アルバイト収入については、有額平均は別として、実額平均も低ブレしている可能性が高い。だとすれば、アルバイト従事率、およびアルバイト収入(実額平均)の増加は、14年度に始まる現象だったとみなせる。

だとすれば、2014年度以降にアルバイトが活発化した原因は、どこにあるのだろうか。13年初めには、日本弁護士連合会が開始した、奨学金返済問題に関する電話相談の内容が、大きく報道されることになった。それを契機に、日本学生支援機構(JASSO)奨学金の長期滞納者がJASSOの回収スキームのもとで、いかなる苦境に陥る可能性があるのか、といった問題についての報道が、地方紙でも相次ぐことになる。その結果、この問題がそれまで以上に、社会により広く知れわたるようになる³。とくにそれによる影響を受け、遅くとも14年度には、JASSO奨学金の貸与を避けたり、貸与を受ける場合でも貸与額を減らしたりする、といった両面での借り控え傾向が顕著になっていった。

表 1. 職種別アルバイト時給

(1) 2018 年度

アルバイト職種	度数 (人)	週当たり アルバイト収入 (円)	週当たり アルバイト時間 (時間)	アルバイト 時給 (円)
塾講師・家庭教師など	2,044	8,191	10.0	816.2
事務	357	8,457	11.9	708.5
販売	3,238	9,953	14.5	685.9
飲食業	6,019	10,542	15.2	692.2
販売・飲食業を除く軽労働	825	8,706	13.1	662.3
重労働・危険作業	139	9,453	12.9	733.2
特殊技能	161	9,942	12.5	797.1
その他	845	8,618	13.2	652.5
合計	13,628	9,746	13.9	701.9

(2) 2016 年度

アルバイト職種	度数 (人)	週当たり アルバイト収入 (円)	週当たり アルバイト時間 (時間)	アルバイト 時給 (円)
塾講師・家庭教師など	1,593	7,424	9.4	789.6
事務	312	7,173	11.4	627.6
販売	2,230	9,374	14.5	647.7
飲食業	3,884	9,774	14.7	664.6
販売・飲食業を除く軽労働	543	7,661	12.6	608.3
重労働・危険作業	104	8,327	12.6	660.1
特殊技能	124	8,899	12.2	729.8
その他	535	7,776	12.3	634.1
合計	9,325	8,924	13.3	670.3

(3) 2014 年度

アルバイト職種	度数 (人)	週当たり アルバイト収入 (円)	週当たり アルバイト時間 (時間)	アルバイト 時給 (円)
塾講師・家庭教師など	1,421	6,746	9.1	738.3
事務	290	8,201	12.3	667.1
販売	2,226	9,250	15.5	597.8
飲食業	3,850	9,609	15.4	625.0
販売・飲食業を除く軽労働	530	7,393	13.3	554.6
重労働・危険作業	112	7,500	13.9	538.1
特殊技能	116	8,551	12.9	662.2
その他	546	7,944	12.4	639.4
合計	9,091	8,760	14.0	626.6

表注) (1)ここでの時給は、年間アルバイト総収入額を、週当たりの収入額に換算し、それを、直近の1週間のアルバイト時間で除した数値を用いている。

(2)最近1週間のアルバイト時間は、1 = 「0 時間」、2 = 「1-5 時間」、3 = 「6-10 時間」、4 = 「11-15 時間」、5 = 「16-20 時間」、6 = 「21-25 時間」、7 = 「26-30 時間」、8 = 「31 時間以上」の8つの選択肢を用いた質問になっている。そこで、2～7の選択者については、その範囲の中間値、8については33時間の数値を与えて、平均を算出。

(3)①最近1週間のアルバイト時間、②アルバイト年間収入、③アルバイト職種のいずれにも回答し、①については1時間以上、②については1円以上の回答者に限った集計。

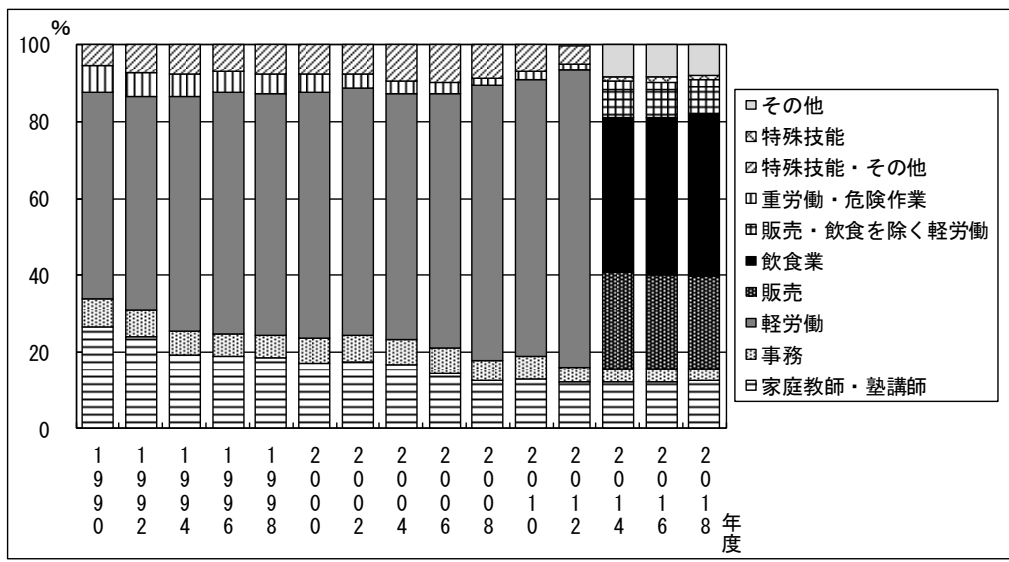


図3. アルバイト職種

具体的にいえば、『学生生活調査』データをもとにすると、図4に示したように、JASSO 奨学金受給率（JASSO 奨学金の貸与を受けた学生の比率）は、1999年に、有利子奨学金の貸与基準を引き下げることによって貸与者の量的拡大を図る、「きぼう21プラン」の導入にともない、2000年度以降⁴、急増傾向をみせていた。それが、12年度をピークとして、遅くとも14年度以降、減少に転じる。奨学金収入額（JASSO以外の奨学金を含む）についても、図5から分かるように、同様の傾向が確認できる。

しかも、2016年度から18年度にかけて、JASSO 奨学金受給率は、2017年度から導入が開始された、給付奨学金の受給者を含めても、43.8%から43.4%へと、わずかとはいえ、さらに減少がつづいている。同様に、奨学金収入（JASSO以外の奨学金を含む）も、給付奨学金の収入額を含めてさえ、38.53万円から35.96万円へと低下している。18年度にも「JASSO 貸与奨学金離れ」がつづいていることは明らかである。

前回の『平成28年度 学生生活調査結果』で指摘したように、このような「貸与(JASSO)奨学金離れ」が進行したことによって、奨学金収入が減少した結果、その減少分を、アルバイトによって補う傾向が強くなった。

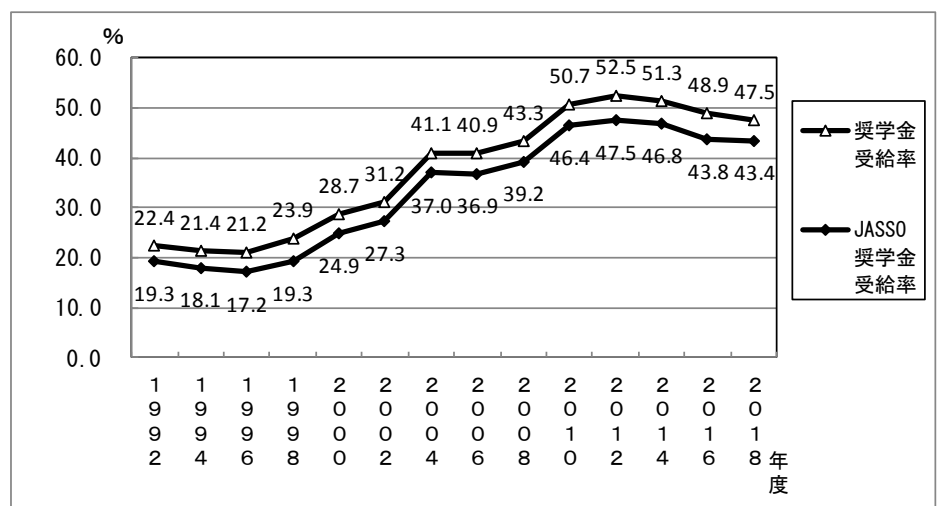


図4. 奨学金受給率

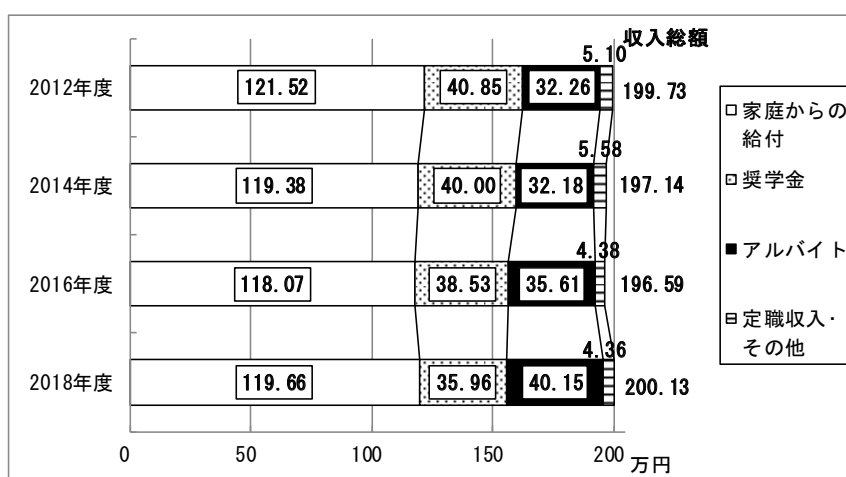


図5. 学生生活費収入構成

しかし、アルバイト収入は、2016年度から18年度にかけて35.61万円から40.15万円へと、奨学金収入の減少分を上回る規模で増大している。しかも、1996～2002年度の時期をピークに、その後、減少をつづけていた「家庭からの給付」が、16年度から18年度にかけて、118.07万円から119.66万円へと、ついに増加に転じたにもかかわらず、である。国税庁『民間給与実態統計調査結果』をもとにすると、民間企業サラリーマンの1年勤続者(1年を通じて勤務した給与所得者)の給与・手当を含む給与年収は、1997年以降2012年までは、基本的には低下傾向にあった。それが、この年を底に、それ以降、統計が公表されている最新年となる17年まで増加に転じる。家計年収増加の効果が、ようやく18年度には、家庭からの給付の増加にまで及んだことになる。

それはさておき、2002年度をピークに16年度まで、この家庭からの給付の減少が主要因となって、学生生活費収入総額も、基本的には減少の一途をたどっていた。それが、家庭からの給付の増加のみならず、より大きな要因としてはアルバイト収入の増加によって、学生生活費収入総額も、04年度以降つづいた減少傾向から抜け出し、16年度から18年度にかけて、196.59万円から200.13万円へと、一転して増加に転じる。

こうしてみると、アルバイトは、奨学金収入への依存を弱める目的だけにとどまらず、学生生活費収入総額の増大をも目的として、活発化したことになる。

それでは、2016年度から18年度にかけては、家庭からの給付の十分さとの関係でみた場合に、どのような経済状況にある学生のなかで、アルバイトが増加したのであろうか。図6でみていこう。この図は、全学生を母数とした比率で表示している。よって、各年度の棒グラフの最上端は、学生全体のなかでのアルバイト従事率を示している。

「家庭からの給付なし」+「家庭からの給付のみでは修学継続困難」+「家庭からの給付のみでは修学不自由」なためのアルバイトを、「経済的事情によるアルバイト」とみなせば、そのようなアルバイト学生の比率は、2006年度を底に、08年度以降、10・12年度あたりまで増加傾向にあった。それが、12年度から14年度にかけて、約5ポイント規模で大きく減少した後、18年度まで、ほぼ横ばいを維持している。

これに対し、「家庭からの給付のみで修学可能」なアルバイト学生、つまり経済的には必ずしもアルバイトを行う必要のない学生は、2010年度を底に、その後、18年度まで急増の一途をたどっている。

そしてついに、学生全体の 52.0%と、バブル経済崩壊による不況の影響が現れる以前の時期においてのピークであった、1992 年度と同じ水準にまで達することになった。

先に図 1 のところで指摘したように、アルバイト従事率(経常的・臨時的なアルバイトを含めて、1 年間に何らの形でアルバイトに従事した学生の比率)も、2010 年度を底に、その後、18 年度まで増加の一途をたどっている。こうしてみると、これらの年度間におけるアルバイト従事率の増加は、「家庭からの給付のみで修学可能」な学生がアルバイトに回帰したことによって、もたらされたものである点も明らかといえる。

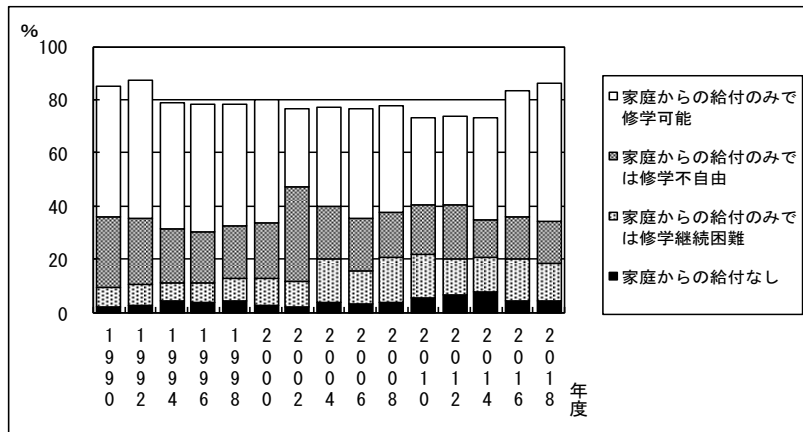


図 6. アルバイトの必要度

(数値の一部には分析者による集計値が含まれる。)

¹ 以下の①の文献参照。さらに、それを加筆・修正してより詳しい報告を行ったものとしては、②の文献を参照。

①岩田弘三「アルバイト状況」、独立行政法人 日本学生支援機構『平成 28 年度 学生生活調査結果』、2018 年。

②岩田弘三「近年における学生アルバイト従事率急増の要因」、『武蔵野大学教養教育リサーチセンター紀要 The Basis』第 9 号、2019 年。

² 2014 年度以降に限って見ていくのは、12 年度までは、「アルバイトの就労時間」を数値でそのまま記入する形式が採用されていたため、14 年度以降とは、厳密さを期せば連続性をもたないからである。

なお、今回の方法で算出した時給については、以下のような問題の存在することを指摘しておく必要がある。

(1) 直近の 1 週間にはアルバイトを行っていたものの、1 年をとおしてアルバイトを行っていない場合には、時給は低めに算出されることになる。

(2) 『学生生活調査』では、アルバイト職種については、複数回答を認めていない。しかし、2 つ以上の職種を掛け持ちしている学生も存在する。そのような学生の場合、アルバイト職種については、主要な職種を 1 つだけ選んで、回答せざるをえない。一方、年間のアルバイト収入には、2 つ以上の職種を合計した額が記載されることになる。よって、今回のアルバイト時給の算出方法では、時給が高いアルバイト職種については、ここで算出された数値以上に、実際には時給が高い可能性が強い。逆に、時給が低い職種については、ここで算出された時給額は、過大評価されている可能性が強い。

(3) 1 年間のうちにアルバイト職種を変えた学生も存在する可能性がある。この場合には、仮に同じ時間だけ働いたとしても、学生が主要職種として申告したアルバイト職種の時給が高いときには、その職種の時給は過少に算出され、逆のときは過大に算出されることになる。のみならず、アルバイト時間そのものが変化した可能性もある。

(4) 極端な例でいえば、ブラックバイト問題の一つとして指摘されているように、サービス残業などのように、賃金が支払われない労働を余儀なくされている場合も存在すると考えられる。しかし、このような場合も、生活時間として質問したときには、その種の時間もアルバイト時間に含めての回答にならざるをえない。だとすれば、とくにそういった行為が横行しているアルバイト職種では、時給は低めに出てくることになる。

³ 白川優治「『奨学金』の社会問題化過程の基礎的分析—2004 年以降の全国紙 5 紙の掲載記事を対象に—」、『大学論集』第 50 集、広島大学 高等教育研究開発センター、2018 年 PP. 42-44。

⁴ 『学生生活調査』は隔年実施のため、1999 年度には調査は行われていない。2013 年度についても同様である。

「大学生の不安や悩み」と諸支援の利用状況について

望月 由起（日本大学）

本稿では「大学生（昼間部）」を分析対象とし、大学生の不安や悩みの傾向を概観するとともに、大学の提供する諸支援の利用状況との関連についてもみていく。

1. 大学生の不安や悩みの傾向

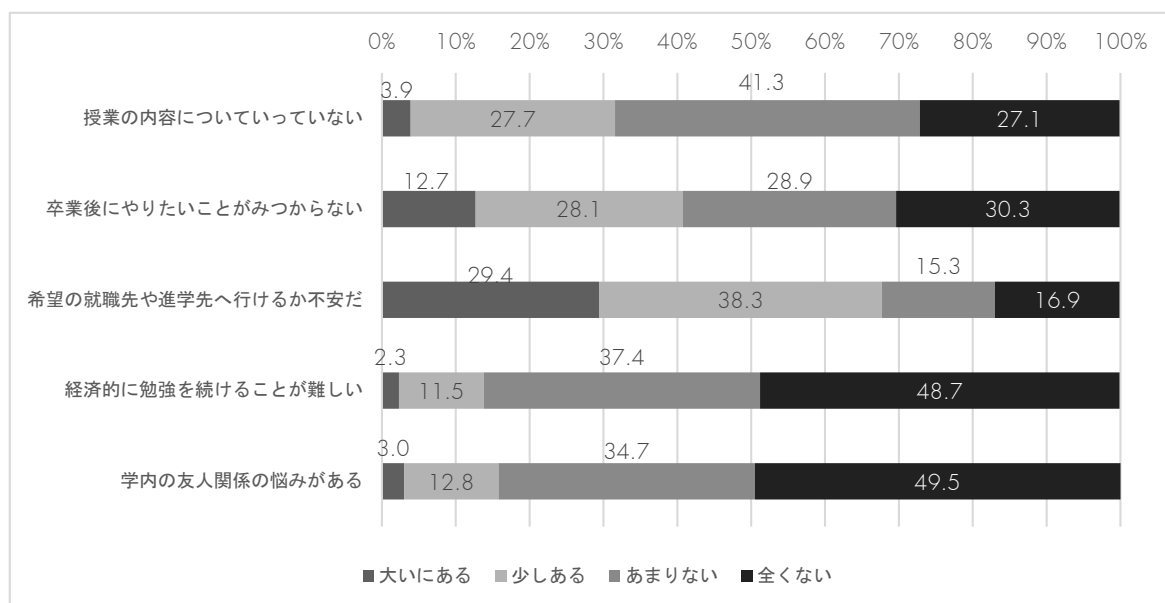
（1）平成 30 年度調査からみた「現状」

まずは平成 30 年度調査（以降、「本調査」とする）に基づき、大学生の不安や悩みの現状について概観していく。

図 1 は、大学生の不安や悩みとして設定した 5 項目について、それぞれ「大いにある」「少しある」「あまりない」「全くない」の 4 件法で尋ねた集計結果を図示したものである¹。

「希望の就職先や進学先へ行けるか不安だ」について、「大いにある」と「少しある」の回答率の合算（以降、「該当率」とする）は 67.7%と最も高く、それに次ぐ「卒業後にやりたいことがみつからない」でも該当率が 40.8%みられることを考えると、卒業後の進路に関する不安や悩みを抱える大学生は多いことがわかる。

図 1. 大学生の不安や悩み



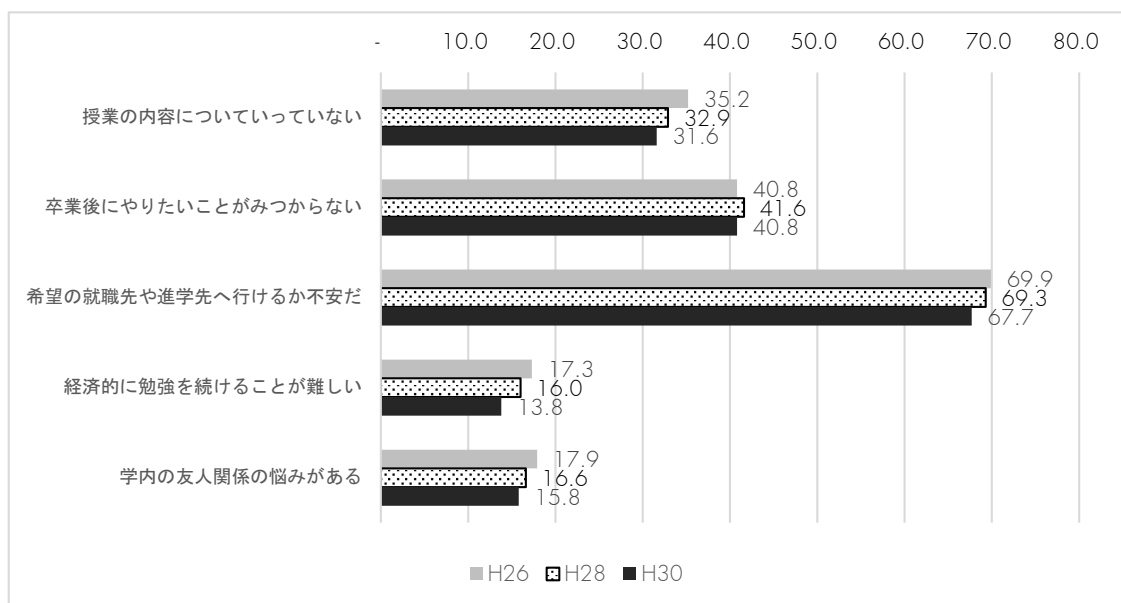
（2）平成 30 年度調査・平成 28 年度調査・平成 26 年度調査からみた「変容」

では、大学生の不安や悩みはどのように変容しているのだろうか。本調査と同様の質問項目を設定した平成 26 年度調査、平成 28 年度調査との比較を通してみていくこととする。

図 2 は、各年度の調査の集計結果に基づき、該当率の変容を図示したものである。「卒業後にやりたいことがみつからない」には大きな変容がみられないが、その他の不安や悩みに関しては、年々、その該当率は低くなっていることがわかる。

図 2. 大学生の不安や悩みの変容

(%)



(3) 大学生の属性別にみた不安や悩みの「現状」

前節までは集計結果に基づいて大学生全体の傾向を概観してきたが、本節では大学生の属性、具体的にいえば「性別」「学年」「学科系統」ごとに、本調査における大学生の不安や悩みの傾向をより具体的に示していく。

1) 性別

表 1 は、大学生の不安や悩みとして設定した 5 項目の回答率について、大学生の性別ごとに示したものである。

表 1. 性別にみた大学生の不安や悩み

(%)

		大いにある	少しある	あまりない	全くない
授業の内容についていけない	男子 (N=9,914)	4.5	27.2	39.5	28.9
	女子 (N=10,126)	3.2	28.0	43.0	25.8
卒業後にやりたいことがみつからない	男子 (N=9,919)	14.3	28.7	28.1	29.0
	女子 (N=10,128)	10.9	27.8	30.5	30.8
希望の就職先や進学先へ行けるか不安だ	男子 (N=9,917)	26.5	38.3	16.5	18.7
	女子 (N=10,121)	30.5	38.8	14.9	15.8
経済的に勉強を続けることが難しい	男子 (N=9,916)	2.3	12.2	37.1	48.3
	女子 (N=10,122)	1.9	9.9	36.6	51.5
学内の友人関係の悩みがある	男子 (N=9,921)	2.8	11.1	34.1	52.0
	女子 (N=10,129)	3.0	14.5	35.9	46.6

※網掛けは、性別の該当率の差が 4.0 ポイント以上

先に「希望の就職先や進学先へ行けるか不安だ」「卒業後にやりたいことがみつからない」の該当率が高いことを示したが（図 1 参照）、前者は女子に多く（男子と 4.5 ポイント差）、後者は男子に多い（女子と 4.3 ポイント差）ことがわかる。特に前者について、「大いにある」の回答率が 4.0 ポイントも女子の方が高いことは特筆すべき結果であろう。

2) 学年別

表 2 は、大学生の不安や悩みとして設定した 5 項目の回答率について、大学 1 年生から 4 年生の学年ごとに示したものであるⁱⁱ⁾。

表 2. 学年ごとにみた大学生の不安や悩み

		(%)			
		大いにある	少しある	あまりない	全くない
授業の内容についていけない	1年生 (N=5,057)	4.8	36.7	41.6	16.9
	2年生 (N=4,826)	4.8	34.3	43.1	17.7
	3年生 (N=4,858)	3.5	24.6	46.4	25.6
	4年生 (N=4,894)	2.4	14.9	34.3	48.4
卒業後にやりたいことがみつからない	1年生 (N=5,059)	14.1	30.8	28.7	26.4
	2年生 (N=4,829)	16.3	33.7	27.8	22.2
	3年生 (N=4,860)	14.2	32.6	29.9	23.3
	4年生 (N=4,894)	6.6	17.2	30.2	46.0
希望の就職先や進学先へ行けるか不安だ	1年生 (N=5,057)	29.5	47.0	15.7	7.8
	2年生 (N=4,826)	34.3	45.9	12.8	7.0
	3年生 (N=4,856)	39.4	42.3	12.0	6.3
	4年生 (N=4,894)	12.5	19.7	21.6	46.3
経済的に勉強を続けることが難しい	1年生 (N=5,057)	1.6	11.1	41.0	46.4
	2年生 (N=4,826)	2.3	12.3	41.0	44.4
	3年生 (N=4,857)	2.6	11.5	38.3	47.6
	4年生 (N=4,893)	2.1	9.6	27.8	60.6
学内の友人関係の悩みがある	1年生 (N=5,060)	3.3	15.3	37.2	44.3
	2年生 (N=4,831)	3.6	15.6	37.8	43.0
	3年生 (N=4,860)	2.8	11.6	36.9	48.7
	4年生 (N=4,894)	1.9	9.0	28.1	61.0

※網掛けは、学年ごとの該当率の最大と最小の差が 20.0 ポイント以上

先に「希望の就職先や進学先へ行けるか不安だ」の該当率が最も高いことを示したが（図 1 参照）、その不安や悩みが最も目立つのは 3 年生であり、その該当率は 81.7%にも及んでいる。特に着目すべきは、「大いにある」の回答率である。「少しある」は 1～3 年生でさほど変わらないのに対し、「大いにある」は、1 年生 29.5%、2 年生 34.3%、3 年生 39.4%と 5 ポイント程度ずつ高まる傾向を示しており、その不安や悩みの程度の大きさもうかがえる。しかし、4 年生では 32.2%と 49.5 ポイントも少ない。本調査は 11 月に実施をしているため、内定式も終えて就職先が決定した学生が多くいるためと思われる。

先の分析（図 1 参照）でこの項目に次いで該当率が高い「卒業後にやりたいことがみつからない」は、2 年生が 50.0%と最も高い該当率であった。3 年生になると就職に関するガイダンスが本格的に始まったり、インターンシップを経験したり、専門科目の履修も増えると思われるが、こうした経験が少ない 2 年生では、卒業後の進路に対する漠然とした不安や悩みを抱える学生も多くみられるのではなかろうか。なお該当率が最も低いのは 4 年生の 23.8%であり、26.2 ポイントもの差が示されている。

これらの卒業後の進路に関する不安や悩みに加え、「授業の内容についていけない」といった不安や悩みでも学年による該当率の差が大きい。具体的にいえば、最も該当率が高いのは 1 年生であり

41.5%に及んでいる。高等学校までの授業より難易度が高くなるだけでなく、スタイルの異なる学びも多いことがその要因として考えられる。なお該当率が最も低いのは4年生の17.3%であり、24.2ポイントもの差が示されている。

3) 学科系統別

同様に、学科系統別による傾向についてもみていく。ただし、性別や学年とは異なり、本調査で選択肢とした学科系統の数が多いため、学科系統による該当率の差が大きく示された「授業の内容についていけない」「卒業後にやりたいことがみつからない」「希望の就職先や進学先に行けるか不安だ」の3項目に焦点をあてて分析を行うこととするⁱⁱⁱ⁾。

① 「授業の内容についていけない」

表3は、「授業の内容についていけない」の回答率について、「その他」を除く、「文・外国語・国際・文化系」「法・政・経・商・社系」「理・工系」「農系」「薬系」「医・歯系」「看護・保健系」「教育・教員養成系」「福祉系」「家政・生活系」「芸術系」「スポーツ系」の学科系統ごとに示したものである。

表3. 学科系統ごとにみた「授業の内容についていけない」

	(%)			
	大いにある	少しある	あまりない	全くない
文・外国語・国際・文化系 (N=2,970)	2.8	23.7	43.0	30.5
法・政・経・商・社系 (N=4,184)	4.1	25.9	41.5	28.5
理・工系 (N=4,178)	5.5	32.9	36.9	24.7
農系 (N=660)	2.1	27.9	38.0	32.0
薬系 (N=621)	6.9	30.9	40.6	21.6
医・歯系 (N=855)	4.7	29.6	39.4	26.3
看護・保健系 (N=1,854)	3.8	33.6	43.1	19.5
教育・教員養成系 (N=1,357)	1.8	18.6	45.6	34.0
福祉系 (N=529)	2.6	28.9	42.7	25.7
家政・生活系 (N=594)	4.4	34.3	39.6	21.7
芸術系 (N=783)	2.4	22.2	46.2	29.1
スポーツ系 (N=563)	2.3	17.1	46.2	34.5

※網掛けは、該当率が30%を超えている学科系統

該当率が最も高いのは「家政・生活系」の38.7%であり、「理・工系」38.4%、「薬系」37.8%、「看護・保健系」37.4%がそれに続いている。他にも、「医・歯系」「福祉系」「農系」では30%を超えている。「看護・保健系」は「全くない」が19.5%と他の系統より低いことから、こうした不安や悩みをもつ学生が系統全体でみても多いといえるだろう。

その一方で、該当率が最も低いのは「スポーツ系」の19.4%であり、次いで「教育・教員養成系」20.4%となっている。2つの系統ともに「全くない」が30%を超えており、系統全体でみても、こうした不安や悩みを抱く学生は少ないことがわかる。

② 「卒業後にやりたいことがみつからない」

同様に、表4は「卒業後にやりたいことがみつからない」の回答率を学科系統ごとに示したものである。

表 4. 学科系統ごとにみた「卒業後にやりたいことがみつからない」

(%)

	大いにある	少しある	あまりない	全くない
文・外国語・国際・文化系 (N=2,972)	17.6	34.5	24.3	23.6
法・政・経・商・社系 (N=4,184)	17.3	32.5	26.6	23.5
理・工系 (N=4,181)	14.6	32.7	29.9	22.8
農系 (N=661)	12.1	30.9	29.3	27.7
薬系 (N=621)	5.0	16.6	40.6	37.8
医・歯系 (N=856)	5.4	12.9	33.4	48.4
看護・保健系 (N=1,854)	2.7	14.7	35.8	46.8
教育・教員養成系 (N=1,358)	5.7	16.2	29.4	48.7
福祉系 (N=530)	10.9	27.9	30.9	30.2
家政・生活系 (N=593)	10.6	27.3	31.2	30.9
芸術系 (N=783)	10.0	29.0	32.1	29.0
スポーツ系 (N=562)	9.3	25.6	25.8	39.3

※網掛けは、該当率が40%を超えている学科系統

該当率が最も高いのは「文・外国語・国際・文化系」の52.1%であり、半数を超えている。それに続いて、「法・政・経・商・社系」が49.8%、「理・工系」が47.3%、「農系」が43.0%であった。これらの系統では「全くない」がいずれも3割に満たず、系統全体として、こうした不安や悩みをもつ学生が多いことがわかる。これらの系統では、卒業後の進路の選択肢が多く、多様であるがゆえに、「卒業後にやりたいこと」がまだみつからない（漠然としている）ような学生も多いのではなかろうか。

その一方で、該当率が最も低いのは「看護・保健系」の17.4%であり、次いで「医・歯系」18.2%、「薬系」21.6%、「教育・教員養成系」21.9%となっている。これらの特定の専門職と直結するような系統では、それに関連づいて「卒業後にやりたいこと」が明確な学生が多く、こうした悩みや不安をもつ学生は少ないものと思われる。

③「希望の就職先や進学先へ行けるか不安だ」

最後に表5は「希望の就職先や進学先へ行けるか不安だ」の回答率を学科系統ごとに示したものである。

該当率が最も高いのは「福祉系」の74.9%で、それに続いて「芸術系」73.7%、「文・外国語・国際・文化系」71.5%という結果となった。これらの系統以外でも、「家政・生活系」「法・政・経・商・社系」「農系」「理・工系」「スポーツ系」「教育・教員養成系」では6割を超える該当率となっており、多くの学生がこうした不安や悩みを持っていることがわかる。

その一方で、該当率が5割に満たないのは「医・歯系」のみである。その「医・歯系」でも41.0%と低い該当率ではない。先に、特定の専門職と直結するような系統では、「卒業後にやりたいことがみつからない」といった不安や悩みをもつ学生が他の系統に比べて少ないことを示したが（表4参照）、「希望の就職先や進学先へ行けるか」といった不安や悩みをもつ学生は、こうした系統でも少なくないことがわかる。

表 5. 学科系統ごとにみた「希望の就職先や進学先へ行けるか不安だ」

	(%)			
	大いにある	少しある	あまりない	全くない
文・外国語・国際・文化系 (N=2,970)	34.6	36.9	12.3	16.2
法・政・経・商・社系 (N=4,181)	33.1	36.3	13.1	17.5
理・工系 (N=4,181)	27.2	40.7	16.5	15.5
農系 (N=661)	28.1	40.7	13.9	17.2
薬系 (N=621)	19.5	39.8	23.2	17.6
医・歯系 (N=856)	10.9	30.1	27.5	31.5
看護・保健系 (N=1,852)	19.3	39.7	21.8	19.1
教育・教員養成系 (N=1,357)	23.9	41.0	14.6	20.5
福祉系 (N=530)	33.2	41.7	11.9	13.2
家政・生活系 (N=593)	30.0	39.6	14.3	16.0
芸術系 (N=782)	36.7	37.0	13.3	13.0
スポーツ系 (N=562)	24.2	42.0	17.8	16.0

※網掛けは、該当率が70%を超えている学科系統

2. 大学生の不安や悩みと支援の利用

本節では大学生が大学の提供する諸支援をいかに利用し、どの程度の満足状況にあるのかについて、不安や悩みの大きな学生に焦点を当てながら分析を進めていく。

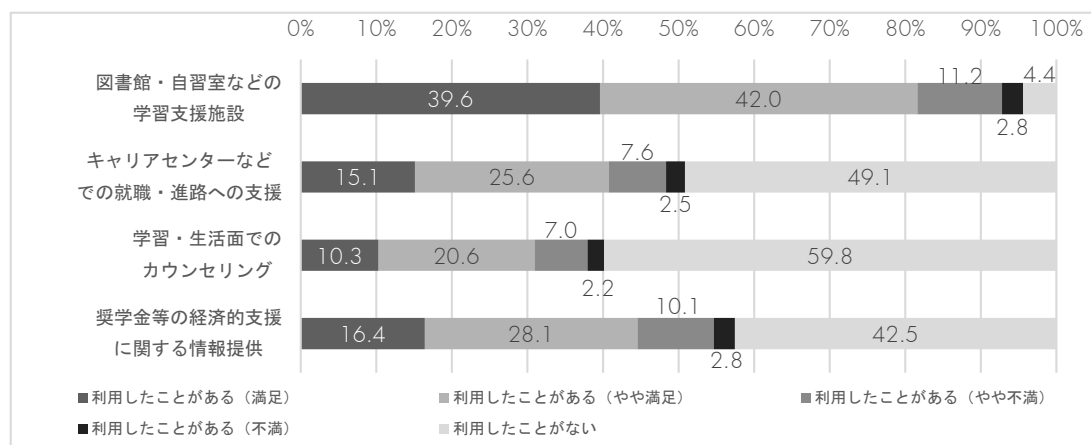
(1) 大学の諸支援への満足状況

まず、大学の諸支援に対する利用や満足の状況について概観していく。

図3は、大学の支援として設定した4項目について、それぞれ「利用したことがある（不満）」「利用したことがある（やや不満）」「利用したことがある（やや満足）」「利用したことがある（満足）」「利用したことがない」の5件法で尋ねた集計結果を図示したものである。

「利用したことがない」の回答率（以降、「未利用率」とする）が高いのは、「学習・生活面でのカウンセリング」59.8%、「キャリアセンターなどでの就職・進路への支援」49.1%、「奨学金等の経済的支援に関する情報提供」42.5%である。その一方で、「図書館・自習室などの学習支援施設」は4.4%と極めて低い未利用率であり、逆に言うと95%以上の学生が利用している結果となった。利用したことがある学生の満足状況も良好であり、「やや不満」は11.2%、「不満」は2.8%にとどまっている。

図3. 大学の諸支援の利用や満足の状況



(2) 不安や悩みの大きい学生×大学の諸支援の未利用

では、こうした大学の諸支援を不安や悩みの大きな学生も利用しているのだろうか。

表6は、大学生の不安や悩みとして設定した5項目について、それぞれ「大いにある」と回答した学生が大学の諸支援を「利用したことがない」と回答した率（「未利用率」）を示したものである。

表6. 不安や悩みが「大いにある」学生×大学の諸支援の「未利用」

	(%)			
	図書館・自習室などの 学習支援施設	キャリアセンターなどでの 就職・進路への支援	学習・生活面での カウンセリング	奨学金等の経済的支援 に関する情報提供
授業の内容について いっていない	5.8	60.3	58.7	48.2
卒業後にやりたい ことがみつからない	5.1	58.0	65.0	47.7
希望の就職先や進学先へ 行けるか不安だ	3.3	52.2	61.9	43.1
経済的に勉強を 続けることが難しい	4.2	42.5	47.3	18.3
学内の友人関係の 悩みがある	3.9	54.7	54.3	46.9
※全体	3.7	51.0	61.2	42.3

※全体との差が、濃い網掛けは「10ポイント以上」、薄い網掛けは「5ポイント以上」

特筆すべきは、「経済的に勉強を続けることが難しい」が「大いにある」学生についてである。大学生全体と比べて、彼らは「奨学金等の経済的支援に関する情報提供」「学習・生活面でのカウンセリング」の未利用率が明らかに低くだけでなく、「キャリアセンターなどでの就職・進路への支援」の未利用率も低いことがわかる。このことから、大学生全体と比べて、こうした不安や悩みを抱える学生は、直接的なニーズが予想される経済面や生活面での支援や情報提供だけでなく、卒業後の支援も利用しているといえるだろう。

他にも、「学内の友人関係の悩みがある」が「大いにある」学生は、大学生全体と比べて「学習・生活面でのカウンセリング」の未利用率が低い結果も示されている。

(3) 「経済的に勉強を続けることが難しい」学生×大学の諸支援の満足状況

では、「経済的に勉強を続けることが難しい」という不安や悩みが「大いにある」学生は、大学の諸支援にどの程度の満足状況なのだろうか。

表7は、「経済的に勉強を続けることが難しい」について「大いにある」と回答した学生の中でも、大学の諸支援を「利用したことがある」学生の満足状況を示したものである（大学生全体の状況についても、カッコ内に示している）。

表7. 「経済的に勉強を続けることが難しい」が「大いにある」学生×大学の諸支援の満足状況

	(%)			
	満足	やや満足	やや不満	不満
図書館・自習室などの 学習支援施設	32.9(40.0)	39.3(44.4)	17.8(12.5)	10.0(3.1)
キャリアセンターなど での就職・進路への支援	17.5(27.9)	41.9(50.8)	24.8(16.1)	15.9(5.2)
学習・生活面での カウンセリング	21.8(24.7)	35.6(51.7)	24.9(17.9)	17.8(5.7)
奨学金等の経済的支援 に関する情報提供	17.5(26.7)	31.6(49.6)	31.3(18.7)	19.5(5.0)

※全体との差が、濃い網掛けは「15ポイント以上」、薄い網掛けは「10ポイント以上」

大学生全体と比べて、「経済的に勉強を続けることが難しい」が「大いにある」学生は、諸支援に対して不満を抱えていることがわかる。「キャリアセンターなどでの就職・進路への支援」「学習・生活

面でのカウンセリング」「奨学金等の経済的支援に関する情報提供」に対して「不満」を抱く学生は、いずれの支援においても全体に比べて10ポイント以上高い。「キャリアセンターなどでの就職・進路への支援」に関しては、「満足」も10ポイント以上の差がみられる。このことから、こうした不安や悩みを抱える学生は、大学の多様な支援を利用しているものの（表6参照）、その満足状況が高いとは決していえないだろう。

3. おわりに

各年度の調査の対象者の属性等の偏りを確認する必要があるが、不安や悩みをもつ学生の割合やその程度は年々低下している。社会背景や学生を取り巻く環境などの影響もあるだろうが、大学の諸支援の一定の成果とみることもできるのではなかろうか。

とはいえ、「卒業後の進路」に関しては、依然として不安や悩みを抱える学生が多いことが明らかである。性別、学年、学科系統などによる不安や悩みの傾向も考慮しながら、さらなる多様な支援が必要である。

また、経済的な不安や悩みを抱える学生に関しては、その数が多いわけではないが、直接的なニーズが予想されるような支援や情報提供に限らず、大学の提供するさまざまな支援を利用していることがわかった。ただし利用している支援に対する彼らの満足度は、他の学生に比べて低いことも明らかになっている。今後は、彼らの不満やニーズにも耳を傾けながら、多様な支援のあり方を検討し、展開していくことが期待される。その際には、各支援を担う組織が独立して対応するだけでなく、大学として組織的に対応することも求められるだろう。

いずれにせよ、大学における諸支援は「学生、特に支援を必要とするような学生のための支援」となるべきであり、各大学の学生の不安や悩みをしっかりと把握することは、そのために看過できない第一歩である。

<参考文献>

- ・日本学生支援機構（2016）平成26年度学生生活調査報告
https://www.jasso.go.jp/about/statistics/gakusei_chosa/__icsFiles/afieldfile/2017/02/08/houkoku14.pdf（最終アクセス日2020年1月4日）
- ・日本学生支援機構（2018）平成28年度学生生活調査報告
https://www.jasso.go.jp/about/statistics/gakusei_chosa/__icsFiles/afieldfile/2018/08/30/houkoku16_all.pdf（最終アクセス日2020年1月4日）

ⁱ 「無回答」は、分析対象外とした。

ⁱⁱ 「大学5年生」「大学6年生」は他の学年より対象者数が明らかに少ないため、分析対象外とした。

ⁱⁱⁱ 分析対象外とした「経済的に勉強を続けることが難しい」の該当率は「芸術系」が21.5%と圧倒的に高く、それに次いで「理・工系」15.0%であった。該当率が最も低いのは「家政・生活系」で8.8%、それに次いで「福祉系」9.5%、「看護・保健系」9.6%であった。「学内の友人関係の悩みがある」の該当率が最も高い「福祉系」が20.4%、次いで「家政・生活系」18.9%であり、最も低い「スポーツ系」は11.2%、次いで「法・政・経・商・社系」が13.6%であった。

IV. 集計表

1-1表 居住形態別・収入平均額及び学生生活費の内訳（大学昼間部）

（単位：円）

区分	自 宅				学 寮				下宿、アパート、その他				平 均				
	国 立	公 立	私 立	平 均	国 立	公 立	私 立	平 均	国 立	公 立	私 立	平 均	国 立	公 立	私 立	平 均	
収 入	家庭からの給付	616,500	545,600	1,066,600	1,000,400	736,800	854,800	1,471,600	1,317,800	1,165,300	992,400	1,705,200	1,493,600	951,800	792,700	1,279,100	1,196,600
	奨学金	210,400	254,200	346,300	328,900	419,600	433,500	464,300	455,100	317,900	377,800	429,200	393,100	288,200	325,200	377,900	359,600
	アルバイト	390,100	420,400	445,300	438,800	321,100	289,800	205,500	229,300	345,000	397,800	378,300	370,200	358,700	404,600	411,000	401,500
	定職収入・その他	44,000	35,300	43,000	42,700	37,300	30,900	49,400	46,600	35,500	35,700	49,400	44,300	38,500	35,400	45,200	43,600
	計	1,261,000	1,255,500	1,901,200	1,810,800	1,514,800	1,609,000	2,190,800	2,048,800	1,863,700	1,803,700	2,562,100	2,301,200	1,637,200	1,557,900	2,113,200	2,001,300
支 出	授業料	495,600	517,300	1,039,700	963,900	404,900	521,200	975,600	856,800	493,100	519,800	1,120,000	892,100	488,200	518,800	1,059,400	931,700
	その他の 学校納付金	11,700	16,900	164,100	142,800	10,100	52,300	158,000	127,500	8,600	19,300	166,300	109,300	9,700	19,200	164,400	129,900
	修学費	46,900	45,200	45,000	45,200	55,100	61,900	44,600	47,000	50,300	46,300	46,500	47,600	49,500	46,200	45,400	46,200
	課外活動費	48,500	26,200	28,800	30,700	53,400	18,800	73,100	68,000	50,600	27,800	37,800	40,700	50,100	26,800	34,100	36,500
	通学費	96,500	106,000	97,000	97,300	12,200	16,200	14,000	13,700	11,400	16,400	24,300	19,900	40,200	55,700	70,600	64,500
	小計（学費）	699,200	711,600	1,374,600	1,279,900	535,700	670,400	1,265,300	1,113,000	614,000	629,600	1,394,900	1,109,600	637,700	666,700	1,373,900	1,208,800
	食費	111,700	91,200	104,700	104,900	300,100	224,700	251,000	259,600	298,800	256,800	281,500	284,600	235,600	183,300	165,600	178,700
	住居・光熱費	235,800	273,100	340,600	319,200	507,100	444,200	458,400	471,300	318,000	244,700	155,500	188,500
	保健衛生費	35,800	37,900	39,900	39,400	34,200	28,300	34,200	34,000	37,000	38,800	38,800	38,200	36,400	38,100	39,200	38,700
	娯楽・嗜好費	141,900	147,300	151,800	150,600	126,400	136,600	128,800	128,500	150,600	155,100	159,900	156,900	146,100	151,200	152,800	151,500
その他の日常費	133,700	142,300	139,800	139,200	148,900	156,600	146,300	147,100	158,300	157,400	161,800	160,400	149,400	150,700	146,600	147,300	
小計（生活費）	423,100	418,700	436,200	434,100	845,400	819,300	900,900	888,400	1,151,800	1,052,300	1,100,400	1,111,400	885,500	768,000	659,700	704,700	
計	1,122,300	1,130,300	1,810,800	1,714,000	1,381,100	1,489,700	2,166,200	2,001,400	1,765,800	1,681,900	2,495,300	2,221,000	1,523,200	1,434,700	2,033,600	1,913,500	

（参考） n=18,348

1 - 2 表 居住形態別・収入平均額及び学生生活費の内訳（大学夜間部）

（単位：円）

区分	自 宅				学 寮				下宿、アパート、その他				平 均				
	国 立	公 立	私 立	平 均	国 立	公 立	私 立	平 均	国 立	公 立	私 立	平 均	国 立	公 立	私 立	平 均	
収 入	家庭からの給付	189,900	272,300	384,300	338,800	218,400	439,500	875,000	579,300	525,500	526,400	751,400	644,100	359,100	379,300	503,700	455,700
	奨学金	178,600	122,400	299,900	267,600	513,600	180,000	567,800	538,900	369,500	451,100	458,300	419,800	296,600	258,300	353,600	332,900
	アルバイト	475,300	431,200	547,000	527,500	537,000	701,000	192,000	351,000	484,000	566,500	614,700	556,300	483,800	491,000	552,100	529,300
	定職収入・その他	645,900	433,800	245,800	337,900	94,000	-	-	41,500	249,100	237,900	256,600	252,500	410,400	346,500	239,500	294,600
	計	1,489,700	1,259,700	1,477,000	1,471,800	1,363,000	1,320,500	1,634,800	1,510,700	1,628,100	1,781,900	2,081,000	1,872,700	1,549,900	1,475,100	1,648,900	1,612,500
支 出	授業料	249,400	279,400	570,100	491,200	149,600	268,000	446,100	312,800	243,400	306,500	555,200	409,900	239,600	290,300	561,300	454,700
	その他の 学校納付金	8,200	8,800	43,700	34,900	12,100	-	2,800	6,900	5,800	2,100	41,400	24,300	7,300	5,900	41,500	29,900
	修学費	43,900	45,900	34,200	36,700	42,900	19,000	18,200	29,100	33,200	40,600	30,400	32,100	38,500	43,300	32,600	34,800
	課外活動費	13,800	22,700	18,800	17,900	28,000	-	50,700	40,000	20,400	26,200	80,400	52,200	18,100	23,800	36,900	30,800
	通学費	87,500	117,800	92,800	92,500	8,800	-	19,400	14,500	10,400	38,600	35,900	25,000	43,700	83,400	74,400	65,500
	小計（学費）	402,800	474,600	759,600	673,200	241,400	287,000	537,200	403,300	313,200	414,000	743,300	543,500	347,200	446,700	746,700	615,700
	食費	131,300	116,700	120,000	122,300	280,600	187,500	239,200	256,800	286,700	316,600	276,600	282,800	218,900	199,900	167,500	184,100
	住居・光熱費	208,300	200,500	521,400	378,900	458,200	476,800	425,400	441,800	242,600	199,000	136,600	170,700
	保健衛生費	44,200	60,800	33,700	36,900	28,100	40,000	37,100	33,200	36,400	43,700	48,200	42,900	39,200	53,400	37,800	38,800
	娯楽・嗜好費	156,200	117,000	146,000	147,200	157,600	67,500	213,500	186,900	162,100	133,800	181,000	170,800	159,200	123,200	158,200	157,200
その他の日常費	401,200	192,200	175,700	224,400	199,800	202,000	223,500	212,700	216,200	228,500	276,600	248,400	295,200	207,300	205,200	232,200	
小計（生活費）	732,900	486,700	475,400	530,800	874,400	697,500	1,234,700	1,068,500	1,159,600	1,199,400	1,207,800	1,186,700	955,100	782,800	705,300	783,000	
計	1,135,700	961,300	1,235,000	1,204,000	1,115,800	984,500	1,771,900	1,471,800	1,472,800	1,613,400	1,951,100	1,730,200	1,302,300	1,229,500	1,452,000	1,398,700	

（参考） n=1, 141

1-3表 居住形態別・収入平均額及び学生生活費の内訳（短期大学昼間部）

（単位：円）

区分	自 宅				学 寮				下宿、アパート、その他				平 均				
	国 立	公 立	私 立	平 均	国 立	公 立	私 立	平 均	国 立	公 立	私 立	平 均	国 立	公 立	私 立	平 均	
収 入	家庭からの給付	…	437,700	812,000	799,500	…	416,700	1,189,000	1,144,900	…	714,000	1,223,800	1,162,100	…	562,400	911,400	893,100
	奨学金	…	218,400	410,900	404,500	…	514,500	531,300	530,300	…	414,000	522,600	509,500	…	328,400	439,100	433,200
	アルバイト	…	310,800	356,700	355,100	…	257,600	196,000	199,500	…	261,900	331,200	322,800	…	284,800	341,800	338,800
	定職収入・その他	…	33,900	52,300	51,600	…	13,800	80,100	76,400	…	47,200	49,500	49,200	…	38,600	53,500	52,700
	計	…	1,000,800	1,631,900	1,610,700	…	1,202,600	1,996,400	1,951,100	…	1,437,100	2,127,100	2,043,600	…	1,214,200	1,745,800	1,717,800
支 出	授業料	…	387,500	801,200	787,300	…	344,000	753,700	730,300	…	382,800	817,300	764,700	…	382,300	801,100	779,200
	その他の 学校納付金	…	32,200	186,000	180,800	…	53,800	206,000	197,300	…	37,400	168,100	152,200	…	36,100	184,000	176,200
	修学費	…	45,300	49,300	49,200	…	29,900	57,500	55,900	…	38,000	48,600	47,300	…	40,900	49,700	49,200
	課外活動費	…	7,300	8,300	8,200	…	9,900	6,300	6,500	…	6,800	7,200	7,100	…	7,200	7,900	7,900
	通学費	…	83,200	97,400	96,900	…	6,100	9,900	9,700	…	8,800	28,200	25,900	…	43,900	79,200	77,300
	小計（学費）	…	555,500	1,142,200	1,122,400	…	443,700	1,033,400	999,700	…	473,800	1,069,400	997,200	…	510,400	1,121,900	1,089,800
	食費	…	62,200	76,400	75,900	…	182,000	219,800	217,600	…	197,400	235,500	230,900	…	132,200	114,700	115,600
	住居・光熱費	…	…	…	…	…	162,200	301,900	293,900	…	386,300	431,400	425,900	…	187,600	98,200	102,900
	保健衛生費	…	32,800	39,100	38,900	…	28,100	38,400	37,800	…	32,000	39,800	38,900	…	32,100	39,200	38,800
	娯楽・嗜好費	…	119,200	123,400	123,200	…	114,300	170,500	167,300	…	121,600	133,400	132,000	…	119,900	128,200	127,800
その他の日常費	…	125,500	150,300	149,500	…	128,200	153,700	152,200	…	129,800	169,600	164,800	…	127,600	154,100	152,700	
小計（生活費）	…	339,700	389,200	387,500	…	614,800	884,300	868,800	…	867,100	1,009,700	992,500	…	599,400	534,400	537,800	
計	…	895,200	1,531,400	1,509,900	…	1,058,500	1,917,700	1,868,500	…	1,340,900	2,079,100	1,989,700	…	1,109,800	1,656,300	1,627,600	

（参考） n=4, 291

1-4表 居住形態別・収入平均額及び学生生活費の内訳（短期大学夜間部）

（単位：円）

区分	自 宅				学 寮				下宿、アパート、その他				平 均				
	国 立	公 立	私 立	平 均	国 立	公 立	私 立	平 均	国 立	公 立	私 立	平 均	国 立	公 立	私 立	平 均	
収 入	家庭からの給付	...	151,800	501,000	435,100	...	-	1,486,300	1,486,300	...	280,100	834,500	695,300	...	201,700	615,500	530,000
	奨学金	...	52,100	222,600	190,400	...	-	-	-	...	444,000	460,800	456,700	...	204,600	291,500	273,600
	アルバイト	...	381,900	459,100	444,500	...	-	212,500	212,500	...	308,300	506,700	456,900	...	353,300	470,000	445,900
	定職収入・その他	...	707,600	85,000	202,500	...	-	4,300	4,300	...	86,900	115,100	108,100	...	466,300	93,000	170,100
	計	...	1,293,400	1,267,700	1,272,500	...	-	1,703,100	1,703,100	...	1,119,300	1,917,100	1,717,000	...	1,225,900	1,470,000	1,419,600
支 出	授業料	...	152,500	494,200	429,700	...	-	520,000	520,000	...	135,500	561,100	454,200	...	145,900	514,700	438,500
	その他の 学校納付金	...	14,000	113,100	94,400	...	-	262,800	262,800	...	17,200	107,500	84,800	...	15,300	113,500	93,200
	修学費	...	25,900	27,500	27,200	...	-	27,500	27,500	...	25,400	41,000	37,100	...	25,700	31,600	30,400
	課外活動費	...	8,300	3,500	4,400	...	-	4,000	4,000	...	8,200	3,700	4,800	...	8,300	3,600	4,600
	通学費	...	71,100	79,300	77,700	...	-	23,000	23,000	...	10,200	27,900	23,400	...	47,400	63,000	59,800
	小計（学費）	...	271,800	717,600	633,400	...	-	837,300	837,300	...	196,500	741,200	604,300	...	242,600	726,400	626,500
	食費	...	91,500	80,400	82,500	...	-	126,300	126,300	...	271,900	248,700	254,500	...	161,700	131,900	138,000
	住居・光熱費	-	328,500	328,500	...	318,900	458,200	423,200	...	124,000	143,000	139,100
	保健衛生費	...	43,300	31,700	33,900	...	-	16,300	16,300	...	21,800	40,400	35,700	...	34,900	34,100	34,300
	娯楽・嗜好費	...	103,600	123,600	119,800	...	-	115,000	115,000	...	73,000	141,300	124,200	...	91,700	128,800	121,100
その他の日常費	...	389,400	149,900	195,100	...	-	97,800	97,800	...	148,900	208,100	193,300	...	295,900	166,800	193,400	
小計（生活費）	...	627,800	385,600	431,300	...	-	683,900	683,900	...	834,500	1,096,700	1,030,900	...	708,200	604,600	625,900	
計	...	899,600	1,103,200	1,064,700	...	-	1,521,200	1,521,200	...	1,031,000	1,837,900	1,635,200	...	950,800	1,331,000	1,252,400	

（参考） n=342

1-5表 居住形態別・収入平均額及び学生生活費の内訳（大学院修士課程）

（単位：円）

区分	自 宅				学 寮				下宿、アパート、その他				平 均				
	国 立	公 立	私 立	平 均	国 立	公 立	私 立	平 均	国 立	公 立	私 立	平 均	国 立	公 立	私 立	平 均	
収 入	家庭からの給付	533,600	398,800	780,100	641,300	604,000	727,300	1,233,000	729,500	1,145,200	933,100	1,367,700	1,185,000	936,600	669,600	1,015,500	946,200
	奨学金	326,900	393,000	401,400	367,100	656,900	499,100	372,200	592,200	428,100	491,600	466,200	440,200	405,800	444,800	426,000	414,800
	アルバイト	318,600	331,000	403,400	359,800	261,000	278,700	460,800	299,200	309,300	357,100	379,300	327,900	310,300	341,500	395,100	340,200
	定職収入・その他	273,000	387,800	425,800	353,800	89,300	32,800	174,500	100,700	106,000	250,500	345,700	168,700	156,700	307,500	390,400	243,000
	計	1,452,100	1,510,600	2,010,700	1,722,000	1,611,200	1,537,900	2,240,500	1,721,600	1,988,600	2,032,300	2,558,900	2,121,800	1,809,400	1,763,400	2,227,000	1,944,200
支 出	授業料	484,000	511,200	915,400	691,100	367,000	511,600	955,400	486,600	478,900	514,800	861,800	568,800	476,200	513,000	895,400	616,700
	その他の 学校納付金	13,600	18,400	71,100	41,300	17,900	26,100	38,600	22,300	11,800	11,700	78,200	27,100	12,600	15,400	73,300	32,800
	修学費	47,100	58,000	51,800	50,100	53,600	32,500	44,700	50,300	42,600	52,200	64,000	48,000	44,400	54,200	56,400	49,000
	課外活動費	22,400	21,800	20,100	21,300	23,800	15,600	7,100	20,100	21,200	17,000	15,400	19,600	21,700	19,300	18,100	20,300
	通学費	105,800	113,200	107,700	107,200	18,600	14,300	28,300	20,100	19,800	32,100	32,300	23,300	46,200	70,200	77,100	57,900
	小計（学費）	672,900	722,600	1,166,100	911,000	480,900	600,100	1,074,100	599,400	574,300	627,800	1,051,700	686,800	601,100	672,100	1,120,300	776,700
	食費	172,000	149,000	166,700	167,800	377,400	311,400	347,100	366,700	360,100	336,500	356,100	357,900	302,900	245,900	243,200	279,700
	住居・光熱費	255,800	222,200	473,000	293,200	579,100	543,200	601,700	582,400	388,800	270,900	241,200	332,900
	保健衛生費	41,200	46,900	45,300	43,500	42,900	30,200	25,000	38,600	43,500	45,700	52,400	45,600	42,700	45,600	47,700	44,500
	娯楽・嗜好費	151,200	157,800	158,600	155,200	154,600	93,200	108,400	141,400	164,800	156,700	151,700	161,400	160,300	154,700	155,100	158,200
その他の日常費	201,400	214,400	222,500	212,400	177,700	184,400	170,400	176,900	177,400	197,700	211,200	186,300	184,800	205,100	217,200	196,800	
小計（生活費）	565,800	568,100	593,100	578,900	1,008,400	841,400	1,123,900	1,016,800	1,324,900	1,279,800	1,373,100	1,333,600	1,079,500	922,200	904,400	1,012,100	
計	1,238,700	1,290,700	1,759,200	1,489,900	1,489,300	1,441,500	2,198,000	1,616,200	1,899,200	1,907,600	2,424,800	2,020,400	1,680,600	1,594,300	2,024,700	1,788,800	

（参考）n=6,373

（注）「配偶者あり」と回答した者は集計に含まない。

「アルバイト」に「TA・RA」を含む。

1-6表 居住形態別・収入平均額及び学生生活費の内訳（大学院博士課程）

（単位：円）

区分	自 宅				学 寮				下宿、アパート、その他				平 均				
	国 立	公 立	私 立	平 均	国 立	公 立	私 立	平 均	国 立	公 立	私 立	平 均	国 立	公 立	私 立	平 均	
収 入	家庭からの給付	222,300	272,600	320,200	261,300	181,100	156,400	334,600	201,100	430,700	366,700	677,400	478,800	362,200	319,500	499,700	395,400
	奨学金	736,400	371,500	521,000	634,100	1,100,700	831,800	529,900	1,011,500	986,900	633,600	607,300	893,700	922,000	524,800	564,500	810,200
	アルバイト	688,100	688,900	782,800	722,700	422,400	642,800	1,101,500	524,400	793,100	1,368,700	835,800	826,400	748,200	1,050,300	815,400	780,600
	定職収入・その他	1,331,300	2,895,000	1,682,300	1,560,700	414,800	899,800	1,168,900	538,000	775,800	1,801,000	1,444,200	957,200	915,000	2,253,100	1,553,100	1,146,100
	計	2,978,100	4,228,000	3,306,300	3,178,800	2,119,000	2,530,800	3,134,900	2,275,000	2,986,500	4,170,000	3,564,700	3,156,100	2,947,400	4,147,700	3,432,700	3,132,300
支 出	授業料	431,400	478,600	631,900	507,600	300,000	334,800	627,000	346,200	369,500	461,800	590,800	419,100	383,800	465,400	611,200	446,400
	その他の 学校納付金	7,800	14,500	49,500	23,500	3,700	-	64,600	11,900	8,100	9,100	54,800	17,800	7,800	11,200	52,500	19,500
	修学費	125,300	159,900	133,000	130,300	125,100	92,000	112,300	122,000	102,500	144,600	114,000	106,700	109,800	149,800	123,100	115,200
	課外活動費	17,600	30,000	29,700	22,800	39,600	20,000	20,700	36,200	17,600	22,800	28,600	20,100	18,600	25,900	29,000	21,600
	通学費	111,600	99,700	122,200	114,700	44,300	16,600	19,100	39,700	37,100	53,500	60,700	42,600	58,100	72,600	89,400	66,900
	小計（学費）	693,700	782,700	966,300	798,900	512,700	463,400	843,700	556,000	534,800	691,800	848,900	606,300	578,100	724,900	905,200	669,600
	食費	297,700	342,900	334,400	314,000	442,300	386,000	460,000	442,400	454,000	472,000	465,700	457,200	410,000	413,000	402,600	408,300
	住居・光熱費	245,700	172,500	348,200	256,800	715,800	707,900	775,000	727,700	496,800	382,700	395,400	465,000
	保健衛生費	77,600	113,700	78,500	80,300	58,300	32,700	50,200	56,200	68,800	81,900	75,800	70,800	70,800	94,400	76,600	73,500
	娯楽・嗜好費	243,600	379,200	248,900	254,300	141,800	170,000	290,600	163,400	224,400	296,800	264,000	235,600	226,200	329,100	257,300	239,400
その他の日常費	571,400	643,900	535,500	563,000	284,300	289,400	501,400	314,300	371,400	591,500	403,700	387,400	423,300	605,600	468,700	444,100	
小計（生活費）	1,190,300	1,479,700	1,197,300	1,211,600	1,172,400	1,050,600	1,650,400	1,233,100	1,834,400	2,150,100	1,984,200	1,878,700	1,627,100	1,824,800	1,600,600	1,630,300	
計	1,884,000	2,262,400	2,163,600	2,010,500	1,685,100	1,514,000	2,494,100	1,789,100	2,369,200	2,841,900	2,833,100	2,485,000	2,205,200	2,549,700	2,505,800	2,299,900	

（参考）n=3,921

（注）「配偶者あり」と回答した者は集計に含まない。

「アルバイト」に「TA・RA」を含む。

1-7表 居住形態別・収入平均額及び学生生活費の内訳（大学院専門職学位課程）

（単位：円）

区分	自 宅				学 寮				下宿、アパート、その他				平 均				
	国 立	公 立	私 立	平 均	国 立	公 立	私 立	平 均	国 立	公 立	私 立	平 均	国 立	公 立	私 立	平 均	
収 入	家庭からの給付	536,000	211,400	749,400	657,600	638,000	844,500	682,700	664,400	1,129,000	547,500	1,310,600	1,201,100	849,100	382,300	967,100	899,100
	奨学金	306,500	324,700	407,200	369,800	548,100	414,000	1,176,400	789,700	433,100	525,800	574,900	504,700	387,700	408,300	499,500	450,000
	アルバイト	201,600	52,800	132,800	153,600	240,400	255,500	152,600	206,500	188,100	97,000	155,600	169,700	197,100	83,000	142,400	163,300
	定職収入・その他	898,700	2,594,400	1,904,900	1,583,900	480,900	34,300	274,900	380,600	524,700	1,842,200	1,226,200	903,200	678,100	2,138,100	1,582,500	1,223,600
	計	1,942,800	3,183,300	3,194,300	2,764,900	1,907,400	1,548,300	2,286,600	2,041,200	2,274,900	3,012,500	3,267,300	2,778,700	2,112,000	3,011,700	3,191,500	2,736,000
支 出	授業料	537,400	529,900	1,088,700	880,300	329,100	612,500	820,300	534,700	534,700	529,000	1,065,300	792,800	522,400	534,900	1,070,300	824,700
	その他の 学校納付金	15,300	10,600	77,700	54,000	36,700	105,800	127,800	75,500	19,700	25,100	78,400	48,400	19,000	22,400	79,700	52,600
	修学費	87,600	146,300	90,200	91,200	88,200	50,000	113,000	96,300	92,100	95,500	97,500	94,800	90,000	120,400	93,800	93,100
	課外活動費	10,800	3,400	15,400	13,400	11,100	2,000	15,800	12,600	14,300	9,100	12,800	13,400	12,600	5,500	14,400	13,400
	通学費	96,400	127,700	100,400	100,000	20,400	-	37,800	26,400	28,900	73,700	41,800	36,400	56,500	98,500	75,300	68,200
	小計（学費）	747,500	817,900	1,372,400	1,138,900	485,500	770,300	1,114,700	745,500	689,700	732,400	1,295,800	985,800	700,500	781,700	1,333,500	1,052,000
	食費	172,700	319,900	251,800	227,000	350,800	340,000	337,600	345,100	373,400	395,900	427,300	400,300	288,100	350,600	323,500	309,700
	住居・光熱費	200,700	341,000	401,700	285,900	620,300	705,200	669,200	646,500	333,700	295,000	276,200	300,700
	保健衛生費	54,400	81,600	71,800	66,100	37,400	17,500	41,800	38,300	47,900	122,500	63,300	57,500	49,900	93,300	67,400	60,900
	娯楽・嗜好費	161,300	173,500	247,200	215,200	185,300	86,300	88,700	143,000	153,100	183,400	183,600	168,800	158,700	171,700	216,800	191,100
その他の日常費	333,400	996,700	512,700	468,100	326,100	368,000	213,400	283,500	215,800	715,400	305,700	273,500	272,100	847,200	421,200	372,800	
小計（生活費）	721,800	1,571,700	1,083,500	976,400	1,100,300	1,152,800	1,083,200	1,095,800	1,410,500	2,122,400	1,649,100	1,546,600	1,102,500	1,757,800	1,305,100	1,235,200	
計	1,469,300	2,389,600	2,455,900	2,115,300	1,585,800	1,923,100	2,197,900	1,841,300	2,100,200	2,854,800	2,944,900	2,532,400	1,803,000	2,539,500	2,638,600	2,287,200	

（参考）n=1,474

（注）「配偶者あり」と回答した者は集計に含まない。

「アルバイト」に「TA・RA」を含む。

2表 居住形態別・地域別学生生活費の内訳

(単位：円)

区分			自 宅				学 寮				下宿、アパート、その他				平 均			
			国立	公立	私立	平均	国立	公立	私立	平均	国立	公立	私立	平均	国立	公立	私立	平均
大学	昼間部	東京圏	1,168,300	1,188,400	1,877,100	1,846,600	1,733,000	2,008,300	2,332,400	2,291,900	2,034,200	1,911,700	2,601,400	2,552,900	1,592,000	1,447,400	2,105,600	2,075,400
		京阪神	1,178,600	1,167,100	1,821,500	1,740,400	1,464,200	1,474,200	1,839,200	1,766,000	1,876,000	1,805,200	2,429,200	2,272,900	1,554,400	1,424,700	1,987,300	1,906,400
		その他	1,100,300	1,117,400	1,712,300	1,558,300	1,307,000	1,475,800	2,075,400	1,829,100	1,726,300	1,661,600	2,402,200	2,027,200	1,508,900	1,435,400	1,961,400	1,780,300
		全 国	1,122,300	1,130,300	1,810,800	1,714,000	1,381,100	1,489,700	2,166,200	2,001,400	1,765,800	1,681,900	2,495,300	2,221,000	1,523,200	1,434,700	2,033,600	1,913,500
短期大学	昼間部	東京圏	...	940,000	1,641,500	1,635,400	...	-	2,389,100	2,389,100	...	1,765,000	2,299,400	2,287,800	...	1,203,600	1,777,900	1,772,000
		京阪神	...	-	1,639,600	1,639,600	...	-	1,664,700	1,664,700	...	-	2,193,700	2,193,700	...	-	1,728,500	1,728,500
		その他	...	891,800	1,456,400	1,426,900	...	1,058,500	1,842,500	1,777,800	...	1,326,600	1,991,600	1,881,900	...	1,105,400	1,591,000	1,552,400
		全 国	...	895,200	1,531,400	1,509,900	...	1,058,500	1,917,700	1,868,500	...	1,340,900	2,079,100	1,989,700	...	1,109,800	1,656,300	1,627,600
大学院	修士課程	東京圏	1,292,900	1,203,500	1,835,000	1,683,400	1,788,400	-	2,294,800	2,016,600	2,095,200	2,061,400	2,521,200	2,345,600	1,713,800	1,519,000	2,091,200	1,960,900
		京阪神	1,277,900	1,291,200	1,593,800	1,382,100	1,413,700	1,354,500	1,618,000	1,406,700	1,988,000	1,895,400	2,395,400	2,043,800	1,748,800	1,516,100	1,910,300	1,759,600
		その他	1,196,000	1,305,100	1,596,400	1,306,500	1,411,700	1,583,100	2,065,200	1,476,300	1,832,000	1,900,400	2,213,000	1,876,600	1,648,800	1,644,200	1,890,200	1,684,300
		全 国	1,238,700	1,290,700	1,759,200	1,489,900	1,489,300	1,441,500	2,198,000	1,616,200	1,899,200	1,907,600	2,424,800	2,020,400	1,680,600	1,594,300	2,024,700	1,788,800
	博士課程	東京圏	1,729,300	2,297,100	2,155,500	1,987,500	1,864,900	1,450,000	3,051,200	2,188,600	2,428,900	2,480,200	2,824,900	2,608,800	2,144,400	2,358,400	2,485,600	2,319,800
		京阪神	1,666,200	2,169,500	1,963,400	1,800,500	1,633,200	1,511,900	770,300	1,538,000	2,378,100	2,647,100	2,666,900	2,425,100	2,191,800	2,326,600	2,297,300	2,218,200
		その他	2,063,800	2,295,900	2,366,600	2,133,400	1,635,400	1,595,000	2,204,500	1,686,400	2,343,700	2,960,200	2,943,800	2,440,500	2,237,100	2,681,100	2,703,500	2,321,100
		全 国	1,884,000	2,262,400	2,163,600	2,010,500	1,685,100	1,514,000	2,494,100	1,789,100	2,369,200	2,841,900	2,833,100	2,485,000	2,205,200	2,549,700	2,505,800	2,299,900
	専門職学位課程	東京圏	1,396,700	2,451,300	2,572,600	2,386,200	1,756,300	-	2,206,300	2,153,300	2,296,100	2,504,200	3,075,200	2,922,900	1,784,600	2,471,700	2,748,800	2,586,000
		京阪神	1,369,400	1,835,000	2,123,400	1,865,200	1,532,700	1,210,000	2,109,000	1,653,900	2,176,000	2,735,100	2,570,200	2,343,400	1,888,300	2,168,700	2,298,400	2,102,600
		その他	1,538,700	3,026,800	2,538,800	1,889,100	1,577,100	2,160,700	-	1,617,700	1,995,700	3,863,400	3,010,800	2,258,500	1,762,100	3,140,000	2,732,400	2,039,600
		全 国	1,469,300	2,389,600	2,455,900	2,115,300	1,585,800	1,923,100	2,197,900	1,841,300	2,100,200	2,854,800	2,944,900	2,532,400	1,803,000	2,539,500	2,638,600	2,287,200

(参考) 大学：n=18,348 短期大学：n=4,291 大学院修士課程：n=6,373 大学院博士課程：n=3,921 大学院専門職学位課程：n=1,474

(注) 「東京圏」とは、東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県をいう。

「京阪神」とは、京都府・大阪府・兵庫県をいう。

大学院については、「配偶者あり」と回答した者は集計に含まない。

3-1表 家庭の年間収入別学生数の割合（大学昼間部）

（単位：％）

区分		家庭の年間収入															（参考）	
		200万円未満	200～300	300～400	400～500	500～600	600～700	700～800	800～900	900～1,000	1,000～1,100	1,100～1,200	1,200～1,300	1,300～1,400	1,400～1,500	1,500万円以上	計	年間平均収入額
男	国立	4.0	4.3	6.5	7.1	8.8	9.7	10.9	10.6	7.9	9.4	4.3	4.4	2.5	1.4	8.1	100.0	千円 8,560
	公立	6.3	5.4	8.1	10.4	10.9	11.0	9.7	10.5	7.1	6.8	3.1	3.1	1.4	1.4	4.8	100.0	7,470
	私立	4.7	4.4	5.7	7.9	9.7	11.4	10.7	10.3	7.6	8.6	3.9	3.5	1.9	1.4	8.3	100.0	8,750
女	国立	4.7	4.5	6.0	6.5	8.0	8.9	10.2	11.9	8.3	9.5	4.3	4.7	3.2	1.7	7.7	100.0	8,520
	公立	5.1	5.3	7.1	9.1	10.5	11.9	10.0	10.6	8.6	6.6	4.3	2.9	1.8	1.2	4.9	100.0	7,520
	私立	4.8	4.6	5.9	6.6	9.6	10.2	10.2	10.3	8.4	8.9	4.2	3.5	2.8	2.1	7.8	100.0	8,680
平均	国立	4.2	(8.6) 4.4	(14.9) 6.3	(21.8) 6.9	(30.3) 8.5	(39.7) 9.4	(50.3) 10.6	(61.4) 11.1	(69.5) 8.1	(78.9) 9.4	(83.2) 4.3	(87.8) 4.6	(90.6) 2.8	(92.1) 1.5	(100.0) 7.9	100.0	8,540
	公立	5.6	(10.9) 5.3	(18.4) 7.5	(28.0) 9.6	(38.6) 10.6	(50.2) 11.6	(60.0) 9.8	(70.5) 10.5	(78.5) 8.0	(85.2) 6.7	(89.1) 3.9	(92.1) 3.0	(93.8) 1.7	(95.1) 1.3	(100.0) 4.9	100.0	7,500
	私立	4.8	(9.3) 4.5	(15.1) 5.8	(22.4) 7.3	(32.0) 9.6	(42.8) 10.8	(53.3) 10.5	(63.6) 10.3	(71.6) 8.0	(80.3) 8.7	(84.3) 4.0	(87.8) 3.5	(90.2) 2.4	(91.9) 1.7	(100.0) 8.1	100.0	8,710
	平均	4.7	(9.2) 4.5	(15.2) 6.0	(22.5) 7.3	(32.0) 9.5	(42.6) 10.6	(53.1) 10.5	(63.5) 10.4	(71.5) 8.0	(80.2) 8.7	(84.3) 4.1	(88.0) 3.7	(90.4) 2.4	(92.1) 1.7	(100.0) 7.9	100.0	8,620

（参考） n=18,117

（注）（ ）は、家庭の収入階層別学生数の割合の累計を示す。

3-2表 家庭の年間収入別学生数の割合（短期大学昼間部）

(単位：%)

区分	家庭の年間収入																(参考)	
	200万円未満	200～300	300～400	400～500	500～600	600～700	700～800	800～900	900～1,000	1,000～1,100	1,100～1,200	1,200～1,300	1,300～1,400	1,400～1,500	1,500万円以上	計	年間平均収入額	
男	国立	千円 ...
	公立	14.6	7.0	13.5	13.5	16.4	10.5	5.8	4.7	1.8	7.0	0.6	1.8	1.2	-	1.8	100.0	5,600
	私立	6.7	9.8	11.4	13.0	13.8	13.4	11.4	5.9	3.9	2.4	1.2	1.6	0.4	0.4	4.7	100.0	6,570
女	国立
	公立	8.2	6.3	9.7	12.6	13.2	14.7	10.6	9.3	5.7	3.5	1.6	1.1	1.2	0.6	1.6	100.0	6,070
	私立	7.7	7.6	10.5	11.2	12.3	13.8	10.2	8.8	5.8	4.4	2.1	1.6	0.9	0.9	2.2	100.0	6,400
平均	国立
	公立	8.9	(15.3) 6.4	(25.4) 10.1	(38.1) 12.7	(51.7) 13.6	(66.0) 14.3	(76.0) 10.0	(84.8) 8.8	(90.0) 5.2	(93.9) 3.9	(95.4) 1.5	(96.6) 1.2	(97.8) 1.2	(98.3) 0.5	(100.0) 1.7	100.0	6,010
	私立	7.6	(15.4) 7.8	(26.0) 10.6	(37.4) 11.4	(49.9) 12.5	(63.7) 13.8	(74.0) 10.3	(82.5) 8.5	(88.1) 5.6	(92.3) 4.2	(94.3) 2.0	(95.9) 1.6	(96.8) 0.9	(97.6) 0.8	(100.0) 2.4	100.0	6,420
	平均	7.6	(15.3) 7.7	(25.9) 10.6	(37.3) 11.4	(49.8) 12.5	(63.6) 13.8	(73.9) 10.3	(82.5) 8.6	(88.1) 5.6	(92.3) 4.2	(94.3) 2.0	(95.9) 1.6	(96.8) 0.9	(97.6) 0.8	(100.0) 2.4	100.0	6,400

(参考) n=4,284

(注) () は、家庭の収入階層別学生数の割合の累計を示す。

3-3表 家庭の年間収入別学生数の割合（大学院修士課程）

(単位：%)

区分		家庭の年間収入															(参考)	
		200万円未満	200～300	300～400	400～500	500～600	600～700	700～800	800～900	900～1,000	1,000～1,100	1,100～1,200	1,200～1,300	1,300～1,400	1,400～1,500	1,500万円以上	計	年間平均収入額
男	国立	4.0	4.9	7.1	6.5	7.1	9.6	9.3	9.6	8.2	9.9	5.0	4.2	2.3	2.4	9.9	100.0	千円 8,750
	公立	6.1	5.3	7.6	8.0	9.7	11.4	9.9	10.3	7.7	8.6	2.5	3.4	2.3	1.6	5.6	100.0	7,780
	私立	5.4	3.8	5.8	7.7	8.5	9.4	8.4	9.1	6.2	9.3	5.4	5.0	2.7	2.3	11.1	100.0	9,010
女	国立	6.4	6.1	5.8	9.0	6.8	6.2	9.0	8.5	5.9	10.8	5.5	4.1	3.2	2.1	10.8	100.0	8,530
	公立	9.5	7.8	8.9	9.5	9.7	9.3	7.1	8.2	4.5	7.1	3.5	5.6	2.6	1.9	4.8	100.0	7,150
	私立	7.4	5.1	8.6	9.5	7.8	8.6	5.9	7.8	6.9	7.4	4.5	3.8	2.0	2.0	12.7	100.0	8,660
平均	国立	4.6	(9.8) 5.2	(16.6) 6.8	(23.6) 7.0	(30.7) 7.1	(39.6) 8.9	(48.8) 9.2	(58.1) 9.3	(65.8) 7.7	(75.9) 10.1	(81.0) 5.1	(85.1) 4.1	(87.6) 2.5	(89.9) 2.3	(100.0) 10.1	100.0	8,700
	公立	7.3	(13.5) 6.2	(21.6) 8.1	(30.1) 8.5	(39.8) 9.7	(50.4) 10.6	(59.3) 8.9	(68.8) 9.5	(75.3) 6.5	(83.4) 8.1	(86.3) 2.9	(90.5) 4.2	(92.9) 2.4	(94.7) 1.8	(100.0) 5.3	100.0	7,550
	私立	6.1	(10.4) 4.3	(17.2) 6.8	(25.6) 8.4	(33.9) 8.3	(43.0) 9.1	(50.5) 7.5	(59.1) 8.6	(65.5) 6.4	(74.1) 8.6	(79.2) 5.1	(83.7) 4.5	(86.1) 2.4	(88.3) 2.2	(100.0) 11.7	100.0	8,890
	平均	5.2	(10.2) 5.0	(17.1) 6.9	(24.7) 7.6	(32.3) 7.6	(41.3) 9.0	(49.9) 8.6	(59.0) 9.1	(66.2) 7.2	(75.7) 9.5	(80.7) 5.0	(85.0) 4.3	(87.5) 2.5	(89.7) 2.2	(100.0) 10.3	100.0	8,690

(参考) n=6,332

(注) () は、家庭の収入階層別学生数の割合の累計を示す。

「配偶者あり」と回答した者は集計に含まない。

3-4表 家庭の年間収入別学生数の割合（大学院博士課程）

(単位：%)

区分		家庭の年間収入															(参考)	
		200万円未満	200～300	300～400	400～500	500～600	600～700	700～800	800～900	900～1,000	1,000～1,100	1,100～1,200	1,200～1,300	1,300～1,400	1,400～1,500	1,500万円以上	計	年間平均収入額
男	国立	13.1	15.3	7.7	7.0	6.6	7.3	6.6	5.3	5.2	7.9	2.8	3.3	1.6	0.9	9.4	100.0	千円 7,380
	公立	11.9	13.4	8.9	3.0	9.4	5.0	4.0	7.4	4.0	14.4	3.0	4.5	1.5	-	9.9	100.0	7,570
	私立	7.0	7.3	9.0	7.5	7.7	8.0	5.7	6.7	5.7	9.8	1.4	4.8	2.1	2.2	15.1	100.0	9,410
女	国立	13.3	16.4	9.2	7.5	7.1	5.0	5.4	6.4	4.3	8.6	2.1	3.0	1.3	1.1	9.3	100.0	7,200
	公立	7.4	6.8	11.5	10.1	11.5	9.5	7.4	4.7	4.7	9.5	2.7	2.7	0.7	2.0	8.8	100.0	7,560
	私立	11.0	6.5	8.4	8.0	7.0	8.2	5.8	7.0	4.0	8.2	4.2	2.3	2.1	1.2	16.2	100.0	10,160
平均	国立		(28.7)	(36.8)	(43.9)	(50.6)	(57.3)	(63.6)	(69.2)	(74.2)	(82.3)	(84.9)	(88.1)	(89.6)	(90.6)	(100.0)		
		13.1	15.6	8.1	7.1	6.7	6.7	6.3	5.6	5.0	8.1	2.6	3.2	1.5	1.0	9.4	100.0	7,330
	公立		(20.6)	(30.6)	(36.6)	(46.9)	(53.8)	(59.2)	(65.5)	(69.8)	(82.1)	(85.0)	(88.7)	(89.8)	(90.6)	(100.0)		
		10.0	10.6	10.0	6.0	10.3	6.9	5.4	6.3	4.3	12.3	2.9	3.7	1.1	0.8	9.4	100.0	7,560
私立		(15.5)	(24.3)	(32.0)	(39.4)	(47.5)	(53.2)	(60.0)	(65.0)	(74.2)	(76.7)	(80.5)	(82.6)	(84.5)	(100.0)			
	8.5	7.0	8.8	7.7	7.4	8.1	5.7	6.8	5.0	9.2	2.5	3.8	2.1	1.9	15.5	100.0	9,700	
平均		(24.9)	(33.3)	(40.5)	(47.6)	(54.7)	(60.8)	(66.7)	(71.6)	(80.2)	(82.8)	(86.2)	(87.9)	(89.1)	(100.0)			
	11.8	13.1	8.4	7.2	7.1	7.1	6.1	5.9	4.9	8.6	2.6	3.4	1.7	1.2	10.9	100.0	7,940	

(参考) n=3,919

(注) () は、家庭の収入階層別学生数の割合の累計を示す。

「配偶者あり」と回答した者は集計に含まない。

3-5表 家庭の年間収入別学生数の割合（大学院専門職学位課程）

（単位：％）

区分		家庭の年間収入															(参考)	
		200万円未満	200～300	300～400	400～500	500～600	600～700	700～800	800～900	900～1,000	1,000～1,100	1,100～1,200	1,200～1,300	1,300～1,400	1,400～1,500	1,500万円以上	計	年間平均収入額
男	国立	9.9	5.9	7.5	6.5	7.7	8.1	7.9	8.7	5.9	9.1	4.9	4.7	2.8	1.8	8.7	100.0	千円 8,330
	公立	6.8	6.8	4.5	9.1	9.1	9.1	15.9	6.8	4.5	11.4	2.3	4.5	2.3	2.3	4.5	100.0	7,370
	私立	8.5	5.8	10.3	7.5	9.5	9.3	8.3	9.3	4.0	6.5	3.0	4.0	2.8	1.8	9.8	100.0	7,860
女	国立	7.8	5.5	7.8	8.6	8.6	8.2	5.1	8.2	5.9	8.6	4.3	3.9	2.7	2.0	12.5	100.0	9,150
	公立	21.1	15.8	10.5	10.5	10.5	5.3	-	-	5.3	5.3	5.3	-	-	-	10.5	100.0	6,120
	私立	9.9	3.3	8.0	10.6	8.0	6.6	8.8	9.1	4.4	6.6	3.6	2.9	1.8	1.8	14.6	100.0	9,060
平均	国立		(14.9)	(22.5)	(29.7)	(37.7)	(45.8)	(52.7)	(61.3)	(67.2)	(76.2)	(80.9)	(85.3)	(88.1)	(90.0)	(100.0)		
	公立	9.2	5.7	7.6	7.2	8.0	8.1	6.9	8.6	5.9	9.0	4.7	4.4	2.8	1.9	10.0	100.0	8,610
	私立	11.1	(20.6)	(27.0)	(36.5)	(46.0)	(53.9)	(65.0)	(69.8)	(74.6)	(84.1)	(87.3)	(90.5)	(92.1)	(93.7)	(100.0)		
	平均	9.0	4.7	9.3	8.7	8.9	8.2	8.5	9.2	4.2	6.5	3.3	3.6	2.4	1.8	11.7	100.0	8,340
	平均	9.2	(14.5)	(23.0)	(31.1)	(39.6)	(47.8)	(55.7)	(64.5)	(69.4)	(77.1)	(81.0)	(84.9)	(87.4)	(89.2)	(100.0)		8,420

(参考) n=1,486

(注) () は、家庭の収入階層別学生数の割合の累計を示す。

「配偶者あり」と回答した者は集計に含まない。

4-1表 家庭からの給付程度別・アルバイト従事者の全学生に対する割合（大学昼間部）

(単位：%)

区分		家庭からの給付のみで修学可能	家庭からの給付のみでは修学に不自由	家庭からの給付のみでは修学継続困難	家庭からの給付なし	計	アルバイト非従事者	合計
国立	男	51.3	15.1	11.6	4.5	82.5	17.5	100.0
	女	58.3	17.1	11.5	5.4	92.3	7.7	100.0
	平均	54.1	15.9	11.6	4.9	86.5	13.5	100.0
公立	男	46.7	16.9	14.9	6.3	84.8	15.2	100.0
	女	54.9	16.0	14.8	6.3	92.1	7.9	100.0
	平均	51.7	16.4	14.8	6.3	89.2	10.8	100.0
私立	男	49.2	15.6	14.1	4.5	83.5	16.5	100.0
	女	53.7	16.0	14.5	3.9	88.1	11.9	100.0
	平均	51.5	15.8	14.3	4.2	85.8	14.2	100.0
平均	男	49.5	15.6	13.6	4.6	83.3	16.7	100.0
	女	54.4	16.1	14.1	4.3	88.9	11.1	100.0
	平均	52.0	15.8	13.9	4.4	86.1	13.9	100.0

(参考) n=19,478

4-2表 家庭からの給付程度別・アルバイト従事者の全学生に対する割合（短期大学昼間部）

(単位：%)

区分		家庭からの給付のみで修学可能	家庭からの給付のみでは修学に不自由	家庭からの給付のみでは修学継続困難	家庭からの給付なし	計	アルバイト非従事者	合計
国立	男
	女
	平均
公立	男	37.3	15.2	11.3	11.8	75.7	24.3	100.0
	女	51.8	16.1	11.8	6.6	86.4	13.6	100.0
	平均	50.3	16.0	11.8	7.1	85.2	14.8	100.0
私立	男	38.0	18.6	13.9	6.2	76.6	23.4	100.0
	女	47.7	17.3	15.0	5.5	85.4	14.6	100.0
	平均	46.8	17.4	14.9	5.6	84.6	15.4	100.0
平均	男	37.9	18.4	13.7	6.5	76.6	23.4	100.0
	女	47.9	17.2	14.8	5.6	85.5	14.5	100.0
	平均	47.0	17.3	14.7	5.7	84.7	15.3	100.0

(参考) n=4,698

4-3表 家庭からの給付程度別・アルバイト従事者の全学生に対する割合（大学院修士課程）

(単位：%)

区分		家庭からの給付のみで修学可能	家庭からの給付のみでは修学に不自由	家庭からの給付のみでは修学継続困難	家庭からの給付なし	計	アルバイト非従事者	合計
国立	男	44.7	19.0	15.3	6.6	85.6	14.4	100.0
	女	44.0	18.4	13.8	8.3	84.5	15.5	100.0
	平均	44.5	18.9	15.0	7.0	85.3	14.7	100.0
公立	男	39.4	20.5	16.5	11.2	87.7	12.3	100.0
	女	38.0	14.0	16.3	11.4	79.8	20.2	100.0
	平均	38.9	18.1	16.5	11.3	84.7	15.3	100.0
私立	男	43.4	17.8	14.5	9.0	84.7	15.3	100.0
	女	43.1	16.9	14.1	7.8	81.9	18.1	100.0
	平均	43.3	17.4	14.4	8.6	83.7	16.3	100.0
平均	男	44.0	18.7	15.1	7.6	85.4	14.6	100.0
	女	43.2	17.4	14.2	8.4	83.1	16.9	100.0
	平均	43.8	18.3	14.9	7.8	84.8	15.2	100.0

(参考) n=6,535

(注) 「配偶者あり」と回答した者は集計に含まない。

「アルバイト」に「TA・RA」を含む。

4-4表 家庭からの給付程度別・アルバイト従事者の全学生に対する割合（大学院博士課程）

(単位：%)

区分		家庭からの給付のみで修学可能	家庭からの給付のみでは修学に不自由	家庭からの給付のみでは修学継続困難	家庭からの給付なし	計	アルバイト非従事者	合計
国立	男	18.1	12.1	12.5	29.7	72.5	27.5	100.0
	女	20.9	9.0	9.7	33.4	72.9	27.1	100.0
	平均	18.9	11.3	11.7	30.7	72.6	27.4	100.0
公立	男	17.7	9.3	7.9	27.9	62.8	37.2	100.0
	女	12.7	9.5	8.9	25.9	57.0	43.0	100.0
	平均	15.5	9.4	8.3	27.1	60.3	39.7	100.0
私立	男	23.5	10.1	13.1	26.1	72.7	27.3	100.0
	女	23.6	12.2	9.2	23.6	68.5	31.5	100.0
	平均	23.5	10.9	11.6	25.1	71.1	28.9	100.0
平均	男	19.3	11.6	12.4	28.8	72.1	27.9	100.0
	女	21.2	10.0	9.5	29.7	70.4	29.6	100.0
	平均	19.9	11.1	11.5	29.1	71.6	28.4	100.0

(参考) n=4,077

(注) 「配偶者あり」と回答した者は集計に含まない。

「アルバイト」に「TA・RA」を含む。

4-5表 家庭からの給付程度別・アルバイト従事者の全学生に対する割合（大学院専門職学位課程）

（単位：％）

区 分		家庭からの給付 のみで修学可能	家庭からの給付 のみでは修学に 不自由	家庭からの給付 のみでは修学 継続困難	家庭からの給付 なし	計	アルバイト 非従事者	合 計
国 立	男	26.4	12.7	11.1	8.6	58.8	41.2	100.0
	女	30.9	10.8	7.0	4.1	52.8	47.2	100.0
	平均	27.9	12.0	9.7	7.1	56.7	43.3	100.0
公 立	男	6.8	4.6	4.6	-	16.0	84.0	100.0
	女	16.4	12.3	-	4.1	32.8	67.2	100.0
	平均	10.3	7.3	2.9	1.5	22.0	78.0	100.0
私 立	男	19.7	6.9	7.2	4.5	38.4	61.6	100.0
	女	20.1	9.9	9.9	7.8	47.6	52.4	100.0
	平均	19.8	8.2	8.3	5.9	42.2	57.8	100.0
平 均	男	22.3	9.5	8.9	6.2	46.9	53.1	100.0
	女	24.1	10.3	8.5	6.3	49.2	50.8	100.0
	平均	23.0	9.8	8.7	6.2	47.8	52.2	100.0

（参考） n=1,559

（注） 「配偶者あり」と回答した者は集計に含まない。

「アルバイト」に「TA・RA」を含む。

5-1表 アルバイト従事者の従事時期別・職種別学生数の割合（大学昼間部）

(単位：%)

区 分			家庭教師	事 務	販 売	飲食業	販売・飲食業を除く 軽労働	重労働・ 危険作業	特殊技能	その他	計	従事日数別 割合
国立	授業 期間中	不 定 期 的 に し た	23.1	6.3	9.4	26.4	13.7	3.9	3.1	14.2	100.0	14.4
		週 に 1 ～ 2 日 し た	34.2	3.2	14.1	37.2	4.9	0.3	1.3	4.9	100.0	41.9
		週 に 3 日 以 上 し た	24.9	1.5	19.9	43.9	4.3	0.5	1.0	3.9	100.0	43.7
		平 均	28.5	2.9	16.0	38.6	5.9	0.9	1.4	5.8	100.0	100.0
	長期 休暇中	不 定 期 的 に し た	25.9	6.3	11.3	28.3	10.4	3.7	2.4	11.7	100.0	19.5
		週 に 1 ～ 2 日 し た	36.0	3.1	12.1	35.5	5.5	0.7	1.8	5.1	100.0	22.7
		週 に 3 日 以 上 し た	26.4	1.9	19.4	42.2	4.4	0.4	0.8	4.4	100.0	57.8
		平 均	28.5	3.0	16.2	38.0	5.8	1.1	1.4	6.0	100.0	100.0
公立	授業 期間中	不 定 期 的 に し た	10.3	5.0	19.0	28.1	15.3	3.3	2.5	16.5	100.0	11.1
		週 に 1 ～ 2 日 し た	18.2	2.6	21.5	43.7	6.1	0.2	1.0	6.8	100.0	35.0
		週 に 3 日 以 上 し た	12.6	2.0	27.6	48.7	4.6	0.5	0.7	3.2	100.0	53.8
		平 均	14.3	2.5	24.5	44.7	6.3	0.7	1.0	6.0	100.0	100.0
	長期 休暇中	不 定 期 的 に し た	13.6	5.2	16.7	32.0	12.8	2.8	2.4	14.5	100.0	15.5
		週 に 1 ～ 2 日 し た	23.2	2.6	19.8	38.8	8.1	-	0.4	7.1	100.0	14.6
		週 に 3 日 以 上 し た	12.5	1.9	27.3	47.8	5.1	0.5	0.9	4.0	100.0	69.9
		平 均	14.2	2.5	24.6	44.0	6.8	0.8	1.0	6.1	100.0	100.0
私立	授業 期間中	不 定 期 的 に し た	8.6	4.0	18.0	27.0	15.0	4.6	1.8	20.9	100.0	12.3
		週 に 1 ～ 2 日 し た	12.4	3.4	24.2	41.9	6.6	1.2	1.3	8.9	100.0	36.8
		週 に 3 日 以 上 し た	7.1	2.3	29.3	49.2	5.0	1.0	1.0	5.1	100.0	50.8
		平 均	9.3	2.9	26.1	43.8	6.8	1.5	1.2	8.4	100.0	100.0
	長期 休暇中	不 定 期 的 に し た	10.1	4.7	19.9	26.8	14.1	4.1	1.9	18.4	100.0	15.2
		週 に 1 ～ 2 日 し た	11.9	3.7	23.1	40.8	7.8	1.7	1.4	9.5	100.0	15.3
		週 に 3 日 以 上 し た	8.3	2.2	28.1	47.4	5.6	1.4	1.1	5.8	100.0	69.5
		平 均	9.2	2.8	26.1	43.3	7.2	1.8	1.2	8.3	100.0	100.0
平均	授業 期間中	不 定 期 的 に し た	11.5	4.5	16.4	26.9	14.8	4.4	2.1	19.4	100.0	12.6
		週 に 1 ～ 2 日 し た	16.8	3.3	22.2	41.1	6.2	1.0	1.3	8.0	100.0	37.6
		週 に 3 日 以 上 し た	10.1	2.2	27.8	48.4	4.8	0.9	1.0	4.8	100.0	49.8
		平 均	12.8	2.9	24.3	42.9	6.6	1.4	1.2	7.9	100.0	100.0
	長期 休暇中	不 定 期 的 に し た	13.5	5.1	17.9	27.4	13.3	3.9	2.0	16.8	100.0	15.9
		週 に 1 ～ 2 日 し た	18.0	3.5	20.4	39.5	7.3	1.4	1.5	8.4	100.0	16.5
		週 に 3 日 以 上 し た	11.1	2.1	26.9	46.7	5.4	1.2	1.0	5.5	100.0	67.6
		平 均	12.6	2.8	24.4	42.4	7.0	1.7	1.3	7.8	100.0	100.0

(参考) 授業期間中n=16,178、長期休暇中n=15,684

5-2表 アルバイト従事者の従事時期別・職種別学生数の割合（短期大学昼間部）

(単位：%)

区 分			家庭教師	事 務	販 売	飲食業	販売・飲食業を除く 軽労働	重労働・ 危険作業	特殊技能	その他	計	従事日数別 割合
国立	授業 期間中	不 定 期 的 に し た
		週 に 1 ～ 2 日 し た
		週 に 3 日 以 上 し た
		平 均
	長期 休暇中	不 定 期 的 に し た
		週 に 1 ～ 2 日 し た
公立			3.3	2.1	22.2	36.4	14.2	1.0	1.6	19.1	100.0	13.4
公立	授業 期間中	週 に 1 ～ 2 日 し た	4.7	1.5	24.9	53.4	6.4	0.8	0.7	7.6	100.0	38.8
		週 に 3 日 以 上 し た	2.0	0.3	31.3	57.4	3.7	0.3	0.1	4.8	100.0	47.8
		平 均	3.2	1.0	27.6	53.1	6.1	0.6	0.6	7.8	100.0	100.0
		長期 休暇中	不 定 期 的 に し た	3.5	1.4	26.0	39.6	9.3	-	-	20.2	100.0
	週 に 1 ～ 2 日 し た		5.0	2.8	19.7	54.6	6.9	1.0	1.8	8.2	100.0	17.0
	週 に 3 日 以 上 し た	2.3	0.3	30.7	56.8	3.9	0.4	0.2	5.4	100.0	65.6	
平 均	2.9	0.9	28.0	53.4	5.4	0.4	0.4	8.5	100.0	100.0		
私立	授業 期間中	不 定 期 的 に し た	3.0	1.8	23.2	44.3	11.0	0.6	-	16.1	100.0	13.6
		週 に 1 ～ 2 日 し た	2.1	1.5	28.6	51.4	5.7	0.9	0.8	8.8	100.0	34.0
		週 に 3 日 以 上 し た	1.2	1.1	29.8	58.7	4.3	0.7	0.3	3.9	100.0	52.5
		平 均	1.7	1.3	28.5	54.3	5.7	0.8	0.4	7.2	100.0	100.0
	長期 休暇中	不 定 期 的 に し た	2.9	2.1	24.8	41.1	10.4	1.3	0.3	17.1	100.0	15.3
		週 に 1 ～ 2 日 し た	1.6	1.6	27.0	50.7	7.2	0.3	1.0	10.5	100.0	12.4
週 に 3 日 以 上 し た	1.2	1.2	29.1	56.6	4.4	1.0	0.5	6.0	100.0	72.2		
平 均	1.6	1.4	28.2	53.5	5.7	0.9	0.5	8.3	100.0	100.0		
平均	授業 期間中	不 定 期 的 に し た	3.0	1.8	23.2	43.9	11.2	0.6	0.1	16.2	100.0	13.5
		週 に 1 ～ 2 日 し た	2.3	1.5	28.4	51.5	5.7	0.9	0.8	8.7	100.0	34.2
		週 に 3 日 以 上 し た	1.2	1.0	29.9	58.7	4.3	0.7	0.3	4.0	100.0	52.2
		平 均	1.8	1.3	28.5	54.2	5.7	0.8	0.5	7.3	100.0	100.0
	長期 休暇中	不 定 期 的 に し た	3.0	2.1	24.9	41.0	10.3	1.3	0.3	17.2	100.0	15.4
		週 に 1 ～ 2 日 し た	1.9	1.7	26.5	50.9	7.2	0.4	1.0	10.4	100.0	12.7
週 に 3 日 以 上 し た	1.3	1.2	29.2	56.6	4.4	0.9	0.4	6.0	100.0	71.9		
平 均	1.6	1.4	28.2	53.5	5.7	0.9	0.5	8.3	100.0	100.0		

(参考) 授業期間中n=3,854、長期休暇中n=3,731

5-3表 アルバイト従事者の従事時期別・職種別学生数の割合（大学院修士課程）

(単位：%)

区 分			家庭教師	事 務	販 売	飲食業	販売・飲食業を除く 軽労働	重労働・ 危険作業	特殊技能	その他	計	従事日数別 割合
国立	授業 期間中	不 定 期 的 に し た	19.7	6.8	7.1	13.7	16.8	4.8	8.1	23.0	100.0	23.7
		週 に 1 ～ 2 日 し た	28.9	5.7	14.8	28.2	7.7	0.7	5.8	8.2	100.0	51.3
		週 に 3 日 以 上 し た	22.5	3.9	20.7	34.8	6.7	-	4.7	6.7	100.0	25.1
		平 均	25.1	5.5	14.5	26.4	9.6	1.5	6.1	11.3	100.0	100.0
	長期 休暇中	不 定 期 的 に し た	20.8	7.9	8.8	13.4	16.9	4.1	8.1	20.0	100.0	25.4
		週 に 1 ～ 2 日 し た	29.7	5.4	15.4	26.8	8.0	0.8	6.2	7.7	100.0	37.5
		週 に 3 日 以 上 し た	23.4	3.9	19.0	35.8	6.9	0.3	4.6	6.2	100.0	37.0
		平 均	25.1	5.5	15.1	26.7	9.8	1.4	6.1	10.3	100.0	100.0
公立	授業 期間中	不 定 期 的 に し た	16.5	6.8	14.6	14.6	11.1	3.4	6.8	26.2	100.0	21.9
		週 に 1 ～ 2 日 し た	26.4	5.2	20.7	24.3	6.7	1.0	5.2	10.3	100.0	50.6
		週 に 3 日 以 上 し た	17.4	3.9	25.5	33.2	5.0	0.4	2.7	12.0	100.0	27.5
		平 均	21.8	5.2	20.7	24.6	7.2	1.4	4.9	14.2	100.0	100.0
	長期 休暇中	不 定 期 的 に し た	16.4	7.0	13.1	13.1	13.7	2.8	9.9	23.9	100.0	23.7
		週 に 1 ～ 2 日 し た	25.5	5.0	21.1	25.5	5.4	1.3	3.4	12.8	100.0	33.1
		週 に 3 日 以 上 し た	19.3	4.3	24.9	32.4	5.9	0.8	3.4	9.0	100.0	43.2
		平 均	20.7	5.2	20.9	25.5	7.6	1.5	4.9	13.8	100.0	100.0
私立	授業 期間中	不 定 期 的 に し た	17.7	6.8	10.4	12.7	10.7	4.2	8.7	28.7	100.0	23.0
		週 に 1 ～ 2 日 し た	21.9	10.2	15.8	23.3	5.9	0.6	6.9	15.3	100.0	52.3
		週 に 3 日 以 上 し た	16.0	12.0	19.4	24.1	6.3	1.0	4.7	16.5	100.0	24.7
		平 均	19.5	9.8	15.5	21.0	7.1	1.6	6.8	18.7	100.0	100.0
	長期 休暇中	不 定 期 的 に し た	17.2	8.7	9.2	12.5	10.3	3.5	9.0	29.5	100.0	27.1
		週 に 1 ～ 2 日 し た	21.2	9.8	16.5	22.6	6.3	1.0	8.5	14.1	100.0	33.3
		週 に 3 日 以 上 し た	17.5	9.2	19.0	27.7	6.7	1.4	4.3	14.2	100.0	39.6
		平 均	18.6	9.3	15.5	21.9	7.5	1.8	7.0	18.3	100.0	100.0
平均	授業 期間中	不 定 期 的 に し た	18.9	6.8	8.6	13.4	14.6	4.5	8.2	25.0	100.0	23.3
		週 に 1 ～ 2 日 し た	26.5	7.1	15.5	26.4	7.1	0.7	6.2	10.6	100.0	51.5
		週 に 3 日 以 上 し た	20.1	6.4	20.7	31.4	6.4	0.4	4.6	10.1	100.0	25.1
		平 均	23.1	6.8	15.2	24.6	8.6	1.5	6.2	13.8	100.0	100.0
	長期 休暇中	不 定 期 的 に し た	19.3	8.2	9.2	13.1	14.5	3.8	8.5	23.4	100.0	25.8
		週 に 1 ～ 2 日 し た	26.9	6.6	16.1	25.5	7.4	0.9	6.7	9.9	100.0	35.9
		週 に 3 日 以 上 し た	21.1	5.7	19.4	32.9	6.7	0.7	4.4	9.0	100.0	38.2
		平 均	22.8	6.7	15.6	25.1	9.0	1.6	6.3	13.0	100.0	100.0

(参考) 授業期間中n=4,524、長期休暇中n=4,306

(注) 「配偶者あり」と回答した者は集計に含まない。

「アルバイト」に「TA・RA」を含まない。

5-4表 アルバイト従事者の従事時期別・職種別学生数の割合（大学院博士課程）

(単位：%)

区 分			家庭教師	事 務	販 売	飲食業	販売・飲食業を除く 軽労働	重労働・ 危険作業	特殊技能	その他	計	従事日数別 割合
国立	授業 期間中	不 定 期 的 に し た	18.9	10.8	3.8	6.1	7.1	1.0	20.3	32.1	100.0	23.7
		週 に 1 ～ 2 日 し た	20.2	6.2	3.3	4.4	1.5	0.2	23.7	40.4	100.0	51.0
		週 に 3 日 以 上 し た	23.0	6.2	7.1	3.5	2.2	-	18.1	39.8	100.0	25.3
		平 均	20.6	7.3	4.4	4.6	3.0	0.3	21.5	38.3	100.0	100.0
	長期 休暇中	不 定 期 的 に し た	19.0	8.8	4.4	6.3	6.9	1.0	21.4	32.2	100.0	26.4
		週 に 1 ～ 2 日 し た	20.9	7.4	2.6	3.8	0.6	0.3	26.2	38.2	100.0	43.7
		週 に 3 日 以 上 し た	22.4	5.2	9.1	5.2	3.9	0.4	18.1	35.7	100.0	29.9
		平 均	20.8	7.1	5.0	4.9	3.2	0.5	22.5	35.9	100.0	100.0
公立	授業 期間中	不 定 期 的 に し た	12.8	-	-	3.1	6.1	-	22.4	55.6	100.0	17.9
		週 に 1 ～ 2 日 し た	13.1	3.5	3.5	4.6	1.1	-	24.9	49.4	100.0	49.5
		週 に 3 日 以 上 し た	19.6	3.4	10.9	3.6	-	-	19.6	42.9	100.0	32.6
		平 均	15.1	2.8	5.3	4.0	1.6	-	22.7	48.4	100.0	100.0
	長期 休暇中	不 定 期 的 に し た	21.4	-	-	2.9	5.7	-	24.3	45.7	100.0	21.4
		週 に 1 ～ 2 日 し た	11.6	4.3	4.3	4.3	-	-	27.5	48.0	100.0	44.8
		週 に 3 日 以 上 し た	21.0	3.6	11.7	5.7	1.8	-	15.6	40.5	100.0	33.9
		平 均	16.9	3.2	5.9	4.5	1.8	-	22.8	45.0	100.0	100.0
私立	授業 期間中	不 定 期 的 に し た	14.0	14.7	1.3	1.9	1.2	0.6	13.4	52.9	100.0	19.5
		週 に 1 ～ 2 日 し た	14.4	5.6	2.0	3.4	1.3	0.5	21.2	51.5	100.0	55.1
		週 に 3 日 以 上 し た	16.2	14.2	5.4	4.4	1.9	1.5	13.7	42.7	100.0	25.4
		平 均	14.8	9.6	2.7	3.3	1.5	0.7	17.8	49.5	100.0	100.0
	長期 休暇中	不 定 期 的 に し た	19.6	11.4	1.6	3.8	2.1	0.5	14.1	46.8	100.0	26.0
		週 に 1 ～ 2 日 し た	8.8	6.6	1.9	3.4	1.6	0.3	22.9	54.6	100.0	45.2
		週 に 3 日 以 上 し た	16.7	13.3	5.5	5.9	2.5	1.9	14.8	39.4	100.0	28.7
		平 均	13.9	9.8	2.8	4.3	2.0	0.8	18.3	48.2	100.0	100.0
平均	授業 期間中	不 定 期 的 に し た	17.4	11.4	3.0	4.9	5.5	0.8	18.6	38.5	100.0	22.2
		週 に 1 ～ 2 日 し た	18.0	5.9	2.9	4.1	1.5	0.3	23.0	44.3	100.0	52.1
		週 に 3 日 以 上 し た	20.8	8.3	6.9	3.8	2.0	0.4	16.9	40.9	100.0	25.7
		平 均	18.6	7.7	3.9	4.2	2.5	0.4	20.5	42.1	100.0	100.0
	長期 休暇中	不 定 期 的 に し た	19.3	9.2	3.4	5.4	5.4	0.8	19.4	37.1	100.0	26.0
		週 に 1 ～ 2 日 し た	16.7	7.0	2.5	3.7	0.9	0.3	25.3	43.7	100.0	44.2
		週 に 3 日 以 上 し た	20.7	7.4	8.2	5.4	3.4	0.8	17.0	37.1	100.0	29.8
		平 均	18.6	7.7	4.4	4.7	2.8	0.6	21.3	40.0	100.0	100.0

(参考) 授業期間中n=1,869、長期休暇中n=1,637

(注) 「配偶者あり」と回答した者は集計に含まない。

「アルバイト」に「T・A・R・A」を含まない。

5-5表 アルバイト従事者の従事時期別・職種別学生数の割合（大学院専門職学位課程）

(単位：%)

区 分			家庭教師	事 務	販 売	飲食業	販売・飲食業を除く 軽労働	重労働・ 危険作業	特殊技能	その他	計	従事日数別 割合
国立	授業 期間中	不 定 期 的 に し た	31.1	11.8	7.5	9.8	12.9	3.2	6.4	17.3	100.0	25.0
		週 に 1 ～ 2 日 し た	44.2	9.0	9.0	21.2	3.7	-	3.3	9.5	100.0	50.3
		週 に 3 日 以 上 し た	31.6	4.4	20.7	22.8	3.2	-	3.2	14.1	100.0	24.7
		平 均	37.8	8.6	11.5	18.8	5.9	0.8	4.0	12.6	100.0	100.0
	長期 休暇中	不 定 期 的 に し た	27.5	15.6	6.0	9.5	15.6	1.7	6.9	17.2	100.0	30.1
		週 に 1 ～ 2 日 し た	52.4	10.2	5.9	17.8	3.4	-	2.5	7.7	100.0	30.7
		週 に 3 日 以 上 し た	29.7	2.0	19.9	26.5	4.6	0.7	2.7	13.9	100.0	39.2
		平 均	36.0	8.6	11.4	18.7	7.6	0.8	3.9	13.0	100.0	100.0
公立	授業 期間中	不 定 期 的 に し た	50.0	-	25.0	25.0	-	-	-	-	100.0	30.8
		週 に 1 ～ 2 日 し た	-	20.0	20.0	20.0	-	-	-	40.0	100.0	38.5
		週 に 3 日 以 上 し た	-	25.0	-	25.0	25.0	-	-	25.0	100.0	30.8
		平 均	15.4	15.4	15.4	23.1	7.7	-	-	23.1	100.0	100.0
	長期 休暇中	不 定 期 的 に し た	40.0	-	20.0	40.0	-	-	-	-	100.0	35.7
		週 に 1 ～ 2 日 し た	-	20.0	20.0	20.0	-	-	-	40.0	100.0	35.7
		週 に 3 日 以 上 し た	-	25.0	-	25.0	25.0	-	-	25.0	100.0	28.6
		平 均	14.3	14.3	14.3	28.6	7.1	-	-	21.4	100.0	100.0
私立	授業 期間中	不 定 期 的 に し た	23.9	13.3	6.7	6.7	13.3	4.1	8.0	23.9	100.0	29.7
		週 に 1 ～ 2 日 し た	19.4	17.0	11.6	19.4	3.9	0.8	2.4	25.5	100.0	51.0
		週 に 3 日 以 上 し た	16.2	18.3	20.4	14.1	2.1	-	8.4	20.4	100.0	19.4
		平 均	20.1	16.2	11.9	14.6	6.3	1.6	5.2	24.1	100.0	100.0
	長期 休暇中	不 定 期 的 に し た	20.8	14.8	7.4	5.0	14.8	2.5	8.7	25.9	100.0	31.4
		週 に 1 ～ 2 日 し た	18.3	19.5	8.4	15.8	7.3	1.3	2.5	26.9	100.0	31.7
		週 に 3 日 以 上 し た	14.8	14.8	18.9	19.9	4.2	1.1	5.3	21.0	100.0	36.8
		平 均	17.8	16.3	12.0	13.9	8.5	1.6	5.5	24.4	100.0	100.0
平均	授業 期間中	不 定 期 的 に し た	27.8	12.4	7.4	8.4	12.9	3.6	7.1	20.4	100.0	27.3
		週 に 1 ～ 2 日 し た	31.8	13.0	10.4	20.3	3.8	0.4	2.8	17.5	100.0	50.5
		週 に 3 日 以 上 し た	24.6	10.6	20.2	19.3	3.2	-	5.3	16.9	100.0	22.3
		平 均	29.1	12.3	11.8	16.9	6.1	1.2	4.5	18.2	100.0	100.0
	長期 休暇中	不 定 期 的 に し た	24.5	14.9	7.0	7.9	14.9	2.0	7.6	21.0	100.0	30.8
		週 に 1 ～ 2 日 し た	35.1	14.9	7.4	16.9	5.2	0.6	2.5	17.5	100.0	31.3
		週 に 3 日 以 上 し た	22.6	8.1	19.2	23.5	4.7	0.9	3.8	17.3	100.0	37.9
		平 均	27.1	12.3	11.7	16.6	8.0	1.1	4.6	18.5	100.0	100.0

(参考) 授業期間中n=639、長期休暇中n=657

(注) 「配偶者あり」と回答した者は集計に含まない。

「アルバイト」に「TA・RA」を含まない。

6-1表 設置者別・家庭の年間収入別奨学金の希望及び受給の状況（大学昼間部）

(単位：%)

区分	希望及び受給の状況	家庭の年間収入															計		
		200万円未満	200～300	300～400	400～500	500～600	600～700	700～800	800～900	900～1,000	1,000～1,100	1,100～1,200	1,200～1,300	1,300～1,400	1,400～1,500	1,500万円以上			
国立	受給者	100.0	(15.0)	(24.9)	(35.3)	(46.4)	(58.1)	(70.2)	(81.5)	(88.0)	(92.7)	(94.8)	(96.8)	(97.7)	(98.2)	(100.0)			
	申請したが不採用	43.1	6.9	8.1	9.9	10.4	11.1	11.7	12.1	11.3	6.5	4.7	2.1	2.0	0.9	0.5	1.8	100.0	
	希望するが申請しなかった	1.5	1.6	1.6	8.1	3.2	8.1	4.8	21.0	12.9	6.5	11.3	6.5	3.2	4.8	3.2	3.2	3.2	100.0
	必要ない	4.5	4.2	3.7	4.7	7.9	8.9	11.0	12.0	10.5	9.4	9.9	5.8	4.2	4.2	0.5	3.1	3.1	100.0
公立	受給者	100.0	(16.3)	(26.5)	(39.5)	(52.3)	(64.7)	(75.1)	(84.3)	(91.3)	(94.7)	(96.5)	(97.7)	(98.4)	(98.7)	(100.0)			
	申請したが不採用	53.3	8.0	8.3	10.2	13.0	12.8	12.4	10.4	9.2	7.0	3.4	1.8	1.2	0.7	0.3	1.3	100.0	
	希望するが申請しなかった	1.4	3.8	1.9	5.7	5.7	7.5	13.2	3.8	18.9	7.5	7.5	3.8	7.5	3.8	1.9	7.5	7.5	100.0
	必要ない	3.4	4.7	3.9	8.6	7.8	10.2	14.8	10.9	14.8	4.7	4.7	2.3	3.1	1.6	-	7.8	7.8	100.0
私立	受給者	100.0	(15.0)	(23.6)	(34.3)	(46.1)	(58.9)	(70.2)	(80.3)	(87.9)	(93.1)	(95.7)	(97.2)	(97.9)	(98.6)	(100.0)			
	申請したが不採用	48.0	7.5	7.5	8.6	10.7	11.8	12.8	11.3	10.1	7.6	5.2	2.6	1.5	0.7	0.7	1.4	100.0	
	希望するが申請しなかった	1.3	0.8	0.8	10.2	6.3	8.6	9.4	6.3	7.0	10.9	13.3	3.9	7.8	2.3	2.3	10.2	10.2	100.0
	必要ない	4.4	4.2	3.1	5.2	5.2	8.7	12.2	12.9	9.2	10.6	8.5	5.2	3.8	2.8	1.6	6.8	6.8	100.0
平均	受給者	100.0	(15.1)	(24.0)	(34.8)	(46.6)	(59.2)	(70.6)	(80.8)	(88.2)	(93.2)	(95.7)	(97.2)	(97.9)	(98.6)	(100.0)			
	申請したが不採用	47.5	7.4	7.7	8.9	10.8	11.8	12.6	11.4	10.2	7.4	5.0	2.5	1.5	0.7	0.7	1.4	100.0	
	希望するが申請しなかった	1.4	1.1	1.0	9.5	5.6	8.4	8.7	8.9	8.8	9.9	12.6	4.4	6.9	2.9	2.5	8.7	8.7	100.0
	必要ない	4.4	4.2	3.2	5.2	5.8	8.8	12.1	12.7	9.6	10.1	8.6	5.2	3.8	3.0	1.4	6.2	6.2	100.0
必要ない	46.8	2.2	1.6	3.2	4.1	7.2	8.5	9.3	10.7	8.5	12.3	5.7	5.8	4.0	2.7	14.3	14.3	100.0	

(参考) n=17,692

(注) () は、奨学金受給者の割合の累計を示す。

上記区分「希望するが申請しなかった」は、日本学生支援機構貸与奨学金では「希望したが申請しなかった」、かつ、他の奨学金では「申請しなかった」と回答した者とした。

上記区分「必要ない」は、日本学生支援機構貸与奨学金では「貸与奨学金は必要なかった」、かつ、他の奨学金では「申請しなかった」と回答した者とした。

6-2表 設置者別・家庭の年間収入別奨学金の希望及び受給の状況（短期大学昼間部）

(単位：%)

区分	希望及び受給の状況	家庭の年間収入															計	
		200万円未満	200～300	300～400	400～500	500～600	600～700	700～800	800～900	900～1,000	1,000～1,100	1,100～1,200	1,200～1,300	1,300～1,400	1,400～1,500	1,500万円以上		
国立	受給者
	申請したが不採用
	希望するが申請しなかった
	必要ない
公立	受給者	100.0	(21.1)	(33.5)	(49.0)	(64.1)	(77.1)	(86.1)	(92.4)	(96.2)	(98.0)	(98.7)	(99.4)	(99.9)	(99.9)	(100.0)		
	申請したが不採用	57.3	12.4	8.7	12.4	15.5	15.1	13.0	9.0	6.3	3.8	1.8	0.7	0.7	0.5	-	0.1	100.0
	希望するが申請しなかった	0.5	12.5	12.5	12.5	25.0	12.5	-	-	-	12.5	-	-	-	12.5	-	-	100.0
	必要ない	4.3	9.5	3.2	9.5	11.1	17.5	25.4	7.9	3.2	-	3.2	4.8	1.6	-	-	3.2	100.0
私立	受給者	100.0	(20.3)	(33.8)	(47.7)	(60.9)	(74.7)	(84.1)	(90.6)	(94.9)	(96.8)	(97.8)	(98.3)	(98.8)	(98.9)	(100.0)		
	申請したが不採用	55.1	9.9	10.4	13.5	13.9	13.2	13.8	9.4	6.5	4.3	1.9	1.0	0.5	0.5	0.1	1.1	100.0
	希望するが申請しなかった	1.0	11.1	11.1	-	11.1	7.4	11.1	14.8	14.8	3.7	3.7	-	3.7	-	-	7.4	100.0
	必要ない	3.1	11.0	2.4	8.5	9.8	13.4	15.9	8.5	9.8	6.1	4.9	2.4	-	2.4	1.2	3.7	100.0
平均	受給者	100.0	(20.4)	(33.9)	(47.9)	(61.2)	(75.0)	(84.4)	(90.8)	(95.1)	(97.0)	(97.9)	(98.4)	(98.9)	(99.0)	(100.0)		
	申請したが不採用	55.2	10.1	10.3	13.5	14.0	13.3	13.8	9.4	6.4	4.3	1.9	0.9	0.5	0.5	0.1	1.0	100.0
	希望するが申請しなかった	1.0	11.2	11.2	0.4	11.5	7.6	10.8	14.4	14.4	4.0	3.6	-	3.6	0.4	-	7.2	100.0
	必要ない	3.1	10.9	2.5	8.6	9.9	13.7	16.5	8.5	9.3	5.7	4.8	2.6	0.1	2.3	1.1	3.6	100.0
必要ない	40.6	4.4	4.1	7.5	7.9	11.6	13.6	11.4	10.9	7.5	7.3	3.4	3.1	1.3	1.9	4.1	100.0	

(参考) n=4,132

(注) () は、奨学金受給者の割合の累計を示す。

上記区分「希望するが申請しなかった」は、日本学生支援機構貸与奨学金では「希望したが申請しなかった」、かつ、他の奨学金では「申請しなかった」と回答した者とした。

上記区分「必要ない」は、日本学生支援機構貸与奨学金では「貸与奨学金は必要なかった」、かつ、他の奨学金では「申請しなかった」と回答した者とした。

6-3表 設置者別・家庭の年間収入別奨学金の希望及び受給の状況（大学院修士課程）

(単位：%)

区分	希望及び受給の状況	家庭の年間収入															計	
		200万円未満	200～300	300～400	400～500	500～600	600～700	700～800	800～900	900～1,000	1,000～1,100	1,100～1,200	1,200～1,300	1,300～1,400	1,400～1,500	1,500万円以上		
国立	受給者	100.0	(14.4)	(23.7)	(31.3)	(40.4)	(50.8)	(60.5)	(71.0)	(78.6)	(85.1)	(89.0)	(92.2)	(94.2)	(95.3)	(100.0)		
	申請したが不採用	47.4	6.4	8.0	9.3	7.6	9.1	10.4	9.7	10.5	7.6	6.5	3.9	3.2	2.0	1.1	4.7	100.0
	希望するが申請しなかった	1.9	5.7	9.4	3.8	9.4	3.8	9.4	7.5	9.4	9.4	9.4	3.8	3.8	3.8	7.5	3.8	100.0
	必要ない	6.9	6.7	4.6	8.8	10.3	8.2	5.7	9.8	6.7	9.8	10.3	3.6	3.1	1.5	3.6	7.2	100.0
		43.8	2.2	2.2	4.1	5.7	4.9	7.5	8.7	8.3	7.6	14.0	6.5	5.4	3.1	3.1	16.7	100.0
公立	受給者	100.0	(15.4)	(23.5)	(33.3)	(44.0)	(55.7)	(65.6)	(75.8)	(83.4)	(88.9)	(91.0)	(94.1)	(95.7)	(96.9)	(100.0)		
	申請したが不採用	54.8	7.8	7.6	8.1	9.8	10.7	11.7	9.9	10.2	7.6	5.5	2.1	3.1	1.6	1.2	3.1	100.0
	希望するが申請しなかった	1.7	23.8	-	-	14.3	9.5	4.8	19.0	4.8	4.8	9.5	-	-	4.8	4.8	-	100.0
	必要ない	5.2	7.8	6.3	15.6	7.8	14.1	9.4	6.3	6.3	1.6	7.8	3.1	3.1	6.3	3.1	1.6	100.0
		38.3	5.1	4.5	7.4	6.8	8.3	8.7	7.6	9.1	5.7	12.1	4.0	6.4	3.0	2.3	8.9	100.0
私立	受給者	100.0	(12.3)	(20.1)	(29.7)	(39.0)	(49.5)	(58.5)	(67.4)	(74.5)	(82.5)	(87.0)	(90.1)	(92.3)	(94.3)	(100.0)		
	申請したが不採用	47.9	6.9	5.4	7.8	9.6	9.3	10.5	9.0	8.9	7.1	8.0	4.5	3.1	2.2	2.0	5.7	100.0
	希望するが申請しなかった	3.0	7.6	7.6	7.6	4.5	9.1	9.1	12.1	12.1	3.0	6.1	1.5	6.1	-	-	13.6	100.0
	必要ない	5.8	8.5	5.4	10.1	6.2	5.4	8.5	7.8	7.8	6.2	6.2	8.5	3.1	1.6	4.7	10.1	100.0
		43.3	4.7	2.8	5.1	7.4	7.1	7.6	5.6	8.3	6.1	9.7	5.6	6.3	3.1	2.1	18.4	100.0
平均	受給者	100.0	(13.7)	(22.4)	(30.8)	(40.1)	(50.6)	(60.1)	(70.1)	(77.5)	(84.4)	(88.4)	(91.6)	(93.7)	(95.1)	(100.0)		
	申請したが不採用	48.0	6.6	7.1	8.7	8.4	9.3	10.5	9.5	10.0	7.4	6.9	4.0	3.2	2.1	1.4	4.9	100.0
	希望するが申請しなかった	2.2	7.3	8.2	5.2	7.5	6.3	9.1	10.1	10.4	6.4	8.0	2.6	4.6	2.2	4.2	7.9	100.0
	必要ない	6.5	7.3	4.9	9.5	9.0	7.7	6.7	9.0	7.0	8.3	9.0	5.0	3.1	1.8	3.9	7.8	100.0
		43.3	3.2	2.5	4.6	6.3	5.8	7.6	7.7	8.3	7.0	12.5	6.1	5.7	3.1	2.7	16.8	100.0

(参考) n=6, 241

(注) () は、奨学金受給者の割合の累計を示す。

「配偶者あり」と回答した者は集計に含まない。

上記区分「希望するが申請しなかった」は、日本学生支援機構貸与奨学金では「希望したが申請しなかった」、かつ、他の奨学金では「申請しなかった」と回答した者とした。

上記区分「必要ない」は、日本学生支援機構貸与奨学金では「貸与奨学金は必要なかった」、かつ、他の奨学金では「申請しなかった」と回答した者とした。

6-4表 設置者別・家庭の年間収入別奨学金の希望及び受給の状況（大学院博士課程）

(単位：%)

区 分		希望及び受給の状況	家 庭 の 年 間 収 入														計	
			200万円未満	200～300	300～400	400～500	500～600	600～700	700～800	800～900	900～1,000	1,000～1,100	1,100～1,200	1,200～1,300	1,300～1,400	1,400～1,500		1,500万円以上
国立	受給者	100.0		(37.2)	(45.3)	(51.9)	(57.6)	(63.6)	(69.3)	(73.6)	(78.8)	(85.1)	(86.8)	(89.4)	(91.1)	(91.8)	(100.0)	
	申請したが不採用	56.5	14.6	22.6	8.1	6.6	5.7	6.0	5.7	4.3	5.2	6.3	1.7	2.6	1.7	0.7	8.2	100.0
	希望するが申請しなかった	3.2	15.2	4.5	10.6	4.5	7.6	4.5	10.6	4.5	9.1	9.1	3.0	3.0	-	1.5	12.1	100.0
	必要ない	5.9	18.3	11.7	8.3	9.2	5.8	10.0	5.0	5.0	5.8	6.7	4.2	0.8	-	2.5	6.7	100.0
		34.4	10.0	5.7	8.0	8.0	8.4	7.5	7.0	7.8	3.8	11.1	3.6	4.6	1.6	1.1	11.8	100.0
公立	受給者	100.0		(32.6)	(46.4)	(52.2)	(60.2)	(63.8)	(68.9)	(75.4)	(79.0)	(87.0)	(89.2)	(92.8)	(93.5)	(94.2)	(100.0)	
	申請したが不採用	40.0	13.8	18.8	13.8	5.8	8.0	3.6	5.1	6.5	3.6	8.0	2.2	3.6	0.7	0.7	5.8	100.0
	希望するが申請しなかった	1.4	-	20.0	-	-	20.0	20.0	-	-	-	20.0	20.0	-	-	-	-	100.0
	必要ない	4.9	5.9	-	5.9	23.5	29.4	11.8	5.9	-	-	5.9	-	-	-	-	11.8	100.0
		53.6	7.6	4.9	7.6	4.3	10.3	8.6	5.9	7.0	4.9	16.2	3.2	4.3	1.6	1.1	12.4	100.0
私立	受給者	100.0		(21.8)	(32.6)	(40.1)	(46.3)	(53.9)	(59.0)	(65.0)	(69.5)	(78.6)	(81.6)	(85.6)	(87.4)	(89.1)	(100.0)	
	申請したが不採用	47.8	12.6	9.2	10.8	7.5	6.2	7.6	5.1	6.0	4.5	9.1	3.0	4.0	1.8	1.7	10.9	100.0
	希望するが申請しなかった	3.3	6.1	8.2	6.1	10.2	6.1	12.2	4.1	6.1	6.1	6.1	4.1	2.0	-	6.1	16.3	100.0
	必要ない	5.1	11.8	5.3	3.9	11.8	10.5	10.5	1.3	5.3	7.9	9.2	1.3	5.3	2.6	-	13.2	100.0
		43.8	4.0	4.6	7.7	7.1	8.5	7.6	7.1	7.9	5.4	9.7	2.0	3.4	2.5	2.0	20.4	100.0
平均	受給者	100.0		(33.5)	(42.4)	(49.2)	(55.1)	(61.4)	(67.0)	(71.8)	(76.8)	(83.8)	(85.8)	(88.7)	(90.4)	(91.3)	(100.0)	
	申請したが不採用	53.5	14.1	19.4	8.9	6.8	5.9	6.3	5.6	4.8	5.0	7.0	2.0	2.9	1.7	0.9	8.7	100.0
	希望するが申請しなかった	3.2	12.4	5.9	9.2	5.9	7.5	6.9	8.6	4.9	8.1	8.6	3.7	2.7	-	2.7	13.0	100.0
	必要ない	5.6	16.3	9.7	7.2	10.4	8.0	10.2	4.2	4.8	6.0	7.2	3.3	1.8	0.6	1.8	8.4	100.0
		37.7	8.1	5.3	7.9	7.5	8.6	7.6	6.9	7.8	4.4	11.1	3.1	4.2	1.8	1.4	14.4	100.0

(参考) n=3,866

(注) () は、奨学金受給者の割合の累計を示す。

「配偶者あり」と回答した者は集計に含まない。

上記区分「希望するが申請しなかった」は、日本学生支援機構貸与奨学金では「希望したが申請しなかった」、かつ、他の奨学金では「申請しなかった」と回答した者とした。

上記区分「必要ない」は、日本学生支援機構貸与奨学金では「貸与奨学金は必要なかった」、かつ、他の奨学金では「申請しなかった」と回答した者とした。

6-5表 設置者別・家庭の年間収入別奨学金の希望及び受給の状況（大学院専門職学位課程）

(単位：%)

区 分		希望及び受給の状況	家 庭 の 年 間 収 入														計		
			200万円未満	200～300	300～400	400～500	500～600	600～700	700～800	800～900	900～1,000	1,000～1,100	1,100～1,200	1,200～1,300	1,300～1,400	1,400～1,500		1,500万円以上	
国立	受給者	100.0		(22.1)	(32.2)	(40.3)	(46.0)	(57.4)	(65.8)	(75.9)	(81.3)	(87.3)	(90.7)	(94.7)	(96.0)	(97.3)	(100.0)		
	申請したが不採用	40.6	13.4	8.7	10.1	8.1	5.7	11.4	8.4	10.1	5.4	6.0	3.4	4.0	1.3	1.3	2.7	100.0	
	希望するが申請しなかった	1.5	9.1	18.2	-	-	27.3	18.2	9.1	9.1	-	-	-	-	-	-	-	9.1	100.0
	必要ない	7.6	10.7	8.9	10.7	5.4	8.9	5.4	8.9	7.1	5.4	8.9	3.6	7.1	7.1	-	1.8	100.0	
公立	受給者	50.3	5.7	2.7	5.4	7.3	8.9	5.4	5.1	7.3	6.5	11.1	6.2	4.6	3.5	2.7	17.3	100.0	
	受給者	100.0		(30.7)	(38.4)	(46.1)	(50.0)	(57.7)	(65.4)	(69.3)	(73.1)	(80.8)	(88.5)	(88.5)	(92.3)	(92.3)	(100.0)		
	申請したが不採用	41.3	19.2	11.5	7.7	7.7	3.9	7.7	7.7	3.9	3.8	7.7	7.7	-	3.8	-	7.7	100.0	
	希望するが申請しなかった	3.2	-	-	-	-	50.0	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0
私立	受給者	3.2	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-	-	-	-	-	-	100.0
	受給者	52.4	6.1	6.1	6.1	12.1	12.1	9.1	12.1	6.1	6.1	9.1	-	6.1	-	3.0	6.1	100.0	
	申請したが不採用	100.0		(18.9)	(29.5)	(39.3)	(46.2)	(56.0)	(65.8)	(73.8)	(77.4)	(82.5)	(85.4)	(88.7)	(91.6)	(93.1)	(100.0)		
	希望するが申請しなかった	41.5	11.6	7.3	10.6	9.8	6.9	9.8	9.8	8.0	3.6	5.1	2.9	3.3	2.9	1.5	6.9	100.0	
平均	受給者	2.0	23.1	-	7.7	7.7	15.4	-	7.7	7.7	7.7	23.1	-	-	-	-	-	-	100.0
	申請したが不採用	5.6	10.8	5.4	13.5	8.1	5.4	2.7	-	5.4	8.1	13.5	2.7	8.1	2.7	2.7	10.8	100.0	
	希望するが申請しなかった	51.0	6.2	3.3	8.0	8.0	10.7	8.0	8.3	10.4	3.8	6.2	3.8	3.6	2.1	2.1	15.7	100.0	
	必要ない	100.0		(20.7)	(30.9)	(39.9)	(46.2)	(56.6)	(65.7)	(74.4)	(78.8)	(84.4)	(87.7)	(91.2)	(93.5)	(94.9)	(100.0)		
平均	受給者	41.1	12.7	8.0	10.2	9.0	6.3	10.4	9.1	8.7	4.4	5.6	3.3	3.5	2.3	1.4	5.1	100.0	
	申請したが不採用	1.8	16.7	6.5	4.5	4.5	21.7	6.5	10.7	7.7	4.5	13.4	-	-	-	-	3.3	100.0	
	希望するが申請しなかった	6.4	10.6	8.0	11.8	6.6	7.1	4.0	4.6	6.2	6.6	11.7	3.1	7.5	5.0	1.3	6.0	100.0	
	必要ない	50.7	6.0	3.1	6.8	7.8	10.0	6.9	7.1	8.9	5.1	8.4	4.7	4.1	2.6	2.4	16.1	100.0	

(参考) n=1,460

(注) () は、奨学金受給者の割合の累計を示す。

「配偶者あり」と回答した者は集計に含まない。

上記区分「希望するが申請しなかった」は、日本学生支援機構貸与奨学金では「希望したが申請しなかった」、かつ、他の奨学金では「申請しなかった」と回答した者とした。

上記区分「必要ない」は、日本学生支援機構貸与奨学金では「貸与奨学金は必要なかった」、かつ、他の奨学金では「申請しなかった」と回答した者とした。

7表 設置者別・奨学金の種類別学生数の割合

(単位：%)

区分			奨 学 金 の 種 類			
			日本学生支援機構	その他の奨学金	両 方	計
大 学	昼 間 部	国 立	85.5	7.9	6.6	100.0
		公 立	87.3	7.4	5.2	100.0
		私 立	83.1	8.9	8.0	100.0
		平 均	83.8	8.6	7.6	100.0
	夜 間 部	国 立	89.2	5.6	5.2	100.0
		公 立	88.0	10.2	1.8	100.0
		私 立	84.3	9.0	6.7	100.0
		平 均	85.8	8.0	6.1	100.0
短 期 大 学	昼 間 部	国 立
		公 立	87.1	7.8	5.1	100.0
		私 立	75.5	14.8	9.7	100.0
		平 均	76.1	14.4	9.4	100.0
	夜 間 部	国 立
		公 立	60.0	20.0	20.0	100.0
		私 立	86.2	7.2	6.5	100.0
		平 均	82.4	9.1	8.5	100.0
大 学 院	修 士 課 程	国 立	83.4	9.2	7.4	100.0
		公 立	82.2	8.9	8.9	100.0
		私 立	59.2	24.9	15.9	100.0
		平 均	75.1	14.5	10.4	100.0
	博 士 課 程	国 立	39.6	48.2	12.2	100.0
		公 立	52.9	35.5	11.6	100.0
		私 立	35.4	49.1	15.6	100.0
		平 均	39.2	47.9	12.9	100.0
	専 門 職 学 位 課 程	国 立	73.1	18.0	9.0	100.0
		公 立	68.7	28.2	3.1	100.0
		私 立	31.9	47.6	20.5	100.0
		平 均	48.6	35.8	15.6	100.0

(参考) 大学昼間部：n=8,620 大学夜間部：n=542 短期大学昼間部：n=2,356 短期大学夜間部：n=138

大学院修士課程：n=3,218 大学院博士課程：n=2,359 大学院専門職学位課程：n=725

(注) 大学院については、「配偶者あり」と回答した者も集計に含む。

8-1表 居住形態別・地域別片道通学時間（大学昼間部）

（単位：％）

区 分			0～10分	11～20分	21～30分	31～60分	61～90分	91～120分	121分以上	計
国立	自宅	東京圏	1.2	2.5	3.7	31.0	36.0	20.7	5.0	100.0
		京阪神	0.4	4.7	4.3	24.9	32.2	25.3	8.2	100.0
		その他	4.1	11.5	12.9	33.2	21.4	13.0	3.9	100.0
		全 国	3.1	9.1	10.2	31.6	25.2	16.0	4.7	100.0
	学寮	東京圏	43.2	22.7	6.8	25.0	-	2.3	-	100.0
		京阪神	43.3	20.0	23.3	13.3	-	-	-	100.0
		その他	67.8	23.0	5.2	3.9	-	-	-	100.0
		全 国	61.8	22.7	7.2	7.9	-	0.3	-	100.0
	下宿、 アパート、 その他	東京圏	42.7	36.2	8.3	11.0	1.8	-	-	100.0
		京阪神	42.5	39.5	9.9	5.8	1.0	1.4	-	100.0
		その他	63.4	28.8	5.5	1.8	0.3	0.1	-	100.0
		全 国	59.6	30.5	6.1	3.0	0.5	0.2	-	100.0
公立	自宅	東京圏	1.4	-	4.1	34.2	37.0	19.9	3.4	100.0
		京阪神	1.8	6.2	9.1	23.4	26.6	26.6	6.2	100.0
		その他	3.0	9.3	11.5	31.0	24.3	14.7	6.3	100.0
		全 国	2.7	8.1	10.6	30.1	25.6	16.8	6.1	100.0
	学寮	東京圏	33.3	-	-	66.7	-	-	-	100.0
		京阪神	100.0	-	-	-	-	-	-	100.0
		その他	76.0	14.4	3.8	4.8	1.0	-	-	100.0
		全 国	77.5	12.5	3.3	5.8	0.8	-	-	100.0
	下宿、 アパート、 その他	東京圏	33.3	43.6	11.5	7.7	1.3	-	2.6	100.0
		京阪神	45.3	31.3	12.3	6.7	2.2	2.2	-	100.0
		その他	56.8	32.3	7.4	2.7	0.4	0.1	0.2	100.0
		全 国	55.1	32.6	7.9	3.1	0.6	0.3	0.3	100.0
私立	自宅	東京圏	0.6	2.3	5.2	30.8	33.1	21.0	7.0	100.0
		京阪神	1.9	3.9	8.3	29.0	30.2	22.1	4.6	100.0
		その他	2.4	7.7	12.3	32.8	25.5	14.8	4.5	100.0
		全 国	1.4	4.4	8.2	31.2	30.0	19.1	5.8	100.0
	学寮	東京圏	44.4	15.9	15.6	18.1	4.4	1.6	-	100.0
		京阪神	51.4	36.1	8.3	2.8	-	1.4	-	100.0
		その他	73.3	20.9	2.9	2.6	0.4	-	-	100.0
		全 国	57.1	20.2	9.5	10.0	2.3	0.9	-	100.0
	下宿、 アパート、 その他	東京圏	27.2	29.9	20.6	18.1	3.1	1.1	0.1	100.0
		京阪神	37.6	40.9	11.0	7.0	2.0	1.0	0.4	100.0
		その他	45.3	36.7	10.7	5.5	1.2	0.4	0.2	100.0
		全 国	36.0	34.3	15.2	11.4	2.2	0.8	0.2	100.0
平均	自宅	東京圏	0.6	2.3	5.2	30.9	33.2	21.0	6.9	100.0
		京阪神	1.8	4.1	8.0	28.5	30.2	22.5	5.0	100.0
		その他	2.8	8.4	12.4	32.7	24.7	14.5	4.6	100.0
		全 国	1.6	5.0	8.5	31.2	29.4	18.7	5.7	100.0
	学寮	東京圏	44.3	16.3	14.9	18.6	4.1	1.6	-	100.0
		京阪神	51.2	32.4	10.7	4.5	-	1.1	-	100.0
		その他	71.8	21.2	3.6	3.1	0.3	-	-	100.0
		全 国	58.5	20.4	9.0	9.5	1.8	0.8	-	100.0
	下宿、 アパート、 その他	東京圏	28.3	30.5	19.6	17.5	3.0	1.0	0.1	100.0
		京阪神	39.1	40.1	10.8	6.7	1.8	1.2	0.3	100.0
		その他	54.3	32.9	8.1	3.6	0.8	0.3	0.1	100.0
		全 国	44.2	33.1	12.1	8.4	1.6	0.6	0.1	100.0

(参考) n=20,048

(注) 「東京圏」とは、東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県をいう。

「京阪神」とは、京都府・大阪府・兵庫県をいう。

8-2表 居住形態別・地域別片道通学時間（短期大学昼間部）

（単位：％）

区 分			0～10分	11～20分	21～30分	31～60分	61～90分	91～120分	121分以上	計
国立	自宅	東京圏
		京阪神
		その他
		全 国
	学寮	東京圏
		京阪神
		その他
		全 国
	下宿、 アパート、 その他	東京圏
		京阪神
		その他
		全 国
公立	自宅	東京圏	11.5	6.6	4.9	31.1	23.0	21.3	1.6	100.0
		京阪神	-	-	-	-	-	-	-	-
		その他	3.3	11.8	12.8	34.1	22.0	11.9	4.1	100.0
		全 国	3.9	11.4	12.2	33.9	22.1	12.6	3.9	100.0
	学寮	東京圏	-	-	-	-	-	-	-	-
		京阪神	-	-	-	-	-	-	-	-
		その他	64.1	25.6	5.1	0.9	3.4	0.9	-	100.0
		全 国	64.1	25.6	5.1	0.9	3.4	0.9	-	100.0
	下宿、 アパート、 その他	東京圏	36.0	36.0	4.0	20.0	4.0	-	-	100.0
		京阪神	-	-	-	-	-	-	-	-
		その他	67.9	24.8	4.0	2.4	0.7	-	0.1	100.0
		全 国	66.8	25.2	4.0	3.0	0.8	-	0.1	100.0
私立	自宅	東京圏	0.3	3.3	7.2	37.9	34.1	12.5	4.6	100.0
		京阪神	2.1	7.3	13.4	34.0	26.4	14.7	2.1	100.0
		その他	2.7	11.6	14.7	36.1	24.1	8.8	2.0	100.0
		全 国	2.0	8.8	12.6	36.2	27.0	10.7	2.7	100.0
	学寮	東京圏	38.2	11.8	26.5	23.5	-	-	-	100.0
		京阪神	85.7	3.6	3.6	7.1	-	-	-	100.0
		その他	80.0	14.8	3.0	2.2	-	-	-	100.0
		全 国	73.6	12.7	7.1	6.6	-	-	-	100.0
	下宿、 アパート、 その他	東京圏	17.6	25.2	21.8	25.2	5.9	3.4	0.8	100.0
		京阪神	34.7	36.1	16.7	11.1	1.4	-	-	100.0
		その他	40.9	32.8	14.9	7.3	3.5	0.5	-	100.0
		全 国	35.2	31.6	16.6	11.6	3.8	1.1	0.2	100.0
平均	自宅	東京圏	0.4	3.3	7.2	37.8	34.0	12.6	4.6	100.0
		京阪神	2.1	7.3	13.4	34.0	26.4	14.7	2.1	100.0
		その他	2.8	11.6	14.6	36.0	24.0	9.0	2.1	100.0
		全 国	2.1	8.9	12.5	36.1	26.8	10.8	2.7	100.0
	学寮	東京圏	38.2	11.8	26.5	23.5	-	-	-	100.0
		京阪神	85.7	3.6	3.6	7.1	-	-	-	100.0
		その他	78.8	15.7	3.1	2.1	0.3	0.1	-	100.0
		全 国	73.1	13.4	7.0	6.3	0.2	0.0	-	100.0
	下宿、 アパート、 その他	東京圏	18.0	25.4	21.5	25.1	5.8	3.3	0.8	100.0
		京阪神	34.7	36.1	16.7	11.1	1.4	-	-	100.0
		その他	45.3	31.5	13.1	6.5	3.1	0.5	0.0	100.0
		全 国	38.9	30.9	15.1	10.6	3.4	0.9	0.2	100.0

（参考）n=4,864

（注）「東京圏」とは、東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県をいう。

「京阪神」とは、京都府・大阪府・兵庫県をいう。

8-3表 居住形態別・地域別片道通学時間（大学院修士課程）

（単位：％）

区 分		0～10分	11～20分	21～30分	31～60分	61～90分	91～120分	121分以上	計	
国立	自宅	東京圏	3.6	4.7	8.0	30.3	33.2	15.7	4.4	100.0
		京阪神	4.2	3.7	8.4	21.0	29.0	23.8	9.8	100.0
		その他	2.6	10.4	19.1	34.6	19.1	9.7	4.3	100.0
		全 国	3.2	7.6	14.1	30.8	24.7	14.1	5.5	100.0
	学寮	東京圏	36.4	9.1	31.8	18.2	4.5	-	-	100.0
		京阪神	41.7	25.0	16.7	16.7	-	-	-	100.0
		その他	79.3	13.4	2.4	4.9	-	-	-	100.0
		全 国	67.2	13.8	9.5	8.6	0.9	-	-	100.0
	下宿、 アパート、 その他	東京圏	31.7	31.3	17.8	11.6	6.9	0.8	-	100.0
		京阪神	38.3	43.0	10.6	4.9	2.5	0.5	0.2	100.0
		その他	49.4	38.7	7.7	3.2	0.7	0.2	0.2	100.0
		全 国	44.8	38.6	9.6	4.7	1.9	0.4	0.2	100.0
公立	自宅	東京圏	1.4	6.8	6.8	36.5	25.7	20.3	2.7	100.0
		京阪神	2.0	7.3	8.3	24.3	31.2	19.9	7.0	100.0
		その他	4.1	11.9	16.9	31.5	20.2	10.6	4.8	100.0
		全 国	3.1	9.8	12.9	29.3	24.6	14.8	5.4	100.0
	学寮	東京圏	-	-	-	-	-	-	-	-
		京阪神	88.2	11.8	-	-	-	-	-	100.0
		その他	83.3	11.1	-	5.6	-	-	-	100.0
		全 国	86.5	11.5	-	1.9	-	-	-	100.0
	下宿、 アパート、 その他	東京圏	27.3	24.2	21.2	15.2	3.0	3.0	6.1	100.0
		京阪神	48.4	32.9	6.8	8.1	1.9	1.2	0.6	100.0
		その他	42.5	35.6	12.5	6.9	1.3	1.1	0.2	100.0
		全 国	43.2	34.3	11.6	7.6	1.5	1.2	0.6	100.0
私立	自宅	東京圏	1.3	2.6	6.8	36.3	29.1	16.6	7.4	100.0
		京阪神	1.8	4.0	5.3	33.2	24.3	25.7	5.8	100.0
		その他	2.7	8.3	15.3	31.5	22.0	12.6	7.5	100.0
		全 国	1.6	4.0	8.4	34.9	27.0	16.9	7.2	100.0
	学寮	東京圏	43.8	18.8	6.3	31.3	-	-	-	100.0
		京阪神	-	50.0	-	-	50.0	-	-	100.0
		その他	53.8	23.1	15.4	7.7	-	-	-	100.0
		全 国	44.7	21.3	8.5	23.4	2.1	-	-	100.0
	下宿、 アパート、 その他	東京圏	24.3	28.0	21.6	19.2	5.1	1.7	0.2	100.0
		京阪神	35.3	36.1	12.6	10.1	5.0	-	0.8	100.0
		その他	35.0	37.7	14.6	9.2	2.3	-	1.2	100.0
		全 国	28.5	31.6	18.6	15.4	4.3	1.0	0.5	100.0
平均	自宅	東京圏	1.9	3.2	7.1	34.7	30.1	16.4	6.5	100.0
		京阪神	3.0	4.4	7.3	25.8	27.7	23.9	8.0	100.0
		その他	2.8	10.0	17.9	33.4	20.0	10.6	5.2	100.0
		全 国	2.4	6.0	11.3	32.6	25.8	15.5	6.3	100.0
	学寮	東京圏	40.0	13.9	19.2	24.6	2.3	-	-	100.0
		京阪神	55.9	21.8	9.6	9.6	3.2	-	-	100.0
		その他	77.1	14.2	3.5	5.2	-	-	-	100.0
		全 国	64.2	15.1	8.6	11.0	1.0	-	-	100.0
	下宿、 アパート、 その他	東京圏	27.2	29.2	20.1	16.2	5.8	1.3	0.2	100.0
		京阪神	38.5	41.2	10.7	5.9	2.8	0.5	0.4	100.0
		その他	47.3	38.4	8.8	4.1	0.9	0.3	0.3	100.0
		全 国	40.9	36.7	11.8	7.3	2.4	0.6	0.3	100.0

（参考）n=7,480

（注）「東京圏」とは、東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県をいう。

「京阪神」とは、京都府・大阪府・兵庫県をいう。

「配偶者あり」と回答した者も集計に含む。

8-4表 居住形態別・地域別片道通学時間（大学院博士課程）

（単位：％）

区 分		0～10分	11～20分	21～30分	31～60分	61～90分	91～120分	121分以上	計	
国立	自宅	東京圏	4.3	8.4	9.2	36.3	28.0	9.2	4.6	100.0
		京阪神	6.5	16.3	16.9	21.5	17.8	9.2	11.7	100.0
		その他	11.3	22.5	17.1	19.5	8.1	5.7	15.8	100.0
		全 国	8.9	18.3	15.4	23.5	14.2	7.1	12.6	100.0
	学寮	東京圏	25.0	10.0	20.0	45.0	-	-	-	100.0
		京阪神	46.7	13.3	13.3	26.7	-	-	-	100.0
		その他	69.8	15.9	4.8	1.6	3.2	3.2	1.6	100.0
		全 国	57.1	14.3	9.2	14.3	2.0	2.0	1.0	100.0
	下宿、 アパート、 その他	東京圏	25.8	31.7	16.3	15.7	5.2	3.7	1.5	100.0
		京阪神	30.0	44.1	11.1	9.6	2.8	1.3	1.3	100.0
		その他	36.3	41.8	12.8	5.2	1.6	0.4	2.0	100.0
		全 国	32.7	40.3	13.1	8.3	2.6	1.3	1.7	100.0
公立	自宅	東京圏	-	8.6	6.9	34.5	22.4	15.5	12.1	100.0
		京阪神	3.4	25.2	14.3	21.8	11.6	15.0	8.8	100.0
		その他	13.1	23.2	13.4	25.8	9.7	8.1	6.7	100.0
		全 国	8.7	22.1	12.9	25.6	11.7	10.9	8.0	100.0
	学寮	東京圏	-	-	-	100.0	-	-	-	100.0
		京阪神	100.0	-	-	-	-	-	-	100.0
		その他	-	100.0	-	-	-	-	-	100.0
		全 国	80.0	10.0	-	10.0	-	-	-	100.0
	下宿、 アパート、 その他	東京圏	14.3	23.8	33.3	23.8	4.8	-	-	100.0
		京阪神	34.4	42.6	8.2	11.5	3.3	-	-	100.0
		その他	32.5	34.3	13.3	9.6	2.4	1.2	6.6	100.0
		全 国	31.5	35.5	13.7	11.3	2.8	0.8	4.4	100.0
私立	自宅	東京圏	4.1	7.6	10.2	35.7	22.7	12.3	7.3	100.0
		京阪神	2.1	6.2	7.2	30.9	27.8	11.9	13.9	100.0
		その他	9.3	19.8	16.2	21.6	13.2	8.4	11.7	100.0
		全 国	4.9	10.0	11.1	32.1	21.3	11.4	9.1	100.0
	学寮	東京圏	65.0	5.0	5.0	15.0	10.0	-	-	100.0
		京阪神	-	33.3	33.3	33.3	-	-	-	100.0
		その他	84.6	7.7	7.7	-	-	-	-	100.0
		全 国	66.7	8.3	8.3	11.1	5.6	-	-	100.0
	下宿、 アパート、 その他	東京圏	17.0	26.8	17.7	26.0	7.8	2.2	2.5	100.0
		京阪神	24.0	30.6	15.7	20.7	6.6	0.8	1.7	100.0
		その他	29.9	31.1	18.0	13.1	2.9	1.6	3.3	100.0
		全 国	21.4	28.4	17.5	21.9	6.3	1.9	2.6	100.0
平均	自宅	東京圏	4.1	7.9	9.7	35.9	24.7	11.2	6.4	100.0
		京阪神	5.2	15.4	14.6	23.4	19.0	10.5	11.8	100.0
		その他	11.2	22.2	16.6	20.4	8.9	6.3	14.4	100.0
		全 国	7.7	16.1	13.9	26.2	16.1	8.7	11.2	100.0
	学寮	東京圏	37.8	8.2	14.8	35.9	3.3	-	-	100.0
		京阪神	52.4	12.5	12.5	22.5	-	-	-	100.0
		その他	70.8	15.6	5.0	1.4	2.9	2.9	1.4	100.0
		全 国	59.4	13.2	8.7	13.7	2.5	1.7	0.8	100.0
	下宿、 アパート、 その他	東京圏	21.7	29.3	17.2	20.5	6.4	2.9	2.0	100.0
		京阪神	29.5	42.3	11.5	11.1	3.3	1.1	1.2	100.0
		その他	35.3	40.2	13.4	6.3	1.8	0.6	2.4	100.0
		全 国	30.3	37.7	14.0	11.2	3.4	1.4	2.0	100.0

（参考）n=6,703

（注）「東京圏」とは、東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県をいう。

「京阪神」とは、京都府・大阪府・兵庫県をいう。

「配偶者あり」と回答した者も集計に含む。

8-5表 居住形態別・地域別片道通学時間（大学院専門職学位課程）

（単位：％）

区 分		0～10分	11～20分	21～30分	31～60分	61～90分	91～120分	121分以上	計	
国立	自宅	東京圏	2.3	2.3	5.7	47.7	26.1	12.5	3.4	100.0
		京阪神	1.4	5.1	8.7	29.0	29.0	18.8	8.0	100.0
		その他	3.3	14.2	16.3	32.8	18.8	9.2	5.3	100.0
		全 国	2.7	10.5	13.1	34.1	22.1	11.8	5.7	100.0
	学寮	東京圏	80.0	-	20.0	-	-	-	-	100.0
		京阪神	100.0	-	-	-	-	-	-	100.0
		その他	78.7	14.9	4.3	2.1	-	-	-	100.0
		全 国	82.8	10.9	4.7	1.6	-	-	-	100.0
	下宿、 アパート、 その他	東京圏	35.7	37.5	8.9	14.3	3.6	-	-	100.0
		京阪神	56.3	27.5	7.5	6.3	1.9	-	0.6	100.0
		その他	51.9	29.0	6.9	5.6	3.0	1.7	1.7	100.0
		全 国	51.5	29.5	7.4	6.9	2.7	0.9	1.1	100.0
公立	自宅	東京圏	-	8.3	-	43.8	35.4	6.3	6.3	100.0
		京阪神	-	7.1	-	21.4	32.1	28.6	10.7	100.0
		その他	3.2	16.1	38.7	19.4	6.5	6.5	9.7	100.0
		全 国	0.9	10.3	11.2	30.8	26.2	12.1	8.4	100.0
	学寮	東京圏	-	-	-	-	-	-	-	-
		京阪神	100.0	-	-	-	-	-	-	100.0
		その他	100.0	-	-	-	-	-	-	100.0
		全 国	100.0	-	-	-	-	-	-	100.0
	下宿、 アパート、 その他	東京圏	7.1	21.4	7.1	57.1	7.1	-	-	100.0
		京阪神	14.3	-	14.3	42.9	14.3	14.3	-	100.0
		その他	16.7	33.3	33.3	16.7	-	-	-	100.0
		全 国	11.1	18.5	14.8	44.4	7.4	3.7	-	100.0
私立	自宅	東京圏	0.2	2.1	8.8	46.8	26.1	11.1	4.9	100.0
		京阪神	1.6	2.2	8.7	45.9	21.9	13.1	6.6	100.0
		その他	4.1	11.1	24.0	33.9	13.5	9.4	4.1	100.0
		全 国	1.3	3.9	11.9	44.0	22.6	11.2	5.1	100.0
	学寮	東京圏	65.2	8.7	4.3	17.4	4.3	-	-	100.0
		京阪神	50.0	-	50.0	-	-	-	-	100.0
		その他	-	-	-	-	-	-	-	-
		全 国	64.0	8.0	8.0	16.0	4.0	-	-	100.0
	下宿、 アパート、 その他	東京圏	12.0	10.0	21.5	42.5	12.0	1.5	0.5	100.0
		京阪神	39.2	21.6	20.3	9.5	4.1	4.1	1.4	100.0
		その他	33.3	40.0	15.0	8.3	1.7	-	1.7	100.0
		全 国	21.9	18.0	20.1	29.0	8.4	1.8	0.9	100.0
平均	自宅	東京圏	0.4	2.4	8.0	46.8	26.6	11.0	4.8	100.0
		京阪神	1.5	3.4	8.2	38.8	24.9	16.0	7.3	100.0
		その他	3.6	13.2	20.0	32.6	16.4	9.1	5.1	100.0
		全 国	1.8	6.4	12.3	40.0	22.6	11.4	5.5	100.0
	学寮	東京圏	67.2	7.5	6.5	15.0	3.8	-	-	100.0
		京阪神	91.2	-	8.8	-	-	-	-	100.0
		その他	79.9	14.1	4.0	2.0	-	-	-	100.0
		全 国	77.1	9.6	5.6	6.4	1.3	-	-	100.0
	下宿、 アパート、 その他	東京圏	15.7	14.9	18.9	38.4	10.4	1.2	0.4	100.0
		京阪神	48.8	24.6	12.5	8.3	3.0	1.9	0.9	100.0
		その他	46.6	31.9	9.5	6.5	2.6	1.3	1.7	100.0
		全 国	35.8	23.5	13.8	18.8	5.6	1.4	1.0	100.0

(参考) n=2,468

(注) 「東京圏」とは、東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県をいう。

「京阪神」とは、京都府・大阪府・兵庫県をいう。

「配偶者あり」と回答した者も集計に含む。

9-1表 設置者別・週間平均生活時間（大学昼間部）

（単位：％）

区分		0時間	1～5	6～10	11～15	16～20	21～25	26～30	31時間以上	無回答	計
大学の授業	国立	10.5	15.7	10.1	12.7	19.4	18.0	7.8	5.5	0.3	100.0
	公立	6.0	13.8	11.6	14.1	20.7	17.9	8.6	6.6	0.6	100.0
	私立	2.4	13.7	11.9	16.5	23.3	17.9	7.6	6.0	0.6	100.0
	平均	3.9	14.1	11.6	15.7	22.5	17.9	7.7	6.0	0.6	100.0
大学の授業 の予習・復習 など	国立	18.7	47.4	19.9	7.8	3.0	1.2	0.5	0.9	0.6	100.0
	公立	17.8	51.8	17.9	6.5	2.5	1.0	0.7	1.0	0.8	100.0
	私立	17.2	55.6	15.9	6.1	2.1	1.1	0.6	0.8	0.6	100.0
	平均	17.5	54.0	16.6	6.4	2.3	1.1	0.6	0.9	0.6	100.0
卒業論文・ 卒業研究	国立	65.7	6.5	4.8	4.4	3.3	2.9	2.5	9.7	0.4	100.0
	公立	71.2	10.1	5.3	3.2	2.3	1.8	1.2	4.4	0.5	100.0
	私立	71.9	13.0	5.2	2.9	1.9	1.3	0.7	2.4	0.7	100.0
	平均	70.8	11.8	5.1	3.2	2.2	1.6	1.0	3.7	0.6	100.0
大学の授業 以外の学習	国立	40.5	37.3	11.0	4.5	2.4	0.9	0.7	2.1	0.7	100.0
	公立	44.0	36.7	9.1	3.9	2.1	1.1	0.6	1.7	0.8	100.0
	私立	43.8	37.8	9.5	3.7	1.6	0.9	0.6	1.4	0.8	100.0
	平均	43.2	37.7	9.8	3.8	1.7	0.9	0.6	1.5	0.8	100.0
部活動・ サークル活動	国立	40.1	26.6	17.7	8.7	3.7	1.2	0.6	0.9	0.3	100.0
	公立	45.5	33.1	13.4	4.5	1.5	0.7	0.2	0.7	0.4	100.0
	私立	49.9	25.8	10.8	5.2	3.3	2.0	0.9	1.5	0.5	100.0
	平均	48.0	26.3	12.1	5.8	3.3	1.8	0.9	1.4	0.5	100.0
アルバイト・ 定職	国立	22.7	13.4	20.4	20.1	13.3	5.7	2.2	1.8	0.3	100.0
	公立	18.8	8.9	16.7	21.0	18.9	8.6	3.3	3.2	0.6	100.0
	私立	21.6	10.1	16.3	20.7	17.5	7.8	2.6	2.9	0.5	100.0
	平均	21.7	10.6	17.0	20.6	16.8	7.5	2.6	2.7	0.4	100.0
就職活動	国立	88.8	7.6	1.6	0.9	0.3	0.2	0.1	0.0	0.5	100.0
	公立	83.4	11.9	2.4	0.8	0.5	0.2	0.1	0.1	0.6	100.0
	私立	80.9	12.8	3.2	1.3	0.6	0.2	0.2	0.3	0.6	100.0
	平均	82.3	11.9	2.9	1.2	0.5	0.2	0.2	0.2	0.6	100.0
娯楽・交友	国立	1.8	25.4	28.9	18.8	10.0	5.3	2.2	7.0	0.5	100.0
	公立	1.8	27.0	29.0	17.6	10.2	5.3	2.3	5.9	0.9	100.0
	私立	2.5	28.5	28.7	17.5	9.2	4.7	1.9	6.3	0.7	100.0
	平均	2.3	27.9	28.8	17.7	9.4	4.8	2.0	6.4	0.7	100.0

(参考) n=20,086

9-2表 設置者別・週間平均生活時間（短期大学昼間部）

（単位：％）

区分		0時間	1～5	6～10	11～15	16～20	21～25	26～30	31時間以上	無回答	計
大学の授業	国立
	公立	0.1	9.7	17.3	16.6	21.9	16.7	9.2	7.4	1.2	100.0
	私立	0.0	5.9	14.8	14.7	16.9	16.3	15.9	13.8	1.6	100.0
	平均	0.0	6.1	14.9	14.8	17.2	16.3	15.6	13.5	1.6	100.0
大学の授業 の予習・復習 など	国立
	公立	14.6	64.2	14.0	3.9	1.6	0.6	0.3	0.2	0.6	100.0
	私立	19.5	60.8	12.0	4.0	1.5	0.9	0.2	0.3	0.9	100.0
	平均	19.3	60.9	12.1	4.0	1.5	0.9	0.2	0.3	0.9	100.0
卒業論文・ 卒業研究	国立
	公立	57.0	26.8	8.5	3.4	1.2	0.7	0.3	1.3	0.8	100.0
	私立	70.2	21.6	4.3	1.4	0.5	0.4	0.2	0.2	1.2	100.0
	平均	69.5	21.9	4.5	1.5	0.5	0.4	0.2	0.2	1.2	100.0
大学の授業 以外の学習	国立
	公立	47.4	39.5	7.7	2.5	0.9	0.3	0.3	0.4	1.1	100.0
	私立	55.0	34.6	5.9	1.6	0.8	0.3	0.1	0.3	1.4	100.0
	平均	54.6	34.8	6.0	1.6	0.8	0.3	0.1	0.3	1.3	100.0
部活動・ サークル活動	国立
	公立	62.5	29.7	5.5	1.0	0.3	0.3	-	-	0.6	100.0
	私立	75.9	17.1	3.7	1.4	0.9	0.3	0.1	0.2	0.5	100.0
	平均	75.3	17.8	3.8	1.3	0.9	0.3	0.1	0.1	0.5	100.0
アルバイト・ 定職	国立
	公立	25.7	9.4	19.2	19.9	15.7	6.0	1.7	1.8	0.5	100.0
	私立	23.6	10.7	14.9	19.2	16.4	7.8	3.3	3.4	0.8	100.0
	平均	23.8	10.6	15.1	19.2	16.3	7.7	3.2	3.3	0.8	100.0
就職活動	国立
	公立	80.4	15.8	1.7	0.9	0.1	0.1	0.1	0.2	0.8	100.0
	私立	70.2	22.5	4.1	1.2	0.5	0.2	0.1	0.2	1.0	100.0
	平均	70.7	22.2	3.9	1.2	0.5	0.2	0.1	0.2	1.0	100.0
娯楽・交友	国立
	公立	3.6	33.4	27.4	15.5	7.7	3.9	2.2	5.4	0.8	100.0
	私立	4.0	31.6	29.0	15.7	8.1	3.8	2.1	4.6	1.1	100.0
	平均	4.0	31.7	28.9	15.7	8.1	3.8	2.1	4.6	1.1	100.0

（参考）n=4,918

9-3表 設置者別・週間平均生活時間（大学院修士課程）

(単位：%)

区分		0時間	1～5	6～10	11～15	16～20	21～25	26～30	31時間以上	無回答	計
大学内での 授業、研究、 実習、実験	国立	0.6	5.4	9.4	7.2	6.1	7.7	8.8	54.6	0.3	100.0
	公立	0.5	9.2	13.8	9.0	6.3	8.8	7.9	43.9	0.7	100.0
	私立	0.7	9.4	15.5	12.6	9.3	8.3	7.1	36.6	0.4	100.0
	平均	0.6	7.0	11.8	9.2	7.2	8.0	8.2	47.7	0.3	100.0
大学外での 学習、研究	国立	28.7	31.9	16.5	7.2	5.4	3.0	1.5	4.5	1.3	100.0
	公立	25.0	31.0	18.3	9.2	5.1	3.1	2.2	4.8	1.2	100.0
	私立	16.7	29.7	20.0	11.5	7.9	4.5	2.1	6.4	1.2	100.0
	平均	24.3	31.1	17.8	8.8	6.2	3.5	1.8	5.2	1.2	100.0
ティーチング アシスタント (TA)	国立	61.9	30.8	4.4	0.9	0.2	0.1	0.0	0.2	1.4	100.0
	公立	64.4	26.2	4.2	1.4	0.3	0.3	-	0.1	3.1	100.0
	私立	51.0	31.7	10.6	2.0	0.8	0.4	0.1	0.2	3.2	100.0
	平均	58.3	30.8	6.6	1.3	0.4	0.2	0.1	0.2	2.2	100.0
リサーチアシ スタント (RA)	国立	93.6	2.0	1.3	0.6	0.3	0.1	0.1	0.1	1.9	100.0
	公立	92.4	2.1	1.0	0.7	0.1	0.1	-	0.1	3.4	100.0
	私立	91.4	2.3	1.1	0.5	0.4	0.1	0.1	0.0	4.0	100.0
	平均	92.8	2.1	1.2	0.6	0.4	0.1	0.1	0.1	2.8	100.0
アルバイト・ 定職(TA・ RAを除く)	国立	37.8	13.9	17.7	13.1	7.9	3.0	0.8	4.9	1.0	100.0
	公立	28.7	11.3	16.7	13.9	9.2	4.1	1.9	12.8	1.5	100.0
	私立	34.6	10.8	16.4	12.1	7.9	3.3	1.6	11.4	1.9	100.0
	平均	36.1	12.7	17.2	12.8	8.0	3.1	1.1	7.7	1.3	100.0
就職活動	国立	63.9	22.7	7.8	2.1	1.0	0.3	0.0	0.3	1.8	100.0
	公立	67.9	20.1	5.6	1.5	0.6	0.6	0.1	0.5	3.2	100.0
	私立	65.1	21.1	6.0	2.6	0.9	0.5	0.2	0.4	3.2	100.0
	平均	64.6	22.0	7.0	2.2	1.0	0.4	0.1	0.3	2.4	100.0
娯楽・交友	国立	2.6	24.7	26.4	17.9	10.0	6.4	2.5	7.8	1.7	100.0
	公立	3.7	30.7	27.8	16.0	7.1	4.0	2.1	6.1	2.5	100.0
	私立	3.9	33.3	27.8	15.6	7.7	3.2	2.0	4.1	2.5	100.0
	平均	3.1	28.1	27.0	17.0	9.0	5.1	2.3	6.4	2.0	100.0

(参考) n=7,488

(注)「配偶者あり」と回答した者も集計に含む。

9-4表 設置者別・週間平均生活時間（大学院博士課程）

(単位：%)

区分		0時間	1～5	6～10	11～15	16～20	21～25	26～30	31時間以上	無回答	計
大学内での 授業、研究、 実習、実験	国立	7.3	14.1	8.7	5.1	5.2	4.9	5.6	48.6	0.6	100.0
	公立	6.6	25.2	13.4	6.6	4.5	7.2	5.9	28.6	2.1	100.0
	私立	5.6	24.0	13.4	7.6	6.5	5.0	4.5	32.7	0.7	100.0
	平均	6.8	17.3	10.2	5.8	5.5	5.1	5.3	43.2	0.8	100.0
大学外での 学習、研究	国立	26.4	26.0	14.7	8.4	5.5	3.6	2.3	10.8	2.4	100.0
	公立	26.0	24.5	15.5	7.7	7.9	3.0	3.4	7.9	4.1	100.0
	私立	21.6	24.0	16.3	10.6	8.0	4.6	2.7	9.9	2.2	100.0
	平均	25.1	25.4	15.2	8.9	6.3	3.8	2.4	10.4	2.5	100.0
ティーチング アシスタント (TA)	国立	69.9	18.8	4.8	1.3	0.5	0.2	0.2	0.1	4.1	100.0
	公立	78.2	13.3	2.2	0.4	0.3	0.1	0.1	0.1	5.2	100.0
	私立	66.9	17.5	7.1	2.2	0.8	0.3	0.1	0.6	4.5	100.0
	平均	69.7	18.1	5.2	1.5	0.6	0.2	0.2	0.2	4.3	100.0
リサーチアシ スタント (RA)	国立	70.0	10.1	7.0	3.4	2.7	1.1	0.6	1.0	3.9	100.0
	公立	81.6	7.9	1.8	1.3	0.4	0.3	0.4	0.8	5.5	100.0
	私立	78.4	6.0	3.9	2.1	1.9	0.7	0.3	1.1	5.6	100.0
	平均	72.9	8.9	5.9	3.0	2.3	0.9	0.5	1.0	4.5	100.0
アルバイト・ 定職(TA・ RAを除く)	国立	41.0	7.0	8.5	7.8	5.9	3.6	2.6	21.4	2.1	100.0
	公立	21.8	4.2	7.5	6.2	9.2	4.3	2.9	41.1	2.9	100.0
	私立	28.9	6.6	12.2	8.8	6.6	4.2	2.7	27.6	2.5	100.0
	平均	36.7	6.7	9.4	8.0	6.3	3.8	2.7	24.3	2.3	100.0
就職活動	国立	86.5	7.1	1.5	0.5	0.1	0.1	0.1	0.1	4.1	100.0
	公立	89.0	3.4	1.0	0.1	-	-	0.1	0.7	5.6	100.0
	私立	89.0	4.3	0.8	0.4	0.1	-	0.0	0.3	5.0	100.0
	平均	87.3	6.1	1.3	0.4	0.1	0.1	0.1	0.2	4.4	100.0
娯楽・交友	国立	7.7	30.9	26.6	15.0	7.2	3.7	1.7	3.4	3.8	100.0
	公立	8.4	37.0	23.2	12.1	6.8	2.2	1.6	3.3	5.4	100.0
	私立	7.7	35.9	25.7	12.9	6.4	2.7	1.5	2.7	4.4	100.0
	平均	7.7	32.6	26.2	14.3	7.0	3.3	1.7	3.2	4.1	100.0

(参考) n=6,720

(注)「配偶者あり」と回答した者も集計に含む。

9-5表 設置者別・週間平均生活時間（大学院専門職学位課程）

(単位：%)

区分		0時間	1～5	6～10	11～15	16～20	21～25	26～30	31時間以上	無回答	計
大学内での 授業、研究、 実習、実験	国立	1.6	9.5	15.2	23.3	13.9	7.6	5.2	23.2	0.5	100.0
	公立	-	8.0	45.7	25.4	8.7	1.4	0.7	10.1	-	100.0
	私立	0.2	20.4	25.8	22.0	11.2	5.3	2.6	12.3	0.2	100.0
	平均	0.7	15.6	22.5	22.7	12.1	6.0	3.5	16.4	0.3	100.0
大学外での 学習、研究	国立	11.4	19.4	17.7	13.5	9.2	7.4	3.3	16.0	2.1	100.0
	公立	3.6	23.9	30.4	14.5	10.1	4.3	2.9	7.2	2.9	100.0
	私立	7.4	21.3	21.5	15.6	9.5	5.0	4.4	13.7	1.7	100.0
	平均	8.8	20.7	20.4	14.8	9.4	5.9	3.9	14.3	1.9	100.0
ティーチング アシスタント (TA)	国立	84.7	7.2	1.9	0.8	0.3	-	-	-	5.2	100.0
	公立	88.4	0.7	0.7	0.7	-	-	-	-	9.4	100.0
	私立	88.3	3.6	0.8	-	0.1	-	-	-	7.2	100.0
	平均	86.9	4.8	1.2	0.3	0.2	-	-	-	6.5	100.0
リサーチアシ スタント (RA)	国立	92.8	1.1	0.4	0.3	0.1	-	-	-	5.3	100.0
	公立	88.4	1.4	-	0.7	-	-	-	-	9.4	100.0
	私立	90.2	2.2	0.3	0.2	0.1	0.1	-	-	7.0	100.0
	平均	91.2	1.7	0.3	0.2	0.1	0.0	-	-	6.4	100.0
アルバイト・ 定職(TA・ RAを除く)	国立	51.9	9.9	7.7	6.3	4.6	2.0	1.1	12.9	3.7	100.0
	公立	32.6	1.4	3.6	2.2	1.4	-	1.4	52.9	4.3	100.0
	私立	38.0	6.2	7.5	3.9	3.1	1.5	0.8	35.3	3.6	100.0
	平均	43.2	7.4	7.4	4.7	3.6	1.6	0.9	27.4	3.7	100.0
就職活動	国立	86.0	6.1	1.7	0.8	0.2	0.2	-	0.2	4.9	100.0
	公立	81.2	5.8	0.7	1.4	0.7	0.7	-	-	9.4	100.0
	私立	85.4	4.8	1.6	0.4	0.4	0.1	-	0.4	6.9	100.0
	平均	85.5	5.3	1.6	0.6	0.3	0.1	-	0.3	6.2	100.0
娯楽・交友	国立	7.9	33.0	26.5	12.9	7.2	4.2	1.5	3.3	3.5	100.0
	公立	9.4	41.3	19.6	13.8	5.1	1.4	-	2.2	7.2	100.0
	私立	7.5	38.2	26.2	13.5	4.9	2.1	0.8	2.5	4.3	100.0
	平均	7.7	36.3	26.1	13.3	5.8	2.9	1.1	2.8	4.1	100.0

(参考) n=2,478

(注)「配偶者あり」と回答した者も集計に含む。

10-1表 設置者別・大学の学生支援体制への満足度（大学昼間部）

(単位：%)

区分		利用したことがある				利用したことがない	無回答	計
		不満	やや不満	やや満足	満足			
図書館・自習室などの学習支援施設	国立	3.1	12.3	44.8	37.7	2.1	0.0	100.0
	公立	3.8	15.2	44.3	34.6	1.9	0.1	100.0
	私立	2.6	10.7	41.2	40.3	5.1	0.1	100.0
	平均	2.8	11.2	42.0	39.6	4.4	0.1	100.0
キャリアセンターなどでの就職・進路への支援	国立	2.5	7.9	19.4	8.8	61.4	0.0	100.0
	公立	2.7	8.8	25.6	11.2	51.6	0.2	100.0
	私立	2.5	7.5	26.9	16.7	46.3	0.1	100.0
	平均	2.5	7.6	25.6	15.1	49.1	0.1	100.0
学習・生活面でのカウンセリング	国立	2.1	6.2	16.8	6.7	68.1	0.1	100.0
	公立	2.2	7.2	19.8	8.5	62.0	0.2	100.0
	私立	2.2	7.1	21.5	11.2	57.9	0.1	100.0
	平均	2.2	7.0	20.6	10.3	59.8	0.1	100.0
奨学金等の経済的支援に関する情報提供	国立	3.1	12.2	28.6	11.3	44.7	0.1	100.0
	公立	2.9	12.4	30.6	14.0	39.8	0.2	100.0
	私立	2.8	9.5	27.8	17.7	42.2	0.1	100.0
	平均	2.8	10.1	28.1	16.4	42.5	0.1	100.0

(参考) n=20,086

10-2表 設置者別・大学の学生支援体制への満足度（短期大学昼間部）

(単位：%)

区分		利用したことがある				利用したことがない	無回答	計
		不満	やや不満	やや満足	満足			
図書館・自習室などの学習支援施設	国立
	公立	2.5	10.6	38.4	43.3	5.1	0.2	100.0
	私立	1.5	6.8	36.8	45.4	9.4	0.1	100.0
	平均	1.6	7.0	36.9	45.3	9.2	0.1	100.0
キャリアセンターなどでの就職・進路への支援	国立
	公立	2.4	10.0	37.0	23.0	27.5	0.1	100.0
	私立	1.3	4.9	29.9	34.4	29.3	0.2	100.0
	平均	1.4	5.2	30.3	33.8	29.2	0.2	100.0
学習・生活面でのカウンセリング	国立
	公立	2.0	6.6	25.5	12.5	53.2	0.2	100.0
	私立	1.2	5.3	26.9	19.8	46.7	0.2	100.0
	平均	1.2	5.3	26.8	19.5	47.0	0.2	100.0
奨学金等の経済的支援に関する情報提供	国立
	公立	1.3	7.5	31.1	22.8	37.2	0.1	100.0
	私立	0.9	5.6	30.8	25.3	37.1	0.2	100.0
	平均	1.0	5.7	30.8	25.2	37.1	0.2	100.0

(参考) n=4,918

10-3表 設置者別・大学の学生支援体制への満足度（大学院修士課程）

(単位：%)

区分		利用したことがある				利用したことがない	無回答	計
		不満	やや不満	やや満足	満足			
図書館・自習室などの学習支援施設	国立	2.7	13.6	40.0	38.8	4.8	0.1	100.0
	公立	5.2	18.4	41.9	29.8	4.5	0.1	100.0
	私立	4.0	13.2	38.8	39.7	4.3	0.0	100.0
	平均	3.3	13.8	39.7	38.5	4.6	0.1	100.0
キャリアセンターなどでの就職・進路への支援	国立	3.5	9.5	25.1	13.5	48.3	0.1	100.0
	公立	5.6	11.2	24.0	9.6	49.5	0.2	100.0
	私立	4.0	9.4	26.1	15.2	45.3	0.1	100.0
	平均	3.8	9.6	25.4	13.8	47.3	0.1	100.0
学習・生活面でのカウンセリング	国立	2.6	7.6	16.3	9.0	64.4	-	100.0
	公立	3.3	8.4	17.2	8.9	62.0	0.2	100.0
	私立	2.6	7.4	19.0	11.6	59.2	0.2	100.0
	平均	2.6	7.6	17.3	9.9	62.4	0.1	100.0
奨学金等の経済的支援に関する情報提供	国立	4.6	13.8	28.5	15.2	37.8	0.1	100.0
	公立	5.0	14.3	28.3	14.1	38.0	0.2	100.0
	私立	5.5	13.5	27.7	18.0	35.3	0.1	100.0
	平均	4.9	13.8	28.2	16.1	36.9	0.1	100.0

(参考) n=7,488

(注)「配偶者あり」と回答した者も集計を含む。

10-4表 設置者別・大学の学生支援体制への満足度（大学院博士課程）

(単位：%)

区分		利用したことがある				利用したことがない	無回答	計
		不満	やや不満	やや満足	満足			
図書館・自習室などの学習支援施設	国立	4.3	12.4	31.9	34.3	17.0	0.0	100.0
	公立	7.5	17.1	32.5	26.6	16.1	0.1	100.0
	私立	5.6	15.6	34.8	34.4	9.5	0.1	100.0
	平均	4.8	13.5	32.7	33.8	15.1	0.0	100.0
キャリアセンターなどでの就職・進路への支援	国立	2.9	5.8	11.1	6.7	73.3	0.1	100.0
	公立	3.9	5.9	10.1	3.9	75.9	0.3	100.0
	私立	4.2	7.2	12.8	4.9	70.8	0.2	100.0
	平均	3.3	6.2	11.5	6.1	72.9	0.1	100.0
学習・生活面でのカウンセリング	国立	2.9	5.8	11.7	7.7	71.8	0.1	100.0
	公立	3.3	7.6	10.8	6.7	71.4	0.3	100.0
	私立	3.8	7.5	14.1	8.3	66.3	0.1	100.0
	平均	3.2	6.4	12.3	7.8	70.4	0.1	100.0
奨学金等の経済的支援に関する情報提供	国立	6.0	14.4	23.8	13.5	42.1	0.2	100.0
	公立	4.3	11.2	16.5	11.7	55.9	0.4	100.0
	私立	6.1	13.8	24.8	15.5	39.7	0.1	100.0
	平均	5.9	14.1	23.6	13.9	42.4	0.2	100.0

(参考) n=6,720

(注)「配偶者あり」と回答した者も集計を含む。

10-5表 設置者別・大学の学生支援体制への満足度（大学院専門職学位課程）
（単位：％）

区分		利用したことがある				利用したことがない	無回答	計
		不満	やや不満	やや満足	満足			
図書館・自習室などの学習支援施設	国立	3.1	11.0	35.0	46.4	4.5	-	100.0
	公立	5.8	6.5	40.6	39.1	8.0	-	100.0
	私立	4.1	12.7	32.5	47.0	3.6	0.1	100.0
	平均	3.8	11.8	33.8	46.4	4.2	0.0	100.0
キャリアセンターなどでの就職・進路への支援	国立	3.0	4.3	15.5	10.1	67.0	0.1	100.0
	公立	2.2	2.2	11.6	2.9	81.2	-	100.0
	私立	2.7	5.8	12.7	8.0	70.6	0.1	100.0
	平均	2.8	5.1	13.8	8.6	69.7	0.1	100.0
学習・生活面でのカウンセリング	国立	2.6	6.8	17.5	10.2	62.9	0.1	100.0
	公立	1.4	4.3	16.7	8.7	68.8	-	100.0
	私立	2.7	5.5	22.9	17.6	51.0	0.2	100.0
	平均	2.6	6.0	20.5	14.3	56.4	0.1	100.0
奨学金等の経済的支援に関する情報提供	国立	4.5	11.0	20.5	13.0	50.7	0.3	100.0
	公立	0.7	7.2	26.1	13.8	51.4	0.7	100.0
	私立	3.6	8.9	22.5	25.1	39.8	0.1	100.0
	平均	3.9	9.6	21.9	19.9	44.5	0.2	100.0

（参考）n=2,478

（注）「配偶者あり」と回答した者も集計に含む。

1 1 - 1 表 設置者別・学生の不安や悩み（大学昼間部）

(単位：%)

区分		大いにある	少しある	あまりない	全くない	無回答	計
授業の内容についていっていない	国立	4.3	26.6	40.1	29.0	0.0	100.0
	公立	3.5	27.6	41.7	27.0	0.2	100.0
	私立	3.8	27.9	41.5	26.7	0.1	100.0
	平均	3.9	27.7	41.3	27.1	0.1	100.0
卒業後にやりたいことがみつからない	国立	11.9	27.8	30.2	30.1	0.0	100.0
	公立	12.5	29.2	30.1	28.2	0.1	100.0
	私立	12.9	28.1	28.5	30.5	0.1	100.0
	平均	12.7	28.1	28.9	30.3	0.1	100.0
希望の就職先や進学先へ行けるか不安だ	国立	24.0	39.4	17.4	19.1	0.0	100.0
	公立	27.8	38.6	16.0	17.4	0.1	100.0
	私立	30.6	38.0	14.8	16.4	0.1	100.0
	平均	29.4	38.3	15.3	16.9	0.1	100.0
経済的に勉強を続けることが難しい	国立	1.7	10.5	33.9	53.9	0.0	100.0
	公立	1.9	9.5	36.4	52.1	0.2	100.0
	私立	2.4	11.9	38.2	47.4	0.1	100.0
	平均	2.3	11.5	37.4	48.7	0.1	100.0
学内の友人関係の悩みがある	国立	3.0	11.6	37.0	48.4	0.0	100.0
	公立	2.5	13.7	34.9	48.8	0.1	100.0
	私立	3.1	13.0	34.1	49.7	0.0	100.0
	平均	3.0	12.8	34.7	49.5	0.0	100.0

(参考) n=20,086

1 1 - 2 表 設置者別・学生の不安や悩み（短期大学昼間部）

(単位：%)

区分		大いにある	少しある	あまりない	全くない	無回答	計
授業の内容についていっていない	国立
	公立	2.0	24.6	48.8	24.5	0.1	100.0
	私立	2.5	26.4	46.4	24.6	0.2	100.0
	平均	2.5	26.3	46.5	24.6	0.2	100.0
卒業後にやりたいことがみつからない	国立
	公立	14.7	27.2	30.7	27.2	0.2	100.0
	私立	8.2	18.3	30.7	42.8	0.0	100.0
	平均	8.5	18.8	30.7	42.0	0.0	100.0
希望の就職先や進学先へ行けるか不安だ	国立
	公立	35.4	30.8	13.9	19.7	0.2	100.0
	私立	20.1	33.4	20.1	26.2	0.2	100.0
	平均	20.9	33.3	19.8	25.9	0.2	100.0
経済的に勉強を続けることが難しい	国立
	公立	3.3	13.2	35.7	47.8	0.1	100.0
	私立	2.4	10.4	37.0	50.0	0.1	100.0
	平均	2.5	10.5	36.9	49.9	0.1	100.0
学内の友人関係の悩みがある	国立
	公立	2.6	13.3	33.8	50.2	0.1	100.0
	私立	3.2	14.6	34.2	48.0	-	100.0
	平均	3.2	14.5	34.2	48.1	0.0	100.0

(参考) n=4,918

11-3表 設置者別・学生の不安や悩み（大学院修士課程）

(単位：%)

区分		大いにある	少しある	あまりない	全くない	無回答	計
授業の内容についていっていない	国立	2.5	17.8	37.5	42.2	-	100.0
	公立	2.9	18.5	37.8	40.8	-	100.0
	私立	1.9	16.5	39.5	42.1	0.1	100.0
	平均	2.3	17.4	38.2	42.0	0.0	100.0
卒業後にやりたいことがみつからない	国立	6.3	20.1	31.0	42.6	0.0	100.0
	公立	6.3	18.2	30.0	45.5	-	100.0
	私立	5.5	17.7	29.7	46.9	0.2	100.0
	平均	6.0	19.1	30.5	44.3	0.1	100.0
希望の就職先や進学先へ行けるか不安だ	国立	20.8	25.9	16.9	36.3	0.1	100.0
	公立	18.9	24.0	16.7	40.2	0.2	100.0
	私立	20.8	27.1	17.0	34.9	0.2	100.0
	平均	20.7	26.2	16.9	36.1	0.1	100.0
経済的に勉強を続けることが難しい	国立	3.9	15.6	28.4	52.1	0.1	100.0
	公立	4.5	16.9	31.1	47.4	0.1	100.0
	私立	6.4	16.7	32.2	44.6	0.1	100.0
	平均	4.8	16.0	29.9	49.2	0.1	100.0
学内の友人関係の悩みがある	国立	1.9	9.1	30.8	58.2	-	100.0
	公立	2.3	7.4	27.2	63.1	0.1	100.0
	私立	2.3	8.9	27.3	61.2	0.3	100.0
	平均	2.1	8.9	29.4	59.6	0.1	100.0

(参考) n=7,488

(注)「配偶者あり」と回答した者も集計に含む。

11-4表 設置者別・学生の不安や悩み（大学院博士課程）

(単位：%)

区分		大いにある	少しある	あまりない	全くない	無回答	計
授業の内容についていっていない	国立	2.4	10.2	27.4	59.9	0.2	100.0
	公立	2.6	13.9	33.1	49.9	0.5	100.0
	私立	2.6	13.2	30.9	53.0	0.4	100.0
	平均	2.4	11.2	28.6	57.5	0.2	100.0
卒業後にやりたいことがみつからない	国立	3.7	13.6	25.1	57.5	0.2	100.0
	公立	3.1	12.5	24.9	59.2	0.3	100.0
	私立	3.8	13.0	24.1	58.8	0.3	100.0
	平均	3.7	13.4	24.8	57.9	0.2	100.0
希望の就職先や進学先へ行けるか不安だ	国立	22.3	22.8	15.8	38.9	0.2	100.0
	公立	15.2	16.8	18.2	49.3	0.4	100.0
	私立	19.1	20.8	18.2	41.5	0.3	100.0
	平均	21.0	21.9	16.6	40.2	0.3	100.0
経済的に勉強を続けることが難しい	国立	7.5	20.4	26.8	45.0	0.3	100.0
	公立	5.0	16.5	26.0	52.2	0.3	100.0
	私立	8.5	21.4	28.2	41.8	0.2	100.0
	平均	7.5	20.4	27.1	44.7	0.2	100.0
学内の友人関係の悩みがある	国立	1.9	7.6	23.6	66.7	0.2	100.0
	公立	1.2	5.1	22.2	71.3	0.3	100.0
	私立	2.6	6.2	23.3	67.7	0.2	100.0
	平均	2.0	7.1	23.4	67.2	0.2	100.0

(参考) n=6,720

(注)「配偶者あり」と回答した者も集計に含む。

11-5表 設置者別・学生の不安や悩み（大学院専門職学位課程）

(単位：%)

区分		大いにある	少しある	あまりない	全くない	無回答	計
授業の内容について いっていない	国立	4.0	24.4	37.8	33.7	0.2	100.0
	公立	3.6	30.4	34.1	31.9	-	100.0
	私立	3.1	26.6	43.8	26.6	-	100.0
	平均	3.4	25.9	41.0	29.6	0.1	100.0
卒業後にやりたい ことがみつからない	国立	2.4	9.2	22.3	66.1	-	100.0
	公立	3.6	13.8	29.0	53.6	-	100.0
	私立	3.8	15.4	26.7	54.0	0.1	100.0
	平均	3.2	12.9	25.1	58.7	0.0	100.0
希望の就職先 や進学先へ行ける か不安だ	国立	20.1	17.8	13.8	48.2	0.1	100.0
	公立	13.8	15.2	14.5	56.5	-	100.0
	私立	16.1	21.0	16.7	45.8	0.3	100.0
	平均	17.6	19.5	15.5	47.2	0.2	100.0
経済的に勉強を 続けることが 難しい	国立	4.2	15.0	24.2	56.5	0.1	100.0
	公立	2.2	16.7	23.9	57.2	-	100.0
	私立	4.4	17.6	28.0	49.8	0.2	100.0
	平均	4.2	16.6	26.3	52.8	0.1	100.0
学内の友人関係 の悩みがある	国立	2.6	9.5	27.9	59.8	0.3	100.0
	公立	0.7	13.8	28.3	57.2	-	100.0
	私立	2.5	10.4	25.9	61.2	-	100.0
	平均	2.4	10.2	26.8	60.5	0.1	100.0

(参考) n=2,478

(注)「配偶者あり」と回答した者も集計に含む。

V. 參考資料

I 調査の概要

1. 調査の目的 この調査は、全国の学生を対象として、学生生活状況を把握することにより、学生生活の実状を明らかにし、学生生活支援事業の充実のための基礎資料を得ることを目的としています。

2. 調査の対象 大学院、大学学部及び短期大学本科の学生
 (社会人学生を含む。通信課程、休学者及び外国人留学生は除く。)

! この調査は、奨学金事業に関する調査ではございません。
 奨学金受給の有無にかかわらず、全ての学生を対象としています。

3. 調査の時期 平成 30 年 11 月

4. 提出期限 平成 30 年 12 月 17 日(月)
 ※提出方法については3頁「3. 調査後の整理と報告」を参照してください。

5. 調査数 下記の抽出率によって在籍学生(平成 30 年 5 月 1 日現在の学校基本調査による。)から抽出した数とします。
 (貴校の調査数は、別紙「調査依頼数及び送付内訳」を参照してください。)

【平成 30 年度 抽出率】

区分		設置者別		
		国 立	公 立	私 立
大学院	修士課程	$\frac{1}{19}$	$\frac{13}{38}$	$\frac{1}{11}$
	博士課程	$\frac{1}{7}$	$\frac{7}{11}$	$\frac{5}{16}$
	専門職学位課程	$\frac{29}{59}$	(全数調査)	$\frac{20}{43}$
大学学部	昼間部	$\frac{1}{39}$	$\frac{7}{95}$	$\frac{1}{100}$
	夜間部	$\frac{2}{5}$	(全数調査)	$\frac{11}{60}$
短期大学	昼間部	/	$\frac{15}{31}$	$\frac{3}{79}$
	夜間部	/	(全数調査)	$\frac{63}{82}$

※ 大学学部(昼間部)については、層化多段抽出を行っているため、在籍学生数と調査数が完全には比例しません。また、在籍学生数の少ない一部の大学は、一定の確率で調査依頼から外れています。

※ 大学院専門職学位課程・大学学部(夜間部)・短期大学(夜間部)の公立については、母集団である全国の学生数が減少しているため、従来からも、実質的に全数調査に近い状況となっていました。大学での事務を分かりやすくするため、今回より全数調査となっています。

6. 調査方法 あらかじめ、この調査の対象となる全在籍学生の中から、本機構が依頼した調査数の学生を「無作為抽出方法（4頁「Ⅲ 被調査学生の抽出方法」参照）」によって抽出後、所定の調査票を使用して調査します。
ただし、全数調査の区分は、対象者全員に調査します。
7. 調査ホームページ https://www.jasso.go.jp/about/statistics/gakusei_chosa/2018.html
日本学生支援機構ホームページ》各種調査情報》学生生活調査》平成30年度学生生活調査

Ⅱ 大学における事務

1. 調査開始前の準備

(1) 学生への周知

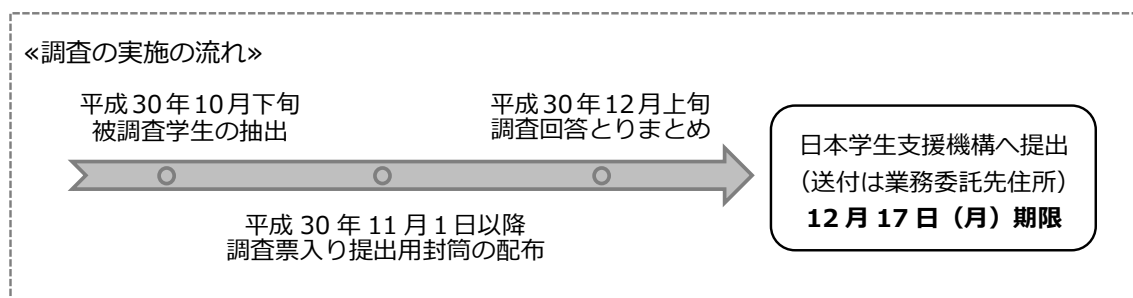
調査票回収まで一連の作業が円滑に行われるよう、被調査学生を抽出する前に、この調査の趣旨及び実施について、学生に十分な周知を図ってください。

(2) 被調査学生の決定

本機構から依頼した調査数を、4頁「Ⅲ 被調査学生の抽出方法（全数調査の区分は除く）」によって抽出してください。

なお、全数調査の区分についても、対象者は平成30年5月1日現在の大学院、大学学部及び短期大学本科の在籍者（5月1日現在休学者及び外国人留学生を除く）となります。

2. 調査の実施



- (1) 11月1日以降、被調査学生へ、調査票及び調査票記入要領の入った提出用封筒(※)を配布してください。

※ 大学院・大学・短期大学の別により、調査票が異なりますのでご注意ください。

封筒表側下部のラインで色分けしています。

[緑色→【大学院 学生用】、水色→【大学 学生用】、オレンジ色→【短期大学 学生用】]

(2) 以下のとおり、学生への指導のご協力をお願いいたします。

《学生への指導のお願い》

- この調査において、提出された調査票から個人が特定されることなく、プライバシーは確実に保護される旨、被調査学生に対しお伝えください。
- 調査票の設問（15）「授業料」「その他の学校納付金」等、各大学で金額が決まっているものは、一覧表等でその額を学生に示し、誤記入がないようにご指導ください。
- 調査票の設問（14）「年間収入合計（ア）」と（15）「年間支出合計（イ）」について、金額が同じになるようご指導ください。
- 調査票の設問（21）「家庭の年間所得総額」について、よく家庭と連絡をとって記入するようご指導ください。

(3) 調査についてのご質問は、同封のFAX質問票でお問合せください。

（日本学生支援機構 学生支援企画課学生支援調査係 FAX番号：03-5520-6048）

その他、「よくある質問Q&A」を調査ホームページ（2頁参照）に掲載していますので、併せてご利用ください。

3. 調査後の整理と報告

(1) 被調査学生から回答済み調査票の入った提出用封筒(以下「提出封筒」という。)を回収し、とりまとめ願います。お手数ですが、提出封筒を回収できていない被調査学生には督促をお願いいたします。

開封しての内容確認は不要です。回収した提出封筒の枚数のみご確認ください。

※ ただし、提出封筒の重さや形状から見て、明らかに異なる内容物が同封されている場合は、学生へご指導ください。

(2) 「調査票回収枚数一覧表」(別紙)に、回収した提出封筒の枚数等を記入してください。

(3) ①調査票回収枚数一覧表、②回収した提出封筒を、12月17日(月)までに本機構（本調査回答受付業務委託先）へ発送してください。

発送の際は、着払い用宅配便伝票（※）（住所等印字済み）をご利用ください。



※ 伝票は、別途郵送した本調査の依頼文書に同封されています。

発送物の表面に「学生生活調査 調査票在中」と朱書してください。

送付先（本調査回答受付業務委託先）

〒

《 掲載略 》

※ 被調査学生が休退学になった等により使用しないことが判明している調査票入り提出用封筒がありましたら、併せて本機構（本調査回答受付業務委託先）への発送時にご返却ください。

(4) 本機構への発送後に学生から遅れて提出があった場合、①調査票回収枚数一覧表（追加提出用）（本手引6頁をコピー）、②回収した提出封筒を、本機構（本調査回答受付業務委託先）へ発送してください。

4. 前回調査からの変更点

- (1) 調査票を記入する際の筆記具は、従前どおり特に指定しておりませんが、今回より、なるべく黒の鉛筆またはボールペンを使用していただくよう追記しました。(データ入力しやすくするため。)
- (2) 調査票記入要領 1 頁 (はじめに) について、文章を平易に、見やすくしました。
- (3) 調査項目は概ね前回調査と同じですが、一部の設問を、削除・追加・変更しています。
- (4) 学生数が減少傾向の一部の学校区分について、今回より全数調査となりました。

Ⅲ 被調査学生の抽出方法 (全数調査の区分は除く)

1. 抽出方法

- (1) 抽選用名簿を作成してください。

平成 30 年 5 月 1 日現在の大学院、大学学部及び短期大学本科の在籍者 (5 月 1 日現在休学者及び外国人留学生を除く) が対象となります。なお、平成 30 年 5 月 1 日現在の在籍者であるため、平成 30 年秋入学者は対象となりません。

大学院については、修士課程、博士課程、専門職学位課程別、大学及び短期大学については、昼間部、夜間部別に在籍者を分類してください。

- (2) 上記 (1) で作成した抽選用名簿について、本機構が依頼した調査数 (※) を下記 (3) の方法により抽出してください。

なお、上記の分類に加え、学部等についても在籍学生数に応じて比例配分し、偏りが生じないようにしてください (割り切れない場合には、四捨五入してください)。

※ 「調査依頼数及び送付内訳」(別紙) をご参照ください。

例) 調査依頼数が 20 の大学で在籍学生数が、文学部は 70 人、工学部は 130 人である場合。

$$\text{文学部の調査数} = \frac{70 \text{ 人 (文学部の在籍学生数)}}{200 \text{ 人 (文学部と工学部の合計在籍学生数)}} \times 20 \text{ 人 (調査依頼数)} = 7 \text{ 人}$$

→ 文学部 7 人、工学部 13 人 に配分してください。

- (3) 「被調査学生の抽出について」(Excel ファイル)

(ア) 抽出に当たって、調査ホームページ (2 頁参照) に「被調査学生の抽出について」(Excel ファイル) を用意していますので、ダウンロードしてください。

- (イ) ダウンロードしたファイルに学生数と調査数を入力すると、抽出基点番号と抽出間隔が算出されます。

[例] 在籍学生数が 800 名、調査数が 160 名の場合

学生数	調査数	抽出基点番号	抽出間隔
800	160	4	5

※ 「抽出基点番号」「抽出間隔」の計算には乱数を用いていますので、入力するたびに数値が変わりますが、どの結果を使用しても問題ありません。

- (ウ) あらかじめ作成した抽選用名簿に照らし合わせて、抽出基点番号の学生から抽出間隔ごとに学生を選定し、調査数の学生を抽出してください。

学籍番号	通し番号
ABC0001	1
ABC0002	2
ABC0003	3
ABC0004	4
ABC0005	5
ABC0006	6
ABC0007	7
ABC0008	8
ABC0009	9
ABC0010	10
ABC0011	11
ABC0012	12
ABC0013	13
ABC0014	14

← 【調査対象】 (抽出基点番号4)

← 【調査対象】 (抽出基点番号4+抽出間隔5)

← 【調査対象】 (抽出基点番号4+抽出間隔5+抽出間隔5)

2. 抽出上の注意

- (1) 抽出は必ず 1. (3) の方法で行ない、本機構の奨学金受給者のみを対象とするなど、作為的に抽出しないでください。
- (2) 抽出により決定した被調査学生は、変更しないでください。選定された学生が調査を拒否した場合や、本年 5 月 1 日現在では在籍していたもののその後に休退学した学生が対象となった場合も、新たな調査対象学生の選定は不要です。
- (3) 上記の抽出方法で正しく実施した結果、学内のみでは偏りがあると思われる対象が選ばれても (例: 居住形態が特定の者に偏った場合)、全国的集計によって確率的に調整されますので、抽出結果の修正は不要です。

学校調査番号	※
整理番号	※

※JASSO使用欄(記入不要)

平成30年度学生生活調査 調査票(大学)

(大学生等の学習状況に関する調査を含む)

～回答のお願い～

この調査は学生支援の充実を図ることを目的に実施しており、調査結果は国の教育政策実施のための資料として使用されるほか、学生生活に関する調査研究や報道関係の基礎的資料として活用されています。また、本機構が学生支援の充実のために意義のある調査研究であると判断した場合、回答内容を研究機関等に提供することがあります。いずれの場合にも、ご回答いただいた内容について、あなた個人の情報が特定されることはありません。

回答方法 ※設問は(1)～(33)まであります。

- ① 回答は、あてはまる番号を1つ選び○で囲んでください。都道府県名や金額などは回答欄に記入してください。
- ② 記入する際の筆記具は特に指定いたしません。なるべく黒の鉛筆またはボールペンをお使いください。
- ③ 別紙の調査票記入要領を参照して回答してください。
- ④ 記入後は、本調査票のみ封筒に入れて封をしてください。
- ⑤ 回答期限、提出先は学校の事務担当者の指示に従ってください。

I. あなたご自身について

(選択式の設問については、あてはまる番号を1つ選び、その番号を○で囲んでください)

(1) 昼間部・夜間部の在籍状況	1. 昼間部	2. 夜間部
(2) 性別	1. 男性	2. 女性
(3) 現在の学年	1. 1学年 2. 2学年 3. 3学年 4. 4学年 5. 5学年 6. 6学年 ※留年や休学などは教えません。例:4年生を留年して現在5年目の場合は、「4学年」を選択してください。	
(4) 年齢	歳	
(5) 学科(専攻)の系統	1. 文・外国語・国際・文化系 2. 法・政・経・商・社系 3. 理・工系 4. 農系 5. 薬系 6. 医・歯系 7. 看護・保健系 8. 教育・教員養成系 9. 福祉系 10. 家政・生活系 11. 芸術系 12. スポーツ系 13. その他 ※分類が分からない場合は、調査票記入要領P.2(5)を参照してください。	
(6) 現在住んでいるところ	1. 自宅 2. 学生寮(寄宿舎) 3. 下宿・アパート・その他 ※分類が分からない場合は、調査票記入要領P.2(6)を参照してください。	
(7) 学校の所在地	1. 東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県 2. 大阪府・京都府・兵庫県 3. その他の道、県	
(8) 片道の通学時間	1. 0分～10分 2. 11分～20分 3. 21分～30分 4. 31分～60分 5. 61分～90分 6. 91分～120分 7. 121分以上	
(9) 現在の住所	(10) 入学前の住所	
(都・道・府・県)	(都・道・府・県、又は海外)	

Ⅱ. 学生生活の状況について

(11) 授業期間中の典型的な1週間(7日間)の生活時間について(それぞれの項目について、あてはまる番号1つに○)

項 目	授業期間中の典型的な1週間(7日間)の生活時間(単位:時間)							
	0時間	1-5	6-10	11-15	16-20	21-25	26-30	31時間以上
1. 大学の授業	1	2	3	4	5	6	7	8
2. 大学の授業の予習・復習など	1	2	3	4	5	6	7	8
3. 卒業論文・卒業研究	1	2	3	4	5	6	7	8
4. 大学の授業以外の学習	1	2	3	4	5	6	7	8
5. 部活動・サークル活動	1	2	3	4	5	6	7	8
6. アルバイト・定職	1	2	3	4	5	6	7	8
7. 就職活動	1	2	3	4	5	6	7	8
8. 娯楽・交友	1	2	3	4	5	6	7	8

(12) 現在通っている大学について次の点で満足していますか(それぞれの項目について、あてはまる番号1つに○)

項 目	利用したことがある				利用したことがない
	不満	やや不満	やや満足	満足	
1. 図書館・自習室などの学習支援施設	1	2	3	4	5
2. キャリアセンターなどでの就職・進路への支援	1	2	3	4	5
3. 学習・生活面でのカウンセリング	1	2	3	4	5
4. 奨学金等の経済的支援に関する情報提供	1	2	3	4	5

(13) いまあなたには次のような不安や悩みがありますか(それぞれの項目について、あてはまる番号1つに○)

項 目	大いにある	少しある	あまりない	全くない
1. 授業の内容についていけない	1	2	3	4
2. 卒業後にやりたいことがみつからない	1	2	3	4
3. 希望の就職先や進学先へ行けるか不安だ	1	2	3	4
4. 経済的に勉強を続けることが難しい	1	2	3	4
5. 学内の友人関係の悩みがある	1	2	3	4

Ⅲ. あなたご自身の経済状況について

あなたご自身の1年間の経済状態についてお聞きします。(収入額・支出額を、それぞれ「年額」で記入してください。)
 ※千円未満は四捨五入、収入額・支出額がない場合は千円の位に「0」を記入してください。
 ※各項目については、調査票記入要領P.2(14)、P.4(15)をそれぞれ参照してください。

(14) 年間収入額(平成29年12月～平成30年11月)
 (平成30年度入学者のみ平成30年4月～平成31年3月)

項目	千万	百万	十万	万	千	円
(a) 家庭からの給付 (家庭が支払った授業料を含む)						000 円
(b) 奨学金 の 給付 金	日本学生支援機構 の	貸与奨学金 (返済が必要)				000 円
		給付奨学金 (返済不要)				000 円
	日本学生支援機構 以外の	貸与奨学金 (返済が必要)				000 円
		給付奨学金 (返済不要)				000 円
(c) アルバイト						000 円
(d) 定職収入						000 円
(e) その他 (貯蓄などを取り崩した金額や借入金など)						000 円
年間収入合計(ア)						000 円

(15) 年間支出額(平成29年12月～平成30年11月)
 (平成30年度入学者のみ平成30年4月～平成31年3月)

項目	千万	百万	十万	万	千	円
(A) 授業料 (家庭が支払った授業料も含む)						000 円
(B) その他の学校納付金 (入学時の特別納付金を除く)						000 円
(C) 修学費 (教科書、図書代、文具購入費等含む)						000 円
(D) 課外活動費 (サークル活動、自治会活動など)						000 円
(E) 通学費						000 円
(F) 食費 (自宅通学者は外食費を記入)						000 円
(G) 住居・光熱費 (自宅通学者は0を記入)						000 円
(H) 保健衛生費 (診療代、薬代、理髪美容代など含む)						000 円
(I) 娯楽・嗜好費						000 円
(J) 通信費 (携帯電話、固定電話代など)						000 円
(K) その他の日常費						000 円
(L) 貯金						000 円
年間支出合計(イ)						000 円

年間収入合計(ア) = 年間支出合計(イ) になるようにしてください

(16) 家庭からの給付のみで 修学可能ですか (最近1年間の経験から)(1つに○)	1. 修学可能	2. 修学不自由	3. 修学継続困難	4. 家庭からの給付はない
(17) 大学の授業料減免制度 を受けていますか (平成30年度前期分について) (1つに○)	1. 全額を受けた	2. 半額以上全額未満を受けた	3. 半額未満を受けた	4. 申請したが不許可になった
(18) (a) 日本学生支援機構の 貸与奨学金(返済が必要)を受け ていますか (最近1年間)(1つに○)	1. 第一種奨学金(無利子)を受けた	2. 第二種奨学金(有利子)を受けた	3. 第一種と第二種の併用を受けた	4. 申請したが不採用になった
	5. 希望したが申請しなかった	6. 貸与奨学金は必要なかった		

質問(18)(a)で5.と回答した方にお聞きします

(18)(a)-1「希望したが申請しなかった」理由について(1つに○)

- | | |
|------------------------------------|-------------------------|
| 1. 成績基準が合わなかった | 2. 収入基準が合わなかった |
| 3. 申請手続きが複雑なのでやめた | 4. 貸与のため卒業後の返還が大変なのでやめた |
| 5. 日本学生支援機構以外の奨学金を受けられることができたのでやめた | 6. その他 |

(18)(b) 日本学生支援機構の 給付奨学金(返済不要)を受け ていますか(最近1年間)(1つに○)	1. 給付奨学金を受けた	2. 申請したが不採用になった	3. 申請しなかった
(19) 日本学生支援機構以外 の奨学金を受けていますか (最近1年間)(1つに○)	1. 給付奨学金を受けた	2. 貸与奨学金を受けた	3. 給付・貸与の両方を受けた
	4. 申請したが不採用になった	5. 申請しなかった	

※ 3学年以上は「3. 申請しなかった」を選択してください。

(20)アルバイト(最近1年間) (それぞれの項目について1つに○)	【授業期間中】	1. まったくしなかった	2. 不定期的にした	3. 週に1～2日した	4. 週に3日以上した
	【長期休暇中】	1. まったくしなかった	2. 不定期的にした	3. 週に1～2日した	4. 週に3日以上した

↓
質問(20)のいずれかで2.～4.と回答した方にお聞きます

(20-1)アルバイトの従事職種(主なものを1つに○)			
1. 塾講師・家庭教師など	2. 事務	3. 販売	4. 飲食業
5. 販売・飲食業を除く軽労働	6. 重労働・危険作業	7. 特殊技能	8. その他
※分類が分からない場合は、調査票記入要領P.5(20-1)を参照してください。			
(20-2)アルバイト収入の主な使い道(主な使い道1つに○)			
1. 授業料	2. その他の学校納付金	3. 修学費	4. 課外活動費
5. 通学費	6. 食費	7. 住居・光熱費	8. 保健衛生費
9. 娯楽・嗜好費	10. 通信費	11. その他の日常費	12. 貯金

IV. 家庭の状況について

(21)あなたの家庭の最近1年間(12ヶ月)の所得総額(税込額)について	<p>この項目は、この調査で特に重要な意味を持つものです。</p> <p>家族とよく連絡をとって、できるだけ正確な金額を記入してください。</p> <p>1) 所得の総額を、ア)主たる家計支持者 と イ)その他の家族の方に分けて、それぞれ記入してください。 ただし、あなたの所得と、あなた以外の家族で学校に在学する方が得た所得は除いてください。</p> <p>2) あなたが結婚などにより独立した家庭を構成している場合は、その独立した家庭の所得総額を、ア)主たる家計支持者 と イ)その他の家族の方に分けて、それぞれ記入してください。</p> <p>3) 所得がない場合は「0」を記入してください。</p>																			
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>ア)主たる家計支持者</p> <table border="1" style="border-collapse: collapse; width: 100px;"> <tr> <th>億</th> <th>千万</th> <th>百万</th> <th>十万</th> <th>万</th> </tr> <tr> <td style="height: 20px;"></td> <td style="height: 20px;"></td> <td style="height: 20px;"></td> <td style="height: 20px;"></td> <td style="height: 20px;"></td> </tr> </table> <p>万円</p> <p>【万円未満四捨五入】</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>イ)その他の方</p> <table border="1" style="border-collapse: collapse; width: 100px;"> <tr> <th>億</th> <th>千万</th> <th>百万</th> <th>十万</th> <th>万</th> </tr> <tr> <td style="height: 20px;"></td> <td style="height: 20px;"></td> <td style="height: 20px;"></td> <td style="height: 20px;"></td> <td style="height: 20px;"></td> </tr> </table> <p>万円</p> <p>【万円未満四捨五入】</p> </div> </div> <p>※合計する所得の種類については、調査票記入要領P.5(21)を参照してください。</p>	億	千万	百万	十万	万						億	千万	百万	十万	万				
億	千万	百万	十万	万																
億	千万	百万	十万	万																
(22)主たる家計支持者について(1つに○)	<p>1. 父 2. 母 3. あなた自身 4. 配偶者 5. その他</p>																			
(23)主たる家計支持者の年齢について(1つに○)	<p>1. 44歳以下 2. 45～49歳 3. 50～54歳 4. 55～59歳 5. 60歳以上</p>																			
(24)主たる家計支持者の職業について(1つに○)	<p>1. 勤労者世帯 2. 個人営業世帯 3. 法人経営・自由業世帯</p> <p>4. 農林・水産業世帯 5. その他の世帯</p> <p>※分類が分からない場合は、調査票記入要領P.6(24)を参照してください。</p>																			

V. 大学での授業・学習について

(25) 今学期はどの程度履修登録をしていますか。また、卒業に必要な単位数のうち、前学期までにどれぐらいを取得済みですか。
(それぞれ数値を記入)

今学期、履修登録している科目	科目	前学期までに取得済みの単位の比率	約	%
----------------	----	------------------	---	---

おおよその比率をお答えください。

(26) これまで受けた授業の形態について、全体が10割になるようお答えください。

講義 (100人以上)	講義 (50人以上100人未満)	講義 (50人未満)	演習・ゼミ	実験・実習
割	割	割	割	割

足して10割になるように、おおよその割合をお答えください。

(27) これまで受けた授業では、A. 次のようなことがどれくらいありましたか、またB. その頻度は適当だと思いますか。
(それぞれの項目のA. B. について、あてはまる番号1つに○)

項 目	A. どれくらいあったか				B. 頻度は適当か		
	ほとんど なかった	あまり なかった	ある程度 あった	よく あった	減らして ほしい	現状で よい	増やして ほしい
1. 授業内容の意義や必要性を十分に説明してくれる	1	2	3	4	1	2	3
2. 理解がしやすいように教え方が工夫されている	1	2	3	4	1	2	3
3. TA(ティーチングアシスタント)などによる補助的な指導がある	1	2	3	4	1	2	3
4. 小テストやレポートなどの中間課題が出される	1	2	3	4	1	2	3
5. 適切なコメントが付されて課題などの提出物が返却される	1	2	3	4	1	2	3
6. グループワークなど、学生が参加する機会がある	1	2	3	4	1	2	3
7. 主に英語でおこなわれる授業(語学は除く)	1	2	3	4	1	2	3

(28) あなた自身は、授業に対してどのように取り組んでいますか(それぞれの項目について、あてはまる番号1つに○)

項 目	まったくあて はまらない	あまりあては まらない	ある程度 あてはまる	よく あてはまる
1. 先生に質問したり、勉強の仕方を相談している	1	2	3	4
2. なるべく良い成績をとるようにしている	1	2	3	4
3. グループワークやディスカッションに積極的に参加している	1	2	3	4
4. 必要な予習や復習をして授業にのぞんでいる	1	2	3	4

(29) あなたの成績についてお答えください。(不可の割合は除いて、足して10割になるように記入してください)
(大学での評価方法にあわせて、①か②のいずれかに記入してください。)

※素点にて成績評価がなされている場合には、調査票記入要領P.6(29)を参照のうえ、記入してください。

	秀(S,A+)	優(A)	良(B)	可(C)
①5段階 評価	割	割	割	割
②4段階 評価	割	割	割	割

おおよその割合をお答えください

おおよその割合をお答えください

(30) あなたの大学(学部・学科)では成績評価にGPA制度が導入されていますか。差し支えなければあなたのGPAを記入してください。

GPA制度が (1つに○)	1. 導入されている	あなたのGPA
	2. 導入されていない	

(31) 大学に入ってから次のような経験はありましたか。また、それは有用でしたか(それぞれの項目について、あてはまる番号1つに○)

項 目	経験した				経験して いない
	有用でない	どちらとも いえない	有用だった	非常に有用 だった	
1. 授業の履修方法やカリキュラムについての体系的なガイダンス	1	2	3	4	5
2. 大学での勉強の方法(スタディ・スキル)を学ぶ科目	1	2	3	4	5
3. 就職や将来のキャリアをテーマとした科目	1	2	3	4	5
4. インターンシップ(5日以上のもの)	1	2	3	4	5
5. 短期の海外留学(4ヶ月~1年程度)	1	2	3	4	5

(32) 次の点で大学の授業は、A.どのくらい役に立っていると思いますか。またB.自分の実力はどの程度あると思いますか(それぞれの項目のA.B.について、あてはまる番号1つずつ○)

項 目	A. これまでの授業経験は				B. 自分の実力は			
	役に立って いない	←	→	役に立っている	不十分	←	→	十分
1. 専門分野に関する知識・理解	1	2	3	4	1	2	3	4
2. 文献・資料・データを収集する力	1	2	3	4	1	2	3	4
3. 論理的に文章を書く力	1	2	3	4	1	2	3	4
4. 人にわかりやすく話す力	1	2	3	4	1	2	3	4
5. 外国語の力	1	2	3	4	1	2	3	4
6. ものごとを分析的・批判的に考える力	1	2	3	4	1	2	3	4
7. 問題を見つけ、解決方法を考える力	1	2	3	4	1	2	3	4
8. 幅広い知識、もののみかた	1	2	3	4	1	2	3	4

(33) 卒業後に最も希望する進路は次のどれですか(A.B.それぞれについて、あてはまる番号1つずつ○)

項 目	1. 民間企業に就職	2. 公務員になる	3. 教師、医師、弁護士 などの専門職につく	4. 自営など1~3以外 の形で就業	5. 進学する (大学院など)	6. その他	7. 決めていない (いなかった)
A.入学時の希望	1	2	3	4	5	6	7
B.現在の希望	1	2	3	4	5	6	7



ご協力ありがとうございました。

学校調査番号	※
整理番号	※

※JASSO使用欄(記入不要)

平成30年度学生生活調査 調査票(短期大学)

(大学生等の学習状況に関する調査を含む)

～回答のお願い～

この調査は学生支援の充実を図ることを目的に実施しており、調査結果は国の教育政策実施のための資料として使用されるほか、学生生活に関する調査研究や報道関係の基礎的資料として活用されています。また、本機構が学生支援の充実のために意義のある調査研究であると判断した場合、回答内容を研究機関等に提供することがあります。いずれの場合にも、ご回答いただいた内容について、あなた個人の情報が特定されることはありません。

回答方法 ※設問は(1)～(33)まであります。

- ① 回答は、あてはまる番号を1つ選び○で囲んでください。都道府県名や金額などは回答欄に記入してください。
- ② 記入する際の筆記具は特に指定いたしません。なるべく黒の鉛筆またはボールペンをお使いください。
- ③ 別紙の調査票記入要領を参照して回答してください。
- ④ 記入後は、本調査票のみ封筒に入れて封をしてください。
- ⑤ 回答期限、提出先は学校の事務担当者の指示に従ってください。

(※ 各設問に記載の「大学」は、本調査票では短期大学のことを指します。)

I. あなたご自身について

(選択式の設問については、あてはまる番号を1つ選び、その番号を○で囲んでください)

(1) 昼間部・夜間部の在籍状況	1. 昼間部	2. 夜間部
(2) 性別	1. 男性	2. 女性
(3) 現在の学年	1. 1学年 2. 2学年 3. 3学年 ※留年や休学などは教えません。例：1年生を留年して現在2年目の場合は、「1学年」を選択してください。	
(4) 年齢	歳	
(5) 学科(専攻)の系統	1. 文・外国語・国際・文化系 2. 法・政・経・商・社系 3. 理・工系 4. 農系 (「5.」「6.」は、短期大学の調査票では使用しません。) 7. 看護・保健系 8. 教育・教員養成系 9. 福祉系 10. 家政・生活系 11. 芸術系 12. スポーツ系 13. その他 ※ 歯科衛生士、医療事務、薬局事務を目指す学科は、7. 看護系・保健系を選択してください。 幼児・保育教育学は、8. 教育・教員養成系を選択してください。 分類が分からない場合は、調査票記入要領P.2(5)を参照してください。	
(6) 現在住んでいるところ	1. 自宅 2. 学生寮(寄宿舎) 3. 下宿・アパート・その他 ※分類が分からない場合は、調査票記入要領P.2(6)を参照してください。	
(7) 学校の所在地	1. 東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県 2. 大阪府・京都府・兵庫県 3. その他の道、県	
(8) 片道の通学時間	1. 0分～10分 2. 11分～20分 3. 21分～30分 4. 31分～60分 5. 61分～90分 6. 91分～120分 7. 121分以上	
(9) 現在の住所	(10) 入学前の住所	
(都・道・府・県)	(都・道・府・県、又は海外)	

Ⅱ. 学生生活の状況について

(11) 授業期間中の典型的な1週間(7日間)の生活時間について(それぞれの項目について、あてはまる番号1つに○)

項 目	授業期間中の典型的な1週間(7日間)の生活時間(単位:時間)							
	0時間	1-5	6-10	11-15	16-20	21-25	26-30	31時間以上
1. 大学の授業	1	2	3	4	5	6	7	8
2. 大学の授業の予習・復習など	1	2	3	4	5	6	7	8
3. 卒業論文・卒業研究	1	2	3	4	5	6	7	8
4. 大学の授業以外の学習	1	2	3	4	5	6	7	8
5. 部活動・サークル活動	1	2	3	4	5	6	7	8
6. アルバイト・定職	1	2	3	4	5	6	7	8
7. 就職活動	1	2	3	4	5	6	7	8
8. 娯楽・交友	1	2	3	4	5	6	7	8

(12) 現在通っている大学について次の点で満足していますか(それぞれの項目について、あてはまる番号1つに○)

項 目	利用したことがある				利用したことがない
	不満	やや不満	やや満足	満足	
1. 図書館・自習室などの学習支援施設	1	2	3	4	5
2. キャリアセンターなどでの就職・進路への支援	1	2	3	4	5
3. 学習・生活面でのカウンセリング	1	2	3	4	5
4. 奨学金等の経済的支援に関する情報提供	1	2	3	4	5

(13) いまあなたには次のような不安や悩みがありますか(それぞれの項目について、あてはまる番号1つに○)

項 目	大いにある	少しある	あまりない	全くない
1. 授業の内容についていけない	1	2	3	4
2. 卒業後にやりたいことがみつからない	1	2	3	4
3. 希望の就職先や進学先へ行けるか不安だ	1	2	3	4
4. 経済的に勉強を続けることが難しい	1	2	3	4
5. 学内の友人関係の悩みがある	1	2	3	4

Ⅲ. あなたご自身の経済状況について

あなたご自身の1年間の経済状態についてお聞きします。(収入額・支出額を、それぞれ「年額」で記入してください。)
 ※千円未満は四捨五入、収入額・支出額がない場合は千円の位に「0」を記入してください。
 ※各項目については、調査票記入要領P.2(14)、P.4(15)をそれぞれ参照してください。

(14) 年間収入額(平成29年12月～平成30年11月)
 (平成30年度入学者のみ平成30年4月～平成31年3月)

項目	千万	百万	十万	万	千	円
(a) 家庭からの給付 (家庭が支払った授業料を含む)						000 円
(b) 奨学金 の 給付	日本学生支援機構 の	貸与奨学金 (返済が必要)				000 円
		給付奨学金 (返済不要)				000 円
	日本学生支援機構 以外の	貸与奨学金 (返済が必要)				000 円
		給付奨学金 (返済不要)				000 円
(c) アルバイト					000 円	
(d) 定職収入					000 円	
(e) その他 (貯蓄などを取り崩した金額や借入金など)					000 円	
年間収入合計(ア)						000 円

(15) 年間支出額(平成29年12月～平成30年11月)
 (平成30年度入学者のみ平成30年4月～平成31年3月)

項目	千万	百万	十万	万	千	円
(A) 授業料 (家庭が支払った授業料も含む)						000 円
(B) その他の学校納付金 (入学時の特別納付金を除く)						000 円
(C) 修学費 (教科書、図書代、文具購入費等含む)						000 円
(D) 課外活動費 (サークル活動、自治会活動など)						000 円
(E) 通学費						000 円
(F) 食費 (自宅通学者は外食費を記入)						000 円
(G) 住居・光熱費 (自宅通学者は0を記入)						000 円
(H) 保健衛生費 (診療代、薬代、理髪美容代など含む)						000 円
(I) 娯楽・嗜好費						000 円
(J) 通信費 (携帯電話、固定電話代など)						000 円
(K) その他の日常費						000 円
(L) 貯金						000 円
年間支出合計(イ)						000 円

年間収入合計(ア) = 年間支出合計(イ) になるようにしてください

(16) 家庭からの給付のみで 修学可能ですか (最近1年間の経験から)(1つに○)	1. 修学可能	2. 修学不自由	3. 修学継続困難	4. 家庭からの給付はない
(17) 大学の授業料減免制度 を受けていますか (平成30年度前期分について) (1つに○)	1. 全額を受けた	2. 半額以上全額未満を受けた	3. 半額未満を受けた	4. 申請したが不許可になった
(18) (a) 日本学生支援機構の 貸与奨学金(返済が必要)を受け ていますか (最近1年間)(1つに○)	1. 第一種奨学金(無利子)を受けた	2. 第二種奨学金(有利子)を受けた	3. 第一種と第二種の併用を受けた	4. 申請したが不採用になった
	5. 希望したが申請しなかった	6. 貸与奨学金は必要なかった		

質問(18)(a)で5.と回答した方にお聞きします

(18)(a)-1「希望したが申請しなかった」理由について(1つに○)	
1. 成績基準が合わなかった	2. 収入基準が合わなかった
3. 申請手続きが複雑なのでやめた	4. 貸与のため卒業後の返還が大変なのでやめた
5. 日本学生支援機構以外の奨学金を受けられることができたのでやめた	6. その他

(18) (b) 日本学生支援機構の 給付奨学金(返済不要)を受け ていますか(最近1年間)(1つに○)	1. 給付奨学金を受けた	2. 申請したが不採用になった	3. 申請しなかった
	※ 3学年以上は「3. 申請しなかった」を選択してください。		
(19) 日本学生支援機構以外 の奨学金を受けていますか (最近1年間)(1つに○)	1. 給付奨学金を受けた	2. 貸与奨学金を受けた	3. 給付・貸与の両方を受けた
	4. 申請したが不採用になった	5. 申請しなかった	

(20)アルバイト(最近1年間) (それぞれの項目について1つに○)	【授業期間中】	1. まったくしなかった	2. 不定期的にした	3. 週に1～2日した	4. 週に3日以上した
	【長期休暇中】	1. まったくしなかった	2. 不定期的にした	3. 週に1～2日した	4. 週に3日以上した

↓
質問(20)のいずれかで2.～4. と回答した方にお聞きします

(20-1)アルバイトの従事職種(主なもの1つに○)			
1. 塾講師・家庭教師など	2. 事務	3. 販売	4. 飲食業
5. 販売・飲食業を除く軽労働	6. 重労働・危険作業	7. 特殊技能	8. その他
※分類が分からない場合は、調査票記入要領P.5(20-1)を参照してください。			
(20-2)アルバイト収入の主な使い道(主な使い道1つに○)			
1. 授業料	2. その他の学校納付金	3. 修学費	4. 課外活動費
5. 通学費	6. 食費	7. 住居・光熱費	8. 保健衛生費
9. 娯楽・嗜好費	10. 通信費	11. その他の日常費	12. 貯金

IV. 家庭の状況について

(21)あなたの家庭の最近1年間(12ヶ月)の所得総額(税込額)について	<p>この項目は、この調査で特に重要な意味を持つものです。</p> <p>家族とよく連絡をとって、できるだけ正確な金額を記入してください。</p> <p>1) 所得の総額を、ア)主たる家計支持者 と イ)その他の家族の方に分けて、それぞれ記入してください。 ただし、あなたの所得と、あなた以外の家族で学校に在学する方が得た所得は除いてください。</p> <p>2) あなたが結婚などにより独立した家庭を構成している場合は、その独立した家庭の所得総額を、ア)主たる家計支持者 と イ)その他の家族の方に分けて、それぞれ記入してください。</p> <p>3) 所得がない場合は「0」を記入してください。</p>																																				
	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">ア)主たる家計支持者</td> <td style="text-align: center;">イ)その他の方</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 20%;">億</th> <th style="width: 20%;">千万</th> <th style="width: 20%;">百万</th> <th style="width: 20%;">十万</th> <th style="width: 20%;">万</th> </tr> <tr> <td style="height: 20px;"></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> </td> <td style="text-align: center;"> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 20%;">億</th> <th style="width: 20%;">千万</th> <th style="width: 20%;">百万</th> <th style="width: 20%;">十万</th> <th style="width: 20%;">万</th> </tr> <tr> <td style="height: 20px;"></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> </td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">万円</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">万円</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">【万円未満四捨五入】</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">【万円未満四捨五入】</td> </tr> </table>	ア)主たる家計支持者	イ)その他の方	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 20%;">億</th> <th style="width: 20%;">千万</th> <th style="width: 20%;">百万</th> <th style="width: 20%;">十万</th> <th style="width: 20%;">万</th> </tr> <tr> <td style="height: 20px;"></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	億	千万	百万	十万	万						<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 20%;">億</th> <th style="width: 20%;">千万</th> <th style="width: 20%;">百万</th> <th style="width: 20%;">十万</th> <th style="width: 20%;">万</th> </tr> <tr> <td style="height: 20px;"></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	億	千万	百万	十万	万						万円		万円		【万円未満四捨五入】		【万円未満四捨五入】		<p>※合計する所得の種類については、調査票記入要領P.5(21)を参照してください。</p>			
ア)主たる家計支持者	イ)その他の方																																				
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 20%;">億</th> <th style="width: 20%;">千万</th> <th style="width: 20%;">百万</th> <th style="width: 20%;">十万</th> <th style="width: 20%;">万</th> </tr> <tr> <td style="height: 20px;"></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	億	千万	百万	十万	万						<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 20%;">億</th> <th style="width: 20%;">千万</th> <th style="width: 20%;">百万</th> <th style="width: 20%;">十万</th> <th style="width: 20%;">万</th> </tr> <tr> <td style="height: 20px;"></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	億	千万	百万	十万	万																					
億	千万	百万	十万	万																																	
億	千万	百万	十万	万																																	
万円		万円																																			
【万円未満四捨五入】		【万円未満四捨五入】																																			
(22)主たる家計支持者について(1つに○)	1. 父	2. 母	3. あなた自身	4. 配偶者	5. その他																																
(23)主たる家計支持者の年齢について(1つに○)	1. 44歳以下	2. 45～49歳	3. 50～54歳	4. 55～59歳	5. 60歳以上																																
(24)主たる家計支持者の職業について(1つに○)	1. 勤労者世帯	2. 個人営業世帯	3. 法人経営・自由業世帯	4. 農林・水産業世帯	5. その他の世帯																																
※分類が分からない場合は、調査票記入要領P.6(24)を参照してください。																																					

V. 大学での授業・学習について

(25) 今学期はどの程度履修登録をしていますか。また、卒業に必要な単位数のうち、前学期までにどれくらいを取得済みですか。
(それぞれ数値を記入)

今学期、履修登録している科目	科目	前学期までに取得済みの単位の比率	約	%
----------------	----	------------------	---	---

おおよその比率をお答えください。

(26) これまで受けた授業の形態について、全体が10割になるようお答えください。

講義 (100人以上)	講義 (50人以上100人未満)	講義 (50人未満)	演習・ゼミ	実験・実習
割	割	割	割	割

足して10割になるように、おおよその割合をお答えください。

(27) これまで受けた授業では、A. 次のようなことがどれくらいありましたか、またB. その頻度は適当だと思いますか。
(それぞれの項目のA. B. について、あてはまる番号1つに○)

項 目	A. どれくらいあったか				B. 頻度は適当か		
	ほとんど なかった	あまり なかった	ある程度 あった	よく あった	減らして ほしい	現状で よい	増やして ほしい
1. 授業内容の意義や必要性を十分に説明してくれる	1	2	3	4	1	2	3
2. 理解がしやすいように教え方が工夫されている	1	2	3	4	1	2	3
3. TA(ティーチングアシスタント)などによる補助的な指導がある	1	2	3	4	1	2	3
4. 小テストやレポートなどの中間課題が出される	1	2	3	4	1	2	3
5. 適切なコメントが付されて課題などの提出物が返却される	1	2	3	4	1	2	3
6. グループワークなど、学生が参加する機会がある	1	2	3	4	1	2	3
7. 主に英語でおこなわれる授業(語学は除く)	1	2	3	4	1	2	3

(28) あなた自身は、授業に対してどのように取り組んでいますか(それぞれの項目について、あてはまる番号1つに○)

項 目	まったくあて はまらない	あまりあては まらない	ある程度 あてはまる	よく あてはまる
1. 先生に質問したり、勉強の仕方を相談している	1	2	3	4
2. なるべく良い成績をとるようにしている	1	2	3	4
3. グループワークやディスカッションに積極的に参加している	1	2	3	4
4. 必要な予習や復習をして授業にのぞんでいる	1	2	3	4

(29) あなたの成績についてお答えください。(不可の割合は除いて、足して10割になるように記入してください)
(大学での評価方法にあわせて、①か②のいずれかに記入してください。)

※素点にて成績評価がなされている場合には、調査票記入要領P.6(29)を参照のうえ、記入してください。

	秀(S,A+)	優(A)	良(B)	可(C)		優(A)	良(B)	可(C)
①5段階 評価	割	割	割	割	②4段階 評価	割	割	割

おおよその割合をお答えください

おおよその割合をお答えください

(30) あなたの大学(学部・学科)では成績評価にGPA制度が導入されていますか。差し支えなければあなたのGPAを記入してください。

GPA制度が (1つに○)	1. 導入されている	あなたのGPA
	2. 導入されていない	

(31) 大学に入ってから次のような経験はありましたか。また、それは有用でしたか(それぞれの項目について、あてはまる番号1つに○)

項 目	経験した				経験して いない
	有用でない	どちらとも いえない	有用だった	非常に有用 だった	
1. 授業の履修方法やカリキュラムについての体系的なガイダンス	1	2	3	4	5
2. 大学での勉強の方法(スタディ・スキル)を学ぶ科目	1	2	3	4	5
3. 就職や将来のキャリアをテーマとした科目	1	2	3	4	5
4. インターンシップ(5日以上のもの)	1	2	3	4	5
5. 短期の海外留学(4ヶ月～1年程度)	1	2	3	4	5

(32) 次の点で大学の授業は、A.どのくらい役に立っていると思いますか。またB.自分の実力はどの程度あると思いますか(それぞれの項目のA.B.について、あてはまる番号1つずつ○)

項 目	A. これまでの授業経験は				B. 自分の実力は			
	役に立って いない	←	→	役立っている	不十分	←	→	十分
1. 専門分野に関する知識・理解	1	2	3	4	1	2	3	4
2. 文献・資料・データを収集する力	1	2	3	4	1	2	3	4
3. 論理的に文章を書く力	1	2	3	4	1	2	3	4
4. 人にわかりやすく話す力	1	2	3	4	1	2	3	4
5. 外国語の力	1	2	3	4	1	2	3	4
6. ものごとを分析的・批判的に考える力	1	2	3	4	1	2	3	4
7. 問題を見つけ、解決方法を考える力	1	2	3	4	1	2	3	4
8. 幅広い知識、もののみかた	1	2	3	4	1	2	3	4

(33) 卒業後に最も希望する進路は次のどれですか(A.B.それぞれについて、あてはまる番号1つずつ○)

項 目	1. 民間企業に就職	2. 公務員になる	3. 教師、看護師、保育士 などの専門職につく	4. 自営など1～3以外 の形で就業	5. 進学する(専攻科、 大学編入など)	6. その他	7. 決めていない (いなかった)
A.入学時の希望	1	2	3	4	5	6	7
B.現在の希望	1	2	3	4	5	6	7



ご協力ありがとうございました。

学校調査番号	※
整理番号	※

※JASSO使用欄(記入不要)

平成30年度学生生活調査 調査票(大学院)

～回答のお願い～

この調査は学生支援の充実を図ることを目的に実施しており、調査結果は国の教育政策実施のための資料として使用されるほか、学生生活に関する調査研究や報道関係の基礎的資料として活用されています。また、本機構が学生支援の充実のために意義のある調査研究であると判断した場合、回答内容を研究機関等に提供することがあります。いずれの場合にも、ご回答いただいた内容について、あなた個人の情報が特定されることはありません。

回答方法 ※設問は(1)～(25)まであります。

- ① 回答は、あてはまる番号を1つ選び○で囲んでください。都道府県名や金額などは回答欄に記入してください。
- ② 記入する際の筆記具は特に指定いたしません。なるべく黒の鉛筆またはボールペンをお使いください。
- ③ 別紙の調査票記入要領を参照して回答してください。
- ④ 記入後は、本調査票のみ封筒に入れて封をしてください。
- ⑤ 回答期限、提出先は学校の事務担当者の指示に従ってください。

I. あなたご自身について

(選択式の設問については、あてはまる番号を1つ選び、その番号を○で囲んでください)

(1) 修士課程・博士課程・専門職学位課程の在籍状況	1. 修士課程	2. 博士課程	3. 専門職学位課程
※分類が分からない場合は、調査票記入要領P.1(1)を参照してください。			
(2) 性別	1. 男性	2. 女性	
(3) 現在の学年	1. 1学年	2. 2学年	3. 3学年 4. 4学年
※留年や休学などは教えません。 ※一貫制博士課程の後期3年生の方は、博士課程の1年生と教えてください。			
(4)(a) 年齢	歳	(4)(b) 配偶者の有無	1. いる 2. いない
(5) 学科(専攻)の系統	1. 文・外国語・国際・文化系	2. 法・政・経・商・社系	3. 理・工系 4. 農系
	5. 薬系	6. 医・歯系	7. 看護・保健系 8. 教育・教員養成系
	9. 福祉系	10. 家政・生活系	11. 芸術系 12. スポーツ系
	13. その他	※分類が分からない場合は、調査票記入要領P.2(5)を参照してください。	
(6) 現在住んでいるところ	1. 自宅	2. 学生寮(寄宿舎)	3. 下宿・アパート・その他
※分類が分からない場合は、調査票記入要領P.2(6)を参照してください。			
(7) 学校の所在地	1. 東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県	2. 大阪府・京都府・兵庫県	3. その他の道、県
(8) 片道の通学時間	1. 0分～10分	2. 11分～20分	3. 21分～30分 4. 31分～60分
	5. 61分～90分	6. 91分～120分	7. 121分以上
(9) 現在の住所	(都・道・府・県)	(10) 入学前の住所	(都・道・府・県、又は海外)

II. 学生生活の状況について

(11) 授業期間中の典型的な1週間(7日間)の生活時間について(それぞれの項目について、あてはまる番号1つに○)

項 目	授業期間中の典型的な1週間(7日間)の生活時間(単位:時間)							
	0時間	1-5	6-10	11-15	16-20	21-25	26-30	31時間以上
1. 大学内での授業、研究、実習、実験	1	2	3	4	5	6	7	8
2. 大学外での学習、研究	1	2	3	4	5	6	7	8
3. ティーチングアシスタント(TA)	1	2	3	4	5	6	7	8
4. リサーチアシスタント(RA)	1	2	3	4	5	6	7	8
5. アルバイト・定職(TA・RAを除く)	1	2	3	4	5	6	7	8
6. 就職活動	1	2	3	4	5	6	7	8
7. 娯楽・交友	1	2	3	4	5	6	7	8

(12) 現在通っている大学について次の点で満足していますか(それぞれの項目について、あてはまる番号1つに○)

項 目	利用したことがある				利用したことがない
	不満	やや不満	やや満足	満足	
1. 図書館・自習室などの学習支援施設	1	2	3	4	5
2. キャリアセンターなどでの就職・進路への支援	1	2	3	4	5
3. 学習・生活面でのカウンセリング	1	2	3	4	5
4. 奨学金等の経済的支援に関する情報提供	1	2	3	4	5

(13) いまあなたには次のような不安や悩みがありますか(それぞれの項目について、あてはまる番号1つに○)

項 目	大いにある	少しある	あまりない	全くない
1. 授業の内容についていけない	1	2	3	4
2. 卒業後にやりたいことがみつからない	1	2	3	4
3. 希望の就職先や進学先へ行けるか不安だ	1	2	3	4
4. 経済的に勉強を続けることが難しい	1	2	3	4
5. 学内の友人関係の悩みがある	1	2	3	4

Ⅲ. あなたご自身の経済状況について

あなたご自身の1年間の経済状態についてお聞きします。(収入額・支出額を、それぞれ「年額」で記入してください。)

※千円未満は四捨五入、収入額・支出額がない場合は千円の位に「0」を記入してください。

※各項目については、調査票記入要領P.2(14)、P.4(15)をそれぞれ参照してください。

(14) 年間収入額(平成29年12月～平成30年11月)

(平成30年度入学者のみ平成30年4月～平成31年3月)

項 目	千	百	十	万	千	円
(a) 家庭からの給付 (家庭が支払った授業料を含む)						000 円
(b) 日本学生支援機構の貸与奨学金 (返済が必要)						000 円
奨学金 日本学生支援機構 以外の	貸与奨学金 (返済が必要)					000 円
	給付奨学金 (返済不要)					000 円
(c) 日本学術振興会の研究奨励金 〔博士課程のみ記入〕						000 円
(d) ティーチングアシスタント(TA)						000 円
(e) リサーチアシスタント(RA)						000 円
(f) アルバイト (d)と(e)を除く						000 円
(g) 定職収入						000 円
(h) その他 (貯蓄などを取り崩した金額や借入金など)						000 円
年間収入合計(ア)						000 円

(15) 年間支出額(平成29年12月～平成30年11月)

(平成30年度入学者のみ平成30年4月～平成31年3月)

項 目	千	百	十	万	千	円
(A) 授業料 (家庭が支払った授業料も含む)						000 円
(B) その他の学校納付金 (入学時の特別納付金を除く)						000 円
(C) 修学費 (教科書、図書代、文具購入費等含む)						000 円
(D) 課外活動費 (サークル活動、自治会活動など)						000 円
(E) 通学費						000 円
(F) 食費 (自宅通学者は外食費を記入)						000 円
(G) 住居・光熱費 (自宅通学者は0を記入)						000 円
(H) 保健衛生費 (診療代、薬代、理髪美容代など含む)						000 円
(I) 娯楽・嗜好費						000 円
(J) 通信費 (携帯電話、固定電話代など)						000 円
(K) その他の日常費						000 円
(L) 貯金						000 円
年間支出合計(イ)						000 円

年間収入合計(ア) = 年間支出合計(イ) になるようにしてください

(16) 家庭からの給付のみで 修学可能ですか (最近1年間の経験から)(1つ に○)	1. 修学可能	2. 修学不自由	3. 修学継続困難	4. 家庭からの給付はない
(17) 大学の授業料減免制度 を受けていますか (平成30年度前期分につ いて)(1つに○)	1. 全額を受けた	2. 半額以上全額未満を受けた	3. 半額未満を受けた	4. 申請したが不許可になった
(18) 日本学生支援機構の貸 与奨学金(返済が必要)を受け ていますか (最近1年間)(1つに○)	1. 第一種奨学金(無利子)を受けた	2. 第二種奨学金(有利子)を受けた	3. 第一種と第二種の併用を受けた	4. 申請したが不採用になった
	4. 申請したが不採用になった	5. 希望したが申請しなかった	6. 貸与奨学金は必要なかった	

質問(18)で5.と回答した方にお聞きします

(18-1)「希望したが申請しなかった」理由について(1つに○)

1. 成績基準が合わなかった	2. 収入基準が合わなかった
3. 申請手続きが複雑なのでやめた	4. 貸与のため卒業後の返還が大変なのでやめた
5. 日本学生支援機構以外の奨学金を受け ることができたのでやめた	6. その他

(19) 日本学生支援機構以外 の奨学金を受けていますか (最近1年間)(1つに○)	1. 給付奨学金を受けた	2. 貸与奨学金を受けた	3. 給付・貸与の両方を受けた
	4. 申請したが不採用になった	5. 申請しなかった	

(20)アルバイト(最近1年間) (それぞれの項目について1つに○)	【授業期間中】	1. まったくしなかった	2. 不定期的にした	3. 週に1~2日した	4. 週に3日以上した
	【長期休暇中】	1. まったくしなかった	2. 不定期的にした	3. 週に1~2日した	4. 週に3日以上した

↓ 質問(20)のいずれかで2.~4.と回答した方にお聞きします

(20-1)アルバイトの従事職種(主なものを1つに○)			
1. 塾講師・家庭教師など	2. 事務	3. 販売	4. 飲食業
5. 販売・飲食業を除く軽労働	6. 重労働・危険作業	7. 特殊技能	8. その他
※分類が分からない場合は、調査票記入要領P.5(20-1)を参照してください。			
(20-2)アルバイト収入の主な使い道(主な使い道1つに○)			
1. 授業料	2. その他の学校納付金	3. 修学費	4. 課外活動費
5. 通学費	6. 食費	7. 住居・光熱費	8. 保健衛生費
9. 娯楽・嗜好費	10. 通信費	11. その他の日常費	12. 貯金

IV. 家庭の状況について

(21)あなたの家庭の最近1年間(12ヶ月)の所得総額(税込額)について	<p>この項目は、この調査で特に重要な意味を持つものです。</p> <p>家族とよく連絡をとって、できるだけ正確な金額を記入してください。</p> <p>1) 所得の総額を、ア)主たる家計支持者 と イ)その他の家族の方に分けて、それぞれ記入してください。ただし、あなたの所得と、あなた以外の家族で学校に在学する方が得た所得は除いてください。</p> <p>2) あなたが結婚などにより独立した家庭を構成している場合は、その独立した家庭の所得総額を、ア)主たる家計支持者 と イ)その他の家族の方に分けて、それぞれ記入してください。</p> <p>3) 所得がない場合は「0」を記入してください。</p>																											
	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="text-align: center;">ア)主たる家計支持者</td> <td style="text-align: center;">イ)その他の方</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"> <table border="1" style="display: inline-table; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20px;">億</td> <td style="width: 20px;">千万</td> <td style="width: 20px;">百万</td> <td style="width: 20px;">十万</td> <td style="width: 20px;">万</td> </tr> <tr> <td style="height: 20px;"></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> </td> <td style="text-align: center;"> <table border="1" style="display: inline-table; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20px;">億</td> <td style="width: 20px;">千万</td> <td style="width: 20px;">百万</td> <td style="width: 20px;">十万</td> <td style="width: 20px;">万</td> </tr> <tr> <td style="height: 20px;"></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> </td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">万円</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">【万円未満四捨五入】</td> </tr> </table> <p>※合計する所得の種類については、調査票記入要領P.5(21)を参照してください。</p>	ア)主たる家計支持者	イ)その他の方	<table border="1" style="display: inline-table; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20px;">億</td> <td style="width: 20px;">千万</td> <td style="width: 20px;">百万</td> <td style="width: 20px;">十万</td> <td style="width: 20px;">万</td> </tr> <tr> <td style="height: 20px;"></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	億	千万	百万	十万	万						<table border="1" style="display: inline-table; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20px;">億</td> <td style="width: 20px;">千万</td> <td style="width: 20px;">百万</td> <td style="width: 20px;">十万</td> <td style="width: 20px;">万</td> </tr> <tr> <td style="height: 20px;"></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	億	千万	百万	十万	万						万円		【万円未満四捨五入】
ア)主たる家計支持者	イ)その他の方																											
<table border="1" style="display: inline-table; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20px;">億</td> <td style="width: 20px;">千万</td> <td style="width: 20px;">百万</td> <td style="width: 20px;">十万</td> <td style="width: 20px;">万</td> </tr> <tr> <td style="height: 20px;"></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	億	千万	百万	十万	万						<table border="1" style="display: inline-table; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20px;">億</td> <td style="width: 20px;">千万</td> <td style="width: 20px;">百万</td> <td style="width: 20px;">十万</td> <td style="width: 20px;">万</td> </tr> <tr> <td style="height: 20px;"></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	億	千万	百万	十万	万												
億	千万	百万	十万	万																								
億	千万	百万	十万	万																								
万円																												
【万円未満四捨五入】																												
(22)主たる家計支持者について(1つに○)	1. 父 2. 母 3. あなた自身 4. 配偶者 5. その他																											
(23)主たる家計支持者の年齢について(1つに○)	1. 44歳以下 2. 45~49歳 3. 50~54歳 4. 55~59歳 5. 60歳以上																											
(24)主たる家計支持者の職業について(1つに○)	1. 勤労者世帯 2. 個人営業世帯 3. 法人経営・自由業世帯 4. 農林・水産業世帯 5. その他の世帯																											
※分類が分からない場合は、調査票記入要領P.6(24)を参照してください。																												
(25)あなたは定職を持っていますか(1つに○)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">1. 定職を持っている</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">2. 定職を持っていない</td> </tr> </table>	1. 定職を持っている	2. 定職を持っていない																									
1. 定職を持っている	2. 定職を持っていない																											

↓ 質問(25)で1.と回答した方にお聞きします

(25-1)あなた自身の職業(1つに○)		
1. 勤労者世帯	2. 個人営業世帯	3. 法人経営・自由業世帯
4. 農林・水産業世帯	5. その他の世帯	
※分類が分からない場合は、調査票記入要領P.6(24)を参照してください。		



ご協力ありがとうございました。

調査票記入要領(大学・短期大学・大学院共通)

調査票は、本記入要領の内容をよく読んで、記入してください。

< はじめに ～学生のみなさまへ～ >

この調査は、全国の学生を対象として、学生生活の状況を把握し学生生活支援事業の充実を図るため、隔年で調査を実施しています。

みなさま一人ひとりのご回答が本調査、国の学生支援事業を支えています。
ご回答にご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

なお、調査は無記名となっていますので、安心してご回答ください。

● **この記入要領も見ながら、調査票を記入してください。**

ご家庭の年間所得や、学生生活に必要な支出などについて、ご自身で把握できない項目については、ご家族にご確認のうえ、ご記入をお願いいたします。

● **記入が終わりましたら、調査票が入っていた封筒に戻し、学校窓口へご提出ください。**

封(のりづけ等)をして、学校所定の窓口へご提出をお願いいたします。

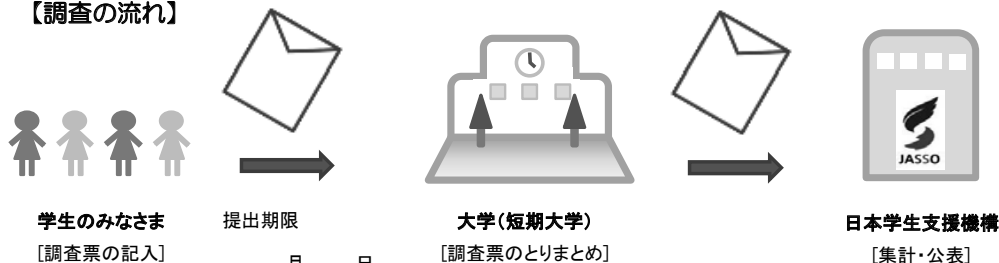
回答した内容は、どんな風に使われるの？

●ご回答内容は統計的に処理し、集計した調査結果は、国の施策や学術的な研究や報道等の基礎資料として幅広く利用されます。

●本機構が学生支援の充実のために意義ある調査研究であると判断した場合、回答内容を研究機関等に提供することがあります。

どちらの場合も、**あなた個人の情報が特定されることはありません。**

【調査の流れ】



提出期限
____月 ____日

提出窓口
()

※ 大学(短期大学)から指定された提出期限は守りましょう

○ 日本学生支援機構は、奨学金事業・留学生支援事業・学生生活支援事業を行う文部科学省所管の独立行政法人です。

本調査結果は、2020年3月ごろホームページにて公表を予定しております。

<https://www.jasso.go.jp>

I. あなたご自身について

(1) 修士課程・博士課程・専門職学位課程の在籍状況【大学院の方のみ】

1. 修士課程	修士課程、博士前期課程、一貫制博士課程の前期2年(医・歯・薬・獣医を除く)
2. 博士課程	博士後期課程、一貫制博士課程の後期3年、一貫制博士課程(医・歯・薬・獣医)
3. 専門職学位課程	法科、教職、会計、技術経営大学院などの専門職学位の取れる大学院課程

(5) 学科(専攻)の系統

1. 文・外国語・国際・文化系	文学、史学、哲学、教養学、外国語学、その他これに分類される学科および専攻
2. 法・政・経・商・社系	法学、政治学、経済学、商学、社会学、その他これに分類される学科および専攻
3. 理・工系	理学、工学、その他これに分類される学科および専攻
4. 農系	農学、農芸化学、農業工学、農業経済学、林学、林産学、獣医学、畜産学、水産学、その他これに分類される学科および専攻
5. 薬系 ※短大生の方は選択できません。	薬学、その他これに分類される学科および専攻
6. 医・歯系 ※短大生の方は選択できません。	医学、歯学の各学科および専攻
7. 看護・保健系	看護学、上記「薬系」「医・歯系」以外の保健学に分類される学科および専攻
8. 教育・教員養成系	教育学、教員養成を目的とする各学科および専攻
9. 福祉系	社会福祉学、介護福祉学、その他これに分類される学科および専攻
10. 家政・生活系	家政学、食物学、被服学、住居学、児童学、その他これに分類される学科および専攻
11. 芸術系	芸術、デザイン、音楽、その他これに分類される学科および専攻
12. スポーツ系	体育学、その他これに分類される学科および専攻
13. その他	1.～12. の分類に当てはまらない学科および専攻

(6) 現在住んでいるところ

1. 自宅	家族と同居している場合(持家、借家、社宅等は問いません)。
2. 学生寮(寄宿舎)	大学直営に限らず、大学が借り上げている宿舎や公益法人等が経営している寄宿舎に居住している場合。
3. 下宿・アパート・その他	間借、学生マンション、親戚・知人宅を含み、修学の為に家族と別居している場合。

(7) 学校の所在地

通学しているキャンパスが複数ある場合は、主に通学しているキャンパスの所在地のある地域を選択してください。

(8) 片道の通学時間

通学しているキャンパスが複数ある場合は、主に通学しているキャンパスまでの通学時間を選択してください。

II. 学生生活の状況について

(11) 授業期間中の典型的な1週間(7日間)の生活時間について

「4. 大学の授業以外の学習」(大学・短期大学)「2. 大学外での学習、研究」(大学院)には、ダブルスクール、英会話学校、通信講座や独学での学習などが該当します。

III. あなたご自身の経済状況について

(14) 年間収入額(平成29年12月～平成30年11月)(平成30年度入学者のみ平成30年4月～平成31年3月)

最近1年間の収入について、下記1・2のように算定し、その合計を記入してください。

1. 毎月定例的な収入は、最近1か月の12倍
2. 特定時期あるいは臨時的な収入は、最近1年間の実際の収入額
例: 「(a) 家庭からの給付」の場合
毎月30,000円ずつ仕送りや小遣いをもらい、
その他に授業料(1年分700,000円)をあなたを経由せず、家庭が支払った場合
(30,000円×12ヶ月)+700,000円 = 1,060,000円 → (a) に記入

ただし、平成30年度に入学された方については、30年4月から11月までの収入額は上記1・2のように算定し、30年12月から31年3月までの収入額は、推定した額とします。その合計額を記入してください。

※千円未満は四捨五入、収入額がない場合は千円の位に「0」を記入してください。

(14)年間収入額(続き)

大学・短期大学用		大学院用	
(a) 家庭からの給付	(a) 家庭からの給付	あなたが家庭から給付を受けた額(仕送り等)および家庭があなたに代わって直接支払った額(授業料・家賃等)をすべて合計した金額を記入してください。 ※入学時の特別納付金(入学金、入学初年度のみ支払う納付金)のために受けた給付は、除いてください。 ※自宅通学者の場合は、家庭内でとる食事代などや家庭から一般的に支出されるもので、あなたの分として区分することがむずかしい費用にあてたものは除いてください。	
奨学金	日本学生支援機構の貸与奨学金	日本学生支援機構の貸与奨学金	日本学生支援機構から奨学金の貸与を受けている方は、その年額を記入してください。 入学時特別増額は含めないでください。
	日本学生支援機構の給付奨学金		日本学生支援機構から給付される奨学金を受けている方は、その年額を記入してください。
	日本学生支援機構以外の貸与奨学金	(b) 日本学生支援機構以外の貸与奨学金	上記「日本学生支援機構の貸与奨学金」以外に、貸与制(返済が必要な)奨学金などを受けている方は、その年額を記入してください。 ※条件付で返還が免除される奨学金は「貸与制」ですので本欄に記入してください。
	日本学生支援機構以外の給付奨学金(右記①②)	日本学生支援機構以外の給付奨学金(右記①②)	上記「日本学生支援機構の給付奨学金」以外に、給付奨学金・奨励金を受けている方(下記①②)は、その年額を記入してください。 ①大学独自の学内奨学金など、大学から給付される奨学金を受けている方 ②地方公共団体、民間の奨学金事業団体などから給付奨学金・奨励金を受けている方
		(c) 日本学術振興会の研究奨励金	大学院博士課程に在籍する方で、日本学術振興会から特別研究員として研究奨励金を受けている方は、その年額を記入してください。
		(d) ティーチングアシスタント(TA)	大学に雇用され、セミナーの指導、実験・実習の指導、試験の実施、学部学生の講義等を担当し、その対価として支給される給付金のことです。
		(e) リサーチアシスタント(RA)	大学教員の研究補助者として雇用されるもので、学生の研究補助事業業務に対する対価として支給される給付金のことです。
(c) アルバイト	(f) アルバイト	次の「定職収入」にあてはまらないもので、学生生活を送るうえで、学費または生活費を補うために働いて得た報酬のことです。税込額を記入してください。	
(d) 定職収入	(g) 定職収入	「定職」とは、社会的に一定の職業を持ち、その収入によってあなたもしくは家族の生活の全部または大部分を継続的に賄っている場合です。あなたの定職収入額(税込)を記入してください。	
(e) その他	(h) その他	あなたの貯蓄などを取り崩して支出にあてた額や、あなたの資産から生ずる利子収入・配当収入などのうちあなたの分として充当した額、あなたが奨学金以外で借入れをして今回調査期間中の支出に充当した額など、上記の項目に該当しない全ての収入を記入してください。	

◎年間収入額の記入例(一人暮らしの大学院生の場合)

①家庭からの仕送り
月額15,000円×12ヶ月=180,000円

②家庭が支払った授業料等
年額550,000円

③家庭が支払った家賃
月額50,000円×12ヶ月=600,000円

①18万円+②55万円+③60万円=133万円

①授業期間中のアルバイト代
月額31,600円×12ヶ月=379,200円

②夏休みのアルバイト代
年額93,000円

①379,200円+②93,000円=472,200円
↓
四捨五入 472,000円

項目	千万	百万	十万	万	千	円
(a) 家庭からの給付 (家庭が支払った授業料を含む)		1	3	3	0	000円
奨学金	(b) 日本学生支援機構の貸与奨学金 (返済が必要)				0	000円
	貸与奨学金 (返済が必要)			3	6	000円
	日本学生支援機構以外の給付奨学金 (返済不要)				0	000円
(c) 日本学術振興会の研究奨励金 [博士課程のみ記入]					0	000円
(d) ティーチングアシスタント(TA)					0	000円
(e) リサーチアシスタント(RA)					0	000円
(f) アルバイト (d)と(e)を除く			4	7	2	000円
(g) 定職収入					0	000円
(h) その他 (貯蓄などを取り崩した金額や借入金など)					0	000円
年間収入合計(ア)		2	1	6	2	000円

奨学金
月額30,000円
×12ヶ月
=360,000円

(15) 年間支出額(平成29年12月～平成30年11月)(平成30年度入学者のみ平成30年4月～平成31年3月)

最近1ヵ月の支出を基準として、「(14)年間収入額」で説明した算定方法に準じて、「毎月定例的な支出」及び「特定時期あるいは臨時的な支出」を算定し、年間の支出額ができるだけ正確なものとなるようにしてください。

※千円未満は四捨五入、支出額がない場合は千円の位に「0」を記入してください。

(A) 授業料	平成30年度分の年額を記入してください。ただし、授業料を減額または免除されている方は、減免後、実際に納入する額を記入してください。また、全額免除された方は「千」の欄に「0」を記入してください。(減免申請中の場合は、所定の授業料の額を記入してください)
(B) その他の学校納付金	授業料以外に学校に納めなければならない費用で、施設整備費、実験実習費、後援会費などのことです。平成30年度分の年額を記入してください。なお、入学時の特別納付金(入学金、入学初年度のみ支払う納付金)は除いてください。
(C) 修学費	上記(A)、(B)以外に学習のために、あなたが支出した経費です。 例)教科書・参考図書・実習材料・文具類の購入費・実習旅行費・実習を受けるために加入した保険料など。
(D) 課外活動費	サークル活動や自治会活動など、正課教育以外のために支出した経費です。サークル会費・合宿費・遠征費・用具購入費・自治会費など、毎年納入するものをまとめて支払った場合も含まれます。ただし、あなたの個人的な趣味、娯楽、レクリエーションなどの費用は(I)に記入してください。
(E) 通学費	定期券代などの通学に要する経費です。自転車、バイクや自動車などのガソリン代、維持費なども含まれます。
(F) 食費	自宅通学者…外食した時の経費だけを記入してください。 自宅外通学者…外食、自炊のための材料費、食事付きの下宿などで下宿に食費として支払う額の合計額を記入してください。ただし、間食代やし好品のなものは除いてください。
(G) 住居・光熱費	自宅通学者…0を記入してください。 自宅外通学者…家主などに支払う部屋代(管理費、共益費など含む)、光熱水費、暖房費などの合計額を記入してください。なお、食事付きの下宿で食費などと一括して支払っている場合でも、住居・光熱水費分を算出し、記入してください。
(H) 保健衛生費	診療代・薬代・理髪美容代・化粧品代・銭湯代などです。
(I) 娯楽・し好費	趣味、レクリエーションなどの費用および酒、タバコ、間食代などです。
(J) 通信費	携帯電話、固定電話代、インターネットにかかる代金などです。
(K) その他の日常費	被服、帰省のための交通費、社会保険料(年金等)など上記(A)～(J)に含まれない日常的な経費を、すべて記入してください。

◎年間支出額の記入例(一人暮らしの大学院生の場合)

①施設費
年額10,000円
②実験・実習費など
年額5,000円
①10,000円+②5,000円=15,000円

①家賃
月額50,000円×12ヶ月=600,000円
②水道・光熱費
月額5,000円×12ヶ月=60,000円
①600,000円+②60,000円=660,000円

項目	千万	百万	十万	万	千	円
(A)授業料 (家庭が支払った授業料も含む)			5	3	6	000円
(B)その他の学校納付金 (入学時の特別納付金を除く)				1	5	000円
(C)修学費 (教科書、図書代、文具購入費等含む)				3	6	000円
(D)課外活動費 (サークル活動、自治会活動など)					2	000円
(E)通学費				3	6	000円
(F)食費 (自宅通学者は外食費を記入)			2	4	0	000円
(G)住居・光熱費 (自宅通学者は0を記入)			6	6	0	000円
(H)保健衛生費 (診療代、薬代、理髪美容代など含む)				2	3	000円
(I)娯楽・し好費			1	2	0	000円
(J)通信費 (携帯電話、固定電話代など)				8	4	000円
(K)その他の日常費			4	1	0	000円
(L)貯金					0	000円
年間支出合計(イ)		2	1	6	2	000円

年間収入合計(ア)＝年間支出合計(イ)になるようにしてください。

(18)【大学・短期大学の方は(18)(a)】日本学生支援機構の貸与奨学金(返済が必要)を受けていますか(最近1年間)
奨学金を受けたと回答(選択肢1～3に○)した場合、設問(14)－(b)の該当箇所も記入したことを確認してください。

【大学・短期大学の方のみ】(18)(b)日本学生支援機構の給付奨学金(返済不要)を受けていますか(最近1年間)
奨学金を受けたと回答(選択肢1に○)した場合、設問(14)－(b)の該当箇所も記入したことを確認してください。

(19)日本学生支援機構以外の奨学金を受けていますか(最近1年間)
奨学金を受けたと回答(選択肢1～3に○)した場合、設問(14)－(b)の該当箇所も記入したことを確認してください。

(20-1)アルバイトの従事職種

1. 塾講師・家庭教師など	塾・予備校講師、家庭教師、試験監督・採点など
2. 事務	一般事務、データ入力、パソコン入力事務、コールセンターなど
3. 販売	コンビニ・スーパー・デパート・量販店等での販売(レジ係を含む)、営業など
4. 飲食業	調理、接客、デリバリーなど
5. 販売・飲食業を除く軽労働	清掃、警備、包装、配布、新聞配達、製造、調査、イベントスタッフなど
6. 重労働・危険作業	土木工事、重量物運搬、引越スタッフ、倉庫整理、プレス作業、建築の現場作業、高所の屋外作業など
7. 特殊技能	通訳、翻訳、製図、プログラミング、インストラクターなど
8. その他	その他上記の職種にあてはまらない職種

IV. 家庭の状況について

(21)あなたの家庭の最近1年間(12ヶ月)の所得総額(税込額)について

次の①～④所得の種類別に調べた額を合計した金額を記入してください。なお、金額の計算にあたってはすべて税込額で行ってください。

①事業所得	個人が経営する農業・漁業・製造業・卸売業・小売業・サービス業などから生ずる所得でその年中の総収入から事業経営に必要な経費を控除した額。(農業、小売業などで生産品または商品を自家消費した場合は、時価に換算した見積額を所得に加算してください。)
②給与所得	俸給、給料、賃金、歳費、賞与など労務または役務の対価として受けた総額。
③資産所得	利子所得、配当所得、不動産所得など、資産から生ずる所得の総額。
④その他の所得	恩給、年金、家庭の内職収入および世帯員以外の者からの経済的援助などの総額とし、退職金、財産売却、相続などのため、臨時的に得た収入および借入金とは計算しないでください。

(24) 主たる家計支持者の職業について

職業区分	代表例	基準	詳細例
1 勤労者世帯	会社員 公務員	民間の会社、商店、病院、学校、工場などや官公庁または官公立の病院、学校などに勤め、事務的、技術的または管理的な仕事、および肉体・技能労働に従事している者。 ただし、「3」の法人経営者に分類される者は除く。	総務・人事・企画・広報などの一般事務員、営業、外交員、SE、プログラマー、販売店員、調理人、配膳人、清掃員、勤務医、看護師、薬剤師、学校長、教員、研究者、塾講師、図書館司書、保健師、検察官、裁判官、警察官、消防士、自衛官、駅長、電車運転士、車掌、自動車運転手、船員、工場長、新聞記者、機械技術者、電気技術者、配達員、守衛、警備員など
2 個人営業世帯	商人 職人 個人経営者	独立して商品の製造、加工、販売またはサービスを提供する業主、および独立して個人組織で商業、工業、サービス業などを経営してその企画管理に従事する者。 ただし、「3」の法人経営者に分類される者は除く。	商店主、飲食店主、理髪店主、工場主、大工、植木職、アパート等不動産経営者、個人タクシー運転手、個人トラック運転手、行商など
3 法人経営・自由業世帯	会社役員 市町村長 議員	法人組織(株式会社・有限会社など)で、家族でない使用人5人以上を雇用する会社、団体などの役員、国・地方公共団体で役員に相当する者、および議会議員。 なお、「1」の勤労者に分類される者でも、程度の高い企画管理、行政事務または監督事務に従事する者は含める。	社長、会長、会社役員、取締役、監査役、理事、銀行頭取、相談役、政務官、事務次官、局長、裁判所長官、教育委員長、知事、副知事、区長、市町村長、副市長、国務大臣、副大臣、国会議員、地方公共団体議会議員など
	開業医 弁護士 芸術家 スポーツ選手	個人で自分の専門の技能や知識を内容とする仕事に従事する者。 ただし、「1」の勤労者に分類される者は除く。	開業医、弁護士、司法書士、公認会計士、税理士、助産師、マッサージ師、僧侶、神職、作家、漫画家、画家、作曲家、評論家、コンサルタント、芸能人(歌手、俳優など)、モデル、職業スポーツ家(野球選手、競輪選手、力士など)など
4 水産・農業・林業世帯	農業・林業・海水産業従事者	独立して農作物の栽培・収穫、養蚕・家畜・家さん・その他の動物の飼育、林木の育成・伐採・搬出、水産動植物採取・養殖などの仕事に従事している者。	農耕作業業者、養蚕作業業者、養畜作業業者、伐木者、育林作業業者、漁船要員、漁労作業業者、海藻・貝採取作業業者、水産養殖作業業者など
5 その他の世帯	その他	「1」～「4」のいずれの職業区分にもあてはまらない者。	「1」～「4」のいずれの職業詳細例にもあてはまらない者。
	無職	職業のない者。	年金生活者、失業者、主婦など

V. 大学での授業・学習について 【大学・短期大学の方のみ（大学院の方はこの設問はありません）】

(29) あなたの成績についてお答えください。(不可の割合は除いて、足して10割になるように記入してください)

素点によって成績評価がなされている場合には、

90点以上 = 秀 (S,A+)、90点未満～80点以上 = 優 (A)、80点未満～70点以上 = 良 (B)、70点未満～60点以上 = 可 (C)

とみなして、「①5段階評価」の欄に、おおよその割合を記入してください。

学生生活調査実施検討委員会委員（敬称略・50音順、◎委員長）

沖 清豪 早稲田大学 文学学術院 教授

◎加藤 泰建 埼玉大学 名誉教授（元 埼玉大学理事・副学長）

小林 雅之 桜美林大学 総合研究機構 教授
（日本学生支援機構客員研究員）

濱中 義隆 国立教育政策研究所 高等教育研究部 副部長・総括研究官
（日本学生支援機構客員研究員）

望月 由起 日本大学 文理学部 教授

保田 時男 関西大学 社会学部 教授

平成 30 年度 学生生活調査結果

令和 2 年（2020 年）3 月 発行

独立行政法人 日本学生支援機構
学生生活部 学生支援企画課 学生支援調査係
〒135-8630 東京都江東区青海 2-2-1
TEL 03-5520-6169 FAX 03-5520-6048
URL <https://www.jasso.go.jp/>